

令和 6 事業年度 業務実績報告書

第 22 期（令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日まで）

令和 7 年 6 月

独立行政法人日本芸術文化振興会

目 次

令和6事業年度業務実績報告書

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	
1 文化芸術活動に対する援助	1
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演	11
(1) 伝統芸能の公開	22
(2) 現代舞台芸術の公演	49
(3) 青少年等を対象とした公演	58
(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等	65
(5) 快適な観劇環境の形成	81
(6) 広報・営業活動の充実	91
(7) 劇場施設の使用効率の向上等	103
(8) 日本博の運営・実施	106
3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	110
(1) 伝統芸能の伝承者の養成	115
(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	126
4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	135
(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	140
(2) 伝統芸能に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施	147
(3) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	150
(4) 現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施	152
II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	154
III 予算、収支計画及び資金計画	162
IV その他業務運営に関する重要事項	171

令和6事業年度評価報告書

はじめに

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	
1 文化芸術活動に対する援助	1
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演	
<1> 伝統芸能の公開	2
<2> 現代舞台芸術の公演	7
<3> 日本博の運営・実施	10
3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	
(1) 伝統芸能の伝承者の養成	11
(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	12
4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	
(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	13
(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	14
II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	15
III 予算、収支計画及び資金計画	16
IV その他業務運営に関する重要事項	17
評価委員会としての意見	18
独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会委員名簿	19
独立行政法人日本芸術文化振興会評議員会規則	20
独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会要項	22

令和 6 事業年度業務実績報告書

第 22 期（令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日まで）

令和 7 年 6 月

独立行政法人日本芸術文化振興会

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 文化芸術活動に対する援助

- (1) 助成金等の交付
- (2) 助成に関する情報等の収集及び提供
- (3) 芸術文化振興基金の多様な財源確保と管理運用

1 文化芸術活動に対する援助

《中期計画の概要》

1 文化芸術活動に対する援助

(1) 助成金の交付

ア 次に掲げる活動に対する助成金の交付

- ① 芸術家及び芸術に関する団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動
- ② 文化施設において行う活動又は文化財を保存・活用する活動で地域の文化の振興を目的とするもの
- ③ 文化に関する団体が行う公演及び展示、文化財である工芸技術の伝承者の養成、文化財の保存のための伝統的な技術又は技能の伝承者の養成その他の文化の振興又は普及を図るための活動

イ 助成金交付事務の効率化等

- ① 審査方法等選考に関する基準の策定及び事前公表
- ② 助成の成果等に対する評価等を踏まえた客観性・透明性の高い審査
- ③ 助成対象活動の実施状況の調査
- ④ 助成対象分野の現状等の調査
- ⑤ 地方公共団体との連携協力の推進
- ⑥ 情報通信技術等を活用した申請手続き等の合理化

ウ 文化芸術に対する国の支援施策や社会状況を踏まえた適切な組織体制の再編・強化、芸術団体等の自律的・持続的発展を目指す伴走型支援の在り方の検討

エ 専門人材を計画的に配置するなどアーツカウンシルとしての機能強化に向けた、地域版アーツカウンシル・他の独立行政法人等の専門機関・団体・文化庁等との連携の確立及び強化

(2) 助成に関する情報等の収集及び提供

文化芸術活動に関する情報の収集、データベース化やホームページを通じた提供の推進

(3) 芸術文化振興基金の多様な財源確保と安全かつ安定した管理運用

《年度計画の概要》

1 文化芸術活動に対する援助

(1) 助成金等の交付

ア 次に掲げる活動に対する芸術文化振興基金、文化芸術活動基盤強化基金、文化芸術振興費補助金及びその他外部資金による助成金の交付等による支援

- ① 芸術家及び芸術に関する団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動
- ② 文化施設において行う活動又は文化財を保存・活用する活動で地域の文化の振興を目的とするもの
- ③ 文化に関する団体が行う公演及び展示、文化財である工芸技術の伝承者の養成、文化財の保存のための伝統的な技術又は技能の伝承者の養成その他の文化の振興又は普及を図るための活動

イ 助成金交付事務の効率化等

- ① 審査基準の策定及び事前公表
- ② PD・PO、専門委員及び専門調査員等による公演等調査・評価・意見交換の実施・次年度のための審査への活用
- ③ 職員による会計調査、PD・PO による助成対象活動の公演等調査
公演等調査:600 件以上
- ④ 助成対象分野の現状等に関する調査分析及び海外における実態調査の実施
- ⑤ 地域の文化振興等の活動に関する地方公共団体との連携協力
- ⑥ 助成業務システムを活用した令和 7 年度助成対象活動の募集

ウ 文化芸術に対する国の支援施策や社会状況を踏まえた適切な組織体制の再編・強化、芸術団体等の自律的・持続的発展を目指す伴走型支援の推進

エ 文化庁との連携による PD・PO を活用した審査・評価・助成事業の在り方の検討、他の独立行政法人等の専門機関や団体等との連携、地域版アーツカウンシル等との連携を推進するための「アーツカウンシル・ネットワーク」や「情報プラットフォーム」の活用

(2) 助成に関する情報等の収集及び提供

ア 文化芸術活動への支援に関する情報の収集・提供

イ 文化芸術活動に関する基礎的な情報の収集、データベースの構築

ウ 振興会の助成事業に関するホームページ上の情報の充実、ホームページ等を通じた成果の発信

エ 助成対象活動の募集に関する情報提供

オ オンラインやメールフォーム等多様な方法による、助成金に関する応募相談の受付

(3) 芸術文化振興基金の多様な財源確保と安全かつ安定した管理運用

自己評価	A
自己評価の根拠	以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を上回る成果を得られたため、自己評価はA評価とする。 ・公演等調査の件数について数値目標を大きく上回った。 ・PD・POによる芸術団体等への助言に対する満足度について、令和5年度に芸術団体等に対して行ったアンケート調査実績を踏まえて令和6年度に調査項目を検討の上、再調査の実施により実績を確認し、令和7年度計画より目標値を設定した。 ・芸術文化振興基金、文化芸術振興費補助金、文化芸術活動基盤強化基金、及び民間団体からの寄附金等外部資金による助成金の交付等を年度計画に定められたとおり実施した。 ・特に、文化芸術活動基盤強化基金事業として、令和5年度補正予算による助成を的確に実施した。 ・新たに助成事業の概況や事例紹介、年間助成実績データ等を掲載した令和5年度助成事業年次報告書を発行、助成事業の成果を可視化し、更なる質の向上に資する取り組みを行った。
数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）	公演等調査件数:811件/600件（135.2%）
主要な業務実績	(1) 助成金等の交付 ・芸術文化振興基金による助成金：交付件数457件、助成金交付額739,267千円 ・文化芸術活動基盤強化基金(補助金)による助成金(委託事業を含む)：採択件数42件、助成金交付予定額5,842,065千円（※令和6～8年度の3年間の事業に対する交付予定額） ・文化芸術振興費補助金による助成金：交付件数459件、助成金交付額6,416,807千円 ・文化芸術振興費補助金による助成金(委託事業)：交付件数172件、助成金交付額3,890,413千円 ・寄附金等外部資金による助成金：採択件数3件、助成金交付額257,711千円 (2) 助成に関する情報等の収集及び提供 ・ホームページアクセス件数：120,267件（うち芸術文化振興基金ホームページ：74,622件、劇場・音楽堂等機能強化推進事業ホームページ：45,645件） (3) 芸術文化振興基金の多様な財源確保と管理運用 ・基金運用益：208,211千円 ・芸術文化振興基金への寄附：84件401,435千円

(1) 助成金等の交付

ア 助成金等の交付

① 令和6年度助成金の交付実績

(a) 芸術文化振興基金による助成

助成対象分野		応募 件数(件)	採択 件数(件)	助成金交付 予定額(千円)	交付 件数(件)	助成金 交付額(千 円)
芸術創造 普及活動	現代舞台芸術創造普及活動	543	199	407,500	185	387,240
	音楽	(149)	(53)	(122,500)	(51)	(118,240)
	舞踊	(79)	(33)	(60,000)	(26)	(49,000)
	演劇	(315)	(113)	(225,000)	(108)	(220,000)
	伝統芸能・大衆芸能の公開活動	64	34	47,800	34	47,800
	美術・メディア芸術等の創造普及活動	21	8	9,500	8	9,141
	多分野共同等芸術創造活動	34	10	13,500	8	9,500
	国内映画祭等の活動	68	42	47,600	40	42,000
	映画祭	(47)	(32)	(43,100)	(30)	(37,500)
	日本映画上映活動	(21)	(10)	(4,500)	(10)	(4,500)
	小計	730	293	525,900	275	495,681
地域文化 振興活動	地域文化施設公演・展示活動	198	98	170,500	94	160,077
	文化会館公演	(82)	(55)	(74,500)	(55)	(74,500)
	美術館等展示	(116)	(43)	(96,000)	(39)	(85,577)
	歴史的集落・町並み、文化的景観保存活用活動	12	10	7,200	10	7,166
	民俗文化財の保存活用活動	18	13	10,100	13	10,100
	小計	228	121	187,800	117	177,343
文化振興普及 団体活動	アマチュア等の文化団体活動	191	62	61,200	61	60,200
	伝統工芸技術・文化財保存技術の保存伝承等活動	7	4	6,500	4	6,043
	小計	198	66	67,700	65	66,243
合計		1,156	480	781,400	457	739,267

(b) 文化芸術活動基盤強化基金による助成(補助金)

- 文化庁令和5年度補正予算において措置された補助金により、クリエイター・アーティスト等の育成及び文化施設の高付加価値化のために行う事業を実施するため、振興会に文化芸術活動基盤強化基金が設立された。本基金を活用して「クリエイター等育成・文化施設高付加価値化支援事業」を実施し、次代を担うクリエイター・アーティスト等の挑戦・育成を支援するとともに、その活躍・発信の場である文化施設の機能強化について、弾力的かつ複数年度にわたって支援を行う。

助成対象分野		応募 件数(件)	採択 件数(件)	助成金交付 予定額(千円)
クリエイター・アーティスト 等育成事業 (文化芸術活動 基盤強化基金) 補助型・委託型	舞台芸術(補助型)	62	12	1,750,000
	音楽	(13)	(4)	(720,000)
	舞踊	(12)	(3)	(350,000)
	演劇	(37)	(5)	(680,000)
	伝統芸能・大衆芸能	10	3	540,000
	舞台芸術等(委託型)	2	1	94,000
	メディア芸術	補助型	18	230,000
		委託型	6	982,000
	現代アート	補助型	7	100,000
		委託型	2	178,000
	分野横断的新領域(補助型)	13	4	610,000
	小計	120	29	4,484,000

文化施設による 高付加価値化 機能強化支援事業	博物館・美術館等	21	4	847,000
	劇場・音楽堂	42	9	511,065
	小計	63	13	1,358,065
合計		183	42	5,842,065

※令和6～8年度の3年間の事業に対する交付予定額

(c) 文化芸術振興費補助金による助成

助成対象分野		応募 件数(件)	採択 件数(件)	助成金交付 予定額(千円)	交付 件数(件)	助成金 交付額(千円)
舞台芸術等総合支援事業 (公演創造活動)	複数年計画支援	42	28	1,762,284	28	1,760,566
	音楽	(20)	(14)	(1,129,470)	14	1,129,470
	舞踊	(8)	(4)	(324,018)	4	322,633
	演劇	(7)	(6)	(223,724)	6	223,724
	伝統芸能	(3)	(2)	(29,342)	2	29,009
	大衆芸能	(4)	(2)	(55,730)	2	55,730
	公演事業支援(一般枠)	375	150	1,222,638	147	1,185,128
	音楽	(115)	(40)	(499,447)	40	499,447
	舞踊	(42)	(18)	(220,982)	18	206,091
	演劇	(152)	(59)	(353,257)	56	332,790
	伝統芸能	(43)	(24)	(77,658)	24	77,139
	大衆芸能	(23)	(9)	(71,294)	9	69,661
	公演事業支援(ステップアップ枠)	35	8	33,078	8	33,078
	音楽	(8)	(1)	(2,083)	1	2,083
	舞踊	(4)	(0)	(0)	0	0
	演劇	(15)	(6)	(30,019)	6	30,019
	伝統芸能	(3)	(0)	(0)	0	0
	大衆芸能	(5)	(1)	(976)	976	976
	小計	452	186	3,018,000	183	2,978,772
舞台芸術等総合支援事業 (国際芸術交流)	海外公演	49	24	313,554	21	258,509
	国際共同制作公演(海外公演)	7	3	15,755	3	15,755
	国際共同制作公演(国内公演)	6	3	13,691	3	13,691
	国際フェスティバル	6	3	100,000	3	100,000
	小計	68	33	443,000	30	387,955
舞台芸術等総合支援事業 (全国キャラバン)	全国規模の団体による公演等実施事業	14	10	520,000	10	513,509
	収益化に向けたデジタルアーカイブ支援	1	1	100,000	1	99,973
	小計	15	11	620,000	11	613,482
舞台芸術等総合支援事業 (芸術家等人材育成)	芸術家等人材育成	61	51	461,000	49	449,406
	小計	61	51	461,000	49	449,406
劇場・音楽堂等 機能強化推進事業	劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業	23	15	702,000	15	693,058
	地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	239	119	663,700	119	618,687
	共同制作支援事業	2	2	105,000	2	104,386
	劇場・音楽堂等間ネットワーク強化事業	15	7	50,842	7	50,527
	小計	279	143	1,521,542	143	1,466,658
映画製作への支援	劇映画	115	30	454,544	28	431,474
	記録映画	30	13	66,630	13	66,590
	アニメーション映画	7	3	43,870	2	22,470
	小計	152	46	565,044	43	520,534
合計		1,027	470	6,628,586	459	6,416,807

(d) 文化芸術振興費補助金による委託事業

- ・「学校巡回公演」：振興会が選定した 170 の公演団体による巡回先 1,672 校を決定した(再委託経費は 3,791,904 千円)。
- ・「統括団体による高校・過疎地域等学校派遣モデル事業」：振興会が 2 件の統括団体を選定し、205 校(うち 71 校は複数の学校による合同開催)に対する実演芸術公演の鑑賞機会の提供を決定した(再委託経費は 98,509 千円)。

(e) 寄附金等外部資金による助成

- ・我が国のオーケストラ界を活性化することを目的に民間から寄せられた特定寄附金により、オーケストラ活動の底上げ及びオーケストラの将来の財産となる取組を支援する「新たなオーケストラ支援事業」について、令和 6 年度分の交付決定を行った(3 件、交付決定額 257,711 千円)。

イ 助成金交付事務の効率化等

① PD・PO・専門委員・調査員による公演等調査の結果を踏まえた評価、助成対象団体との意見交換の実施

《前年度(令和 5 年度)助成対象活動の事後評価の実施》

- ・文化芸術振興費補助金による各事業(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動・国際芸術交流)、劇場・音楽堂等機能強化推進事業)について、以下の通り前年度助成対象活動についての事後評価を実施した。
- ・評価結果を団体に伝達するとともに、意見交換・助言等を行う意見交換会を実施した。

＜事後評価の経過＞

令和 5 年度中	専門委員、専門調査員、PD・PO 及び文化芸術活動調査員による公演等調査の実施。 ・舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動) すべての活動 ・舞台芸術等総合支援事業(国際芸術交流) 国際共同制作公演(国内公演)及び国際フェスティバルの 2 区分 ・劇場・音楽堂等機能強化推進事業 劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業及び共同制作支援事業は全助成対象団体活動 ・地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業は抽出された 18 施設を対象とする。
6 月上旬～中旬	第 3 回専門委員会(書面審議)開催。 事後評価の方法及び評価基準等について審議・「事後評価の進め方について」決定。 PD・PO により各活動の評価(案)を作成。
6 月下旬～7 月中旬	各専門委員による書面審査を実施。
7 月上旬～下旬	第 4 回専門委員会開催。 素案を基に合議により評価を実施。
8 月	舞台芸術・美術等部会(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動・国際芸術交流))。 地域文化活動部会(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)開催。 各専門委員会の評価の結果について審議・決定。
8 月～9 月	評価対象団体に対し、PD・PO 及び事務局より評価結果を伝達するとともに、意見交換、助言等を行った。
9 月 18 日	第 66 回運営委員会において、事後評価の結果を報告。

《意見交換会》

区分	実績	前年度実績
団体数	573 件	349 件
延べ実施回数	593 件	353 件

- ・舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援・国際芸術交流(国内公演のみ))、及び劇場・音楽堂等機能強化推進事業の令和 5 年度採択活動について、8 月～10 月意見交換会(事後評価の伝達、意見交換、助言)を実施した。
- ・舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動、国際芸術交流)、劇場・音楽堂等機能強化推進事業、及び舞台芸術・美術等の創造普及活動について、令和 6 年度応募団体のうち希望のあった団体に対し、採択・不採択理由等を伝達する、あるいは助言を行うために、意見交換会を実施した。
- ・舞台芸術等総合支援事業(全国キャラバン、芸術家等人材育成)について、令和 6 年度採択団体に対し、助言等を行うため意見交換会を実施した。
- ・舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援・国際芸術交流(国内公演のみ))、及び劇場・音楽堂等機能強化推進事業の令和 5 年度採択活動について、8 月～10 月意見交換会(事後評価の伝達、意見交換、助言)を実施した。
- ・日本映画製作支援事業について、過去に複数回助成実績がある団体や有識者、関係団体等に対し、今後の助成制度のあり方についてのヒアリングを行うため、意見交換会を実施した。
- ・新たなオーケストラ支援事業について、採択した 3 団体と意見交換を行い、活動に関する助言等を行った。また、6/14 には令和 5 年度に行った活動に関する事業報告会を実施し、審査を行った専門委員、寄附者、振興会職員等が出席した。

- ・クリエイター等育成・文化施設高付加価値化支援事業について、採択団体と意見交換を行い、活動内容の相談等を行った。

② 会計調査、公演等調査の実施

《会計調査》

区分	実績	前年度実績
団体数	69 件	89 件
助成対象活動数	98 件	168 件

- ・助成金に係る会計処理が適切であったかどうかを確認するため、基金部事務職員による会計調査を実施した。

《公演等調査》

区分	実績	年度計画	達成率
助成対象活動数	811 件	600 件	135.2%

- ・芸術文化振興基金及び文化芸術振興費補助金における助成対象活動について、専門委員、PD・PO 等による公演等調査・現状の確認等を行った。

③ PD・PO による助言に対する満足度

- ・中期目標期間の開始当初、PD・PO による芸術団体等への助言に対する満足度の目標値設定にあたり参照できるデータがなかったため、令和5・6年度は目標値を設定せず、令和5年度に文化芸術団体に対して行ったアンケート調査実績を踏まえて令和6年度に調査項目を再検討の上、調査の実施により実績を確認し、令和7年度計画より目標値を設定した。

《意見交換会後アンケート》

配布数(A)	回答数(B)	満足数(C)	回収率 (B/A)	満足度 (C/B)
178	137	100	77.0%	73.0%

- ・PD・PO との意見交換会を実施した団体等を対象に行ったアンケートにおいて、「PD・PO の助言が団体の活動や運営面等の改善・発展につながっていくと思いますか」という設問に対し、最も高い満足度（「つながっていくと思う」）を回答した団体等の数・割合を、それぞれ満足数・満足度とした。

④ 調査研究の実施

- ・「シンガポールにおける文化芸術活動に対する支援をはじめとする文化振興方策等に関する実施調査」について、令和5年度から継続して実施した調査結果を報告書に取りまとめた。
- ・「芸術鑑賞の習慣化についての実態調査」について、鑑賞者の分野や特性、習慣化に影響する要因を明らかにするためのWeb アンケート調査を行った。
- ・助成事業の改善に向けた検討に資するよう、助成対象活動の応募団体に対して例年実施しているアンケート項目の見直しを行い、11月～12月まで「文化芸術活動に対する助成事業に関するアンケート」を実施し、集計結果を振興会ホームページで公開した。
- ・「令和7年度文化芸術活動の動向把握に向けた基礎資料収集事業」の企画提案要領を1/22に公開し、2/10～2/18に提案受付を行った。（応募件数：17件、採択件数：15件、採択額計：80,000千円）

⑤ 地域の文化振興等の活動に関する地方公共団体との連携協力

- ・都道府県・政令指定都市の担当部局に令和7年度助成事業募集開始の情報をメール配信により提供した。
- ・公益社団法人全国公立文化施設協会開催の研究大会に文化施設PD・POが出席し、全国の文化施設担当者と意見交換を行った。

⑥ 令和7年度助成対象活動の募集

(a) 令和7年度助成対象活動の募集

- ・芸術文化振興基金及び文化芸術振興費補助金による令和7年度助成対象活動の募集案内及び審査基準を10/1に公開し、応募相談期間を経て、11/1～15に電子申請方式による受付を行った。

(b) 令和7年度助成対象活動の採択状況

i. 芸術文化振興基金による助成

助成対象分野		応募件数(件)	採択件数(件)	助成金交付 予定額(千円)
芸術創造普及活動	現代舞台芸術創造普及活動	524	171	395,000

	音楽	(129)	(48)	(117,000)
	舞踊	(69)	(25)	(57,000)
	演劇	(326)	(98)	(221,000)
	伝統芸能・大衆芸能の公開活動	83	26	49,000
	美術・メディア芸術等の創造普及活動	26	7	10,000
	超域的芸術創造活動	28	7	13,000
	国内映画祭等の活動	50	27	41,000
	映画祭	(37)	(19)	(36,000)
	日本映画上映活動	(13)	(8)	(5,000)
	小計	711	238	508,000
地域文化振興活動	地域文化施設公演・展示活動	187	88	154,500
	文化会館公演	(93)	(52)	(71,000)
	美術館等展示	(94)	(36)	(83,500)
	歴史的集落・町並み、文化的景観保存活用活動	10	7	4,900
	民俗文化財の保存活用活動	19	12	10,100
	小計	216	107	169,500
文化振興普及団体活動	アマチュア等の文化団体活動	180	62	58,400
	伝統工芸技術・文化財保存技術の保存伝承等活動	5	3	3,000
	小計	185	65	61,400
合計		1,112	410	738,900

ii. 文化芸術活動基盤強化基金(補助金)による助成

- ・令和6年度補正予算による「クリエイター等支援事業(育成プログラム構築・実践)」について、令和7年4月上旬に募集を開始するため、募集案内や要望書様式の作成などの準備を進めた。

iii 文化芸術振興費補助金による助成

助成対象分野			応募件数 (件)	採択件数 (件)	助成金交付 予定額(千円)
舞台芸術等 総合支援事業	公演創造活動	複数年計画支援	44	30	1,854,760
		公演事業支援(一般枠)	323	135	1,074,649
		公演事業支援(ステップアップ枠)	29	8	37,591
		小計	396	173	2,967,000
	国際芸術交流	海外公演	43	27	270,719
		国際共同制作公演(海外公演)	6	3	22,212
		国際共同制作公演(国内公演)	5	2	19,893
		国際フェスティバル	7	5	130,176
		小計	61	37	443,000
	芸術家等人材育成	芸術家等人材育成	60	50	414,000
		小計	60	51	461,000
	全国キャラバン	全国キャラバン	15	9	540,000
小計		15	9	540,000	
劇場・音楽堂等機能強化推進事業		劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業	15	15	680,940
		地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	199	119	657,302
		共同制作支援事業	3	2	58,337
		劇場・音楽堂等間ネットワーク強化事業	20	6	60,172
		小計	237	142	1,456,751
日本映画製作支援事業		劇映画	34	10	154,459
		記録映画	24	4	25,190
		アニメーション映画	5	2	25,610
		小計	63	16	205,259
合計			832	428	6,073,010

iii. 文化芸術振興費補助金による委託事業

- ・「学校巡回公演」について、527 団体の応募団体より 164 団体を採択した(委託業者との契約における再委託金額総額は 4,100,900 千円)。

(c) 令和 7 年度助成対象活動の採択に係る審査の状況

- ・運営委員会、4 部会及び 16 専門委員会において、以下のとおり審査を行った。

<委員会・部会・専門委員会の開催実績>

区分	開催実績
運営委員会	第 66 回 9/18、第 67 回 1/20、第 68 回 3/17
舞台芸術・美術等部会	2 回開催 1 月(書面)、3 月
音楽専門委員会	3 回開催 12 月、2 月(第 1 分科会 1 回、第 2 分科会 1 回)
舞踊専門委員会	2 回開催 12 月、2 月
演劇専門委員会	3 回開催 12 月、2 月(第 1 分科会 1 回、第 2 分科会 1 回)
伝統芸能・大衆芸能専門委員会	3 回開催 12 月、2 月(伝統芸能分科会 1 回、大衆芸能分科会 1 回)
国際交流・超域的活動専門委員会	3 回開催 12 月、2 月(国際分科会 1 回、超域的活動分科会 1 回)
全国キャラバン専門委員会	2 回開催 12 月、1 月
芸術家等人材育成専門委員会	2 回開催 12 月、2 月
映像芸術・美術部会	2 回開催 12 月、2 月
美術専門委員会	2 回開催 12 月、2 月
劇映画専門委員会	1 回開催 3 月
記録映画専門委員会	2 回開催 12 月、2 月
アニメーション映画専門委員会	2 回開催 12 月、2 月
映画祭等専門委員会	2 回開催 12 月、2 月
地域文化活動部会	1 回開催 3 月
文化施設公演活動等専門委員会	4 回開催 12 月、2 月(第一分科会、第二分科会)
文化施設展示活動専門委員会	2 回開催 12 月、2 月
文化団体活動専門委員会	2 回開催 12 月、2 月
文化財部会	1 回開催 3 月
文化財保存活用専門委員会	2 回開催 12 月、2 月

<審査の経過>

9/18	第 66 回運営委員会 7 年度芸術文化振興基金及び文化芸術振興費補助金による助成対象活動募集案内の内容、審査基準等を了承。
11/1～15	7 年度助成事業 応募受付期間
12 月上旬～下旬	専門委員会 書面及び合議審査に先立ち、審査の方法等について審議・決定。
12 月下旬～2 月上旬	各専門委員による書面審査。
1/20	第 67 回運営委員会 応募状況についての報告、助成金の分野別配分予算案について決定。
1 月下旬～2 月下旬	専門委員会 書面審査の結果を踏まえた合議審査を行い、助成対象活動を選定。
3 月上旬	部会 助成対象活動及び助成金交付予定額を審議。
3/17	第 68 回運営委員会 助成対象活動及び助成金交付予定額を決定し、理事長に答申。

ウ 芸術団体等の自律的・持続的発展を目指す伴走型支援の推進

《制度検証推進部会》

- ・芸術文化振興基金運営委員会特別部会「アーツカウンシル機能の今後の方向性について(報告書)」(令和 3 年 11 月)を踏まえ、アーツカウンシル機能強化を目的とした「助成金の交付に係る中長期的な運営方針」「その他助成に関する重要事項」などを、専門的・集中的に審議検討した。

<開催実績>

回次	日程	内容
第 1 回	6/20	芸術文化振興基金による助成事業の令和 7 年度募集に向けた制度の検証・見直

第2回	7/16	しについて議論。
第3回	7/26	
第4回	8/30	第3回までの議論の結果を踏まえ、芸術文化振興基金による助成事業の令和7年度募集に向けた制度の検証・見直しについて、部会としての審議内容を取りまとめ。令和5年度助成事業に係る成果の把握と検証状況報告。

《文化芸術活動基盤強化基金による助成事業等における伴走型支援》

- ・文化芸術活動基盤強化基金による助成事業等(クリエイター等育成・文化施設高付加価値化支援事業)において、事務局が採択団体と面談等によって進捗管理を行うほか、各分野の有識者等である当該事業のアドバイザーを通じて、採択団体との面談やアドバイス、現地視察、各種サポート等を実施するなど、事業の進捗にあわせた伴走型支援を実施した。

・エ 地域におけるアーツカウンシル等との連携等

《地域版アーツカウンシル等との連携推進》

- ・全国に所在するアーツカウンシル機能を有する組織の連携強化を図る「アーツカウンシル・ネットワーク」のミーティングを開催した。

＜開催実績＞

回次	日程	会場	内容
第1回	7/23	伝統芸能情報館 レクチャー室・オンライン併用	アーツカウンシル・ネットワーク規約改正の議決を行い、アーツカウンシル・ネットワークの役割明確化を目的としたグループワークを実施。
第2回	9/30	静岡コンベンションアーツセンター グランシップ・オンライン併用	会合をホストした静岡県のアーツカウンシルや県としての取組をもとにした意見交換、外部有識者をファシリテーターとしたアーツカウンシル・ネットワーク役割の明確化を目的としたパネルトーク等を実施。
第3回	1/21	オンライン	令和7年度の次期幹事団体を選出。第1・2回の意見交換内容をもとに、次年度のアーツカウンシル・ネットワークの活動等を決定。

(2) 助成に関する情報等の収集及び提供

ア 文化芸術活動への支援に関する情報の収集・提供

- ・助成事業を実施して以来初めてとなる、助成事業ごとの概況や事例紹介、年間の助成実績データ集を掲載した令和5年度助成事業年次報告書を発行、助成事業の成果を可視化し、更なる質の向上に資する取り組みを行った。

イ 文化芸術活動に関する基礎的な情報の収集、データベースの構築

- ・「助成事業データ(令和3年度・令和4年度)の整形等業務」について、助成対象活動の審査等に活用するため、各年度の助成事業で採択した活動に関するデータの整理・蓄積を行った。

ウ 振興会の助成事業に関するホームページ上の情報の充実、成果の発信

① ホームページ上の情報の充実

- ・助成事業に応募した者に任意で協力を求めた「文化芸術活動に対する助成事業に関するアンケート」の集計結果を振興会ホームページに掲載した(3/24)。
- ・令和5年度の助成事業を紹介する年次報告書をホームページに掲載した(3/25)。

《ホームページアクセス件数》

区分	件数	前年度実績
芸術文化振興基金 HP	74,622 件	74,464 件
劇場音楽堂等機能強化推進事業 HP	45,645 件	56,456 件
合計	120,267 件	130,920 件

※Google Analytics の仕様変更により、R5 年度から集計方法がユーザー数に変更されている(4 年度まではセッション数)。

エ 助成対象活動の募集に関する情報提供

① 募集情報のホームページへの掲載

- ・令和6年度募集からの変更点について、募集案内の公開(10/1)に先行し方向性をホームページで周知した。
- ・「学校巡回公演」について、令和7年度の実施団体募集(9/5)をホームページで周知した。
- ・「学校巡回公演」について、令和7年度の実施校募集(12/16)をホームページで周知した。
- ・振興会ホームページに令和7年度助成事業募集に関する特設サイトを開設した。募集案内を掲載するとともに審査基準の公表を実施した(10/1)。

② その他地方公共団体等への情報提供

- ・公益社団法人全国公立文化施設協会の協力により同協会のメールマガジンに令和 7 年度助成事業募集開始の情報を掲載し、全国の文化施設に広報を行った。
- ・都道府県・政令指定都市の担当部局に令和 7 年度助成事業募集開始の情報をメール配信により提供した。

オ 応募相談の受付

区分	実績	前年度実績
団体数	1,492 件	2,041 件

- ・オンラインや電話、問い合わせフォーム、メール等様々な方法で応募相談を積極的に行った。

(3) 芸術文化振興基金の多様な財源確保と管理運用

ア 基金の管理運用

運用益 208,211 千円

- ・基金の管理運用については、安全性に留意するとともに安定した収益の確保によって継続的な助成が可能となるよう、資金内容及び経済情勢の正確な把握に努めた。
- ・芸術文化振興基金運用計画に基づき、金融商品・運用先等の検討を行うことにより、必要とする運用益が得られるよう、リスクとリターンを考慮しながら引き続き効率的な管理運用に努めた。

イ 寄附金等多様な財源の確保

《寄附の受入》

区分	実績		前年度実績		対前年度増減
	件数	金額	件数	金額	金額
芸術文化振興基金	84 件	401,435 千円	46 件	500,858 千円	△99,423 千円

◇令和 6 年度においても引き続きホームページ等による周知を実施し、寄附の受入の促進を図った。

◇上記の寄附受入の他に、民間団体からの特定寄附金により、令和 5 年度から 3 年間の継続的な支援事業として「新たなオーケストラ支援事業」を実施し、6 年度には 257,711 千円の交付決定を行った。

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(1) 伝統芸能の公開

ア 主催公演の実施

イ 演目の拡充

ウ 日本博に関連した公演等の企画・実施

(2) 現代舞台芸術の公演

(3) 青少年等を対象とした公演

(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等

(5) 快適な観劇環境の形成

(6) 広報・営業活動の充実

(7) 劇場施設の使用効率の向上等

(8) 日本博の運営・実施

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

自己評定	B
自己評定の根拠	以下に示すとおり、年度計画における所期の目標をおおむね達成しているため、自己評定はB評定とする。当初、本項目については伝統芸能分野の入場者数等が目標値を下回ったことからC評定としていたが、その後の評価委員会において、国立劇場等の再整備期間中は国立劇場及び国立演芸場で実施してきた公演を代替施設で実施する影響が考慮されるとともに、その他の業務実績における成果が認められ、B評定が適切との判断が示された。この評価を受け、改めて再検討した結果、自己評定としてもB評定とすることとした。 ・公演数及び公演収支の改善については、目標値を達成した。 ・入場者数については、伝統芸能分野において目標値を大きく下回った結果、現代舞台芸術分野において目標値を上回ったものの、両分野(総計)においては目標値を下回った。なお、伝統芸能分野において、国立劇場等の再整備期間中は国立劇場及び国立演芸場で実施してきた公演を代替施設で実施するため、会場ごとに異なる制約等を受けざるを得なかった。目標値の設定に当たっては、代替施設での実施による影響を踏まえることとなっているが、令和6年度は年間を通して代替施設での公演が本格化した初年度であり、参照できる代替施設での公演実績が乏しく、閉場前の実績や、公演収支のバランスも踏まえて目標値を設定した。このため、結果的に所期の目標との乖離が生じた(中期目標Ⅲ2<目標水準の考え方>及び<想定される外部要因>参照。「課題と対応」については[1]伝統芸能分野表最下欄参照)。 ・外国人向け公演の入場者数は目標値を大きく上回った。これは、伝統芸能分野において当初計画していた舞踊・邦楽等4公演をさらに外国人向け公演としても実施したことによる。 ・オンライン動画配信の視聴数については、目標値を非常に大きく上回った。伝統芸能分野では、特に舞踊公演(Enjoying the Masterpiece of Kabuki Dance)の視聴数(令和6年度)が32万回(令和4年度末の公開以来の累計は約80万回)に達し、海外を中心に多数のコメントが寄せられた。現代舞台芸術分野では、特にバレエ「アラジン」が70万回を超える視聴数となり、世界最大級の舞台芸術配信プラットフォームOperaVisionが扱った配信での最多視聴数を記録した。 ・伝統芸能分野では、上演の途絶えていた演目の復活や新作の上演等により演目の拡充を図った。 ・新国立劇場では、国際的なレピュテーションの確立を目指し、舞台芸術グローバル拠点事業に取り組んだ。英語版ホームページのアクセス数、外国人入場者数、舞台映像の海外からの視聴割合について、いずれも目標値を非常に大きく上回った。 ・日本博2.0は初年度に引き続き、専門家等による伴走型支援を試行するなど採択事業者と緊密なコミュニケーションを図りつつ、旅行業者による旅行造成支援等により、インバウンドのニーズを捉え、来場者満足度の向上について目標を上回る成果を上げた。また、公式ホームページへの誘導、SNS及びWeb広告の効果的な運用を図った結果、閲覧数等が大幅に増加したほか、インバウンド向けタブロイド紙を海外現地で配布するなど、現地誘客の促進等に資するプロモーションの試行・拡充を行った。
数値目標の達成状況 実績/目標(達成率)	公演数:168公演/168公演(100.0%) 入場者数:461,955人/497,114人(92.9%) 公演回数、公演日数、公演収支の改善:公演実績表参照 青少年や社会人等を対象とした公演の入場者数:110,651人/120,632人(91.7%) 外国人向け公演の入場者数:5,445人/3,236人(168.3%) オンライン動画配信の視聴数:1,123,293回/80,000回(1,404.1%) 日本博採択事業の来場者満足度:63件/52件(121.2%)
主要な業務実績	[1] 伝統芸能分野

	[2] 現代舞台芸術分野 [3] 日本博の運営・実施 各表参照
課題と対応	[1] 伝統芸能分野 [2] 現代舞台芸術分野 [3] 日本博の運営・実施 各表参照

[1] 伝統芸能分野

自己評価	C
自己評価の根拠	以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を達成していないため、自己評価はC評価とする。 - 公演数については目標値を達成したが、入場者数、公演収支の改善については、いずれも目標値を下回った。なお、国立劇場等の再整備期間中は国立劇場及び国立演芸場で実施してきた公演を代替施設で実施するため、会場ごとに異なる制約等を受けざるを得なかった。目標値の設定に当たっては、代替施設での実施による影響を踏まえることとなっているが、令和6年度は年間を通して代替施設での公演が本格化した初年度であり、参照できる代替施設での公演実績が乏しく、閉場前の実績や、公演収支のバランスも踏まえて目標値を設定した。このため、結果的に所期の目標との乖離が生じた(中期目標Ⅲ2<目標水準の考え方>及び<想定される外部要因>参照。「課題と対応」については[1]伝統芸能分野表最下欄参照)。 - 入場者数は目標値を下回ったが、既存顧客の繋ぎとめに加えて、代替施設の地元地域との連携、国内外OTAの活用、若年層向け割引販売等により、インバウンドや若年層等の新たな観客層の開拓に努めた。 - 外国人向け公演の入場者数は目標値を大きく上回った。これは、当初計画していた舞踊・邦楽等4公演をさらに外国人向け公演としても実施したことによる。 - オンライン動画配信の視聴数については、目標値を非常に大きく上回った。特に舞踊公演(Enjoying the Masterpiece of Kabuki Dance)の視聴数(令和6年度)が32万回(令和4年度末の公開以来の累計は約80万回)に達し、海外を中心に多数のコメントが寄せられた。 - 歌舞伎公演では、新国立劇場中劇場で9月に「夏祭浪花鑑」を解説付きの「歌舞伎名作入門」として実施した。また、1月には「彦山権現誓助剣」を代替施設で初の本格的な通し狂言として上演し、好評を博した。会場の舞台・客席形状の特性を生かした舞台装置を創意工夫することで、臨場感のある演出を採用することが叶い、国立劇場が主催する歌舞伎公演として見応えのある芝居を提供することができた。 - 文楽公演では、首都圏においては計4公演を異なる6会場で開催、それぞれの会場の特性を生かした企画を立て、国立劇場閉場後もその存在感を発揮した。また、特に文楽劇場では、上演が稀な場面の復活や大作の通し上演、次世代の観客育成のためのレパートリーの拡充、人間国宝全員を集結させた演目の上演等を行い、外部専門家等から高く評価された。 - 振興会主催では初の文楽海外公演をアメリカ5都市で行い、各劇場でチケットが完売するなど好評を得た。 - 文楽劇場は、年間の全主催公演で「開場40周年記念公演」と銘打ち、大阪・関西万博の地元の劇場としての存在と上方の伝統芸能をアピールする公演を実施し、短期公演4公演と大衆芸能公演8公演のすべてにおいて入場者数の目標値を達成するとともに、文楽公演5公演を含む全17公演の入場者数合計が目標値を上回った。また、入場料金の値上げに公演費の圧縮の効果も加わり、文楽2公演と大衆芸能全8公演の収支を黒字にすることができた。 - 能楽堂では、高い企画力・制作力と効果的な観客勧誘によって、開催したほぼすべての主催公演において入場者数の目標値を達成し、特に能楽鑑賞教室及び外国人のための能楽鑑賞教室ではチケットが完売した。 - 能楽鑑賞について、能・狂言以外の隣接する芸能との併演により、鑑賞者にとって新たな切り口を提示できた。また、3月特別企画公演の復曲などレパートリーの拡充に貢献した。さらには、7月特別公演や1月企画公演など、古典作品の歴史的な上演ともいえる極めて上質な公演を制作した。 - 公益社団法人宝生会と連携協定を結び、公演と資料展示で相互に関連する事業を展開することができた。 - 各分野において、上演の途絶えていた演目の復活や新作の上演等により演目の拡充を図った。

数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）	公演数:143 公演/143 公演(100.0%) 入場者数:265,860 人/310,114 人(85.7%) 公演回数、公演日数、公演収支の改善: 公演実績表参照 青少年や社会人等を対象とした公演の入場者数:87,814 人/100,249 人(87.6%) 外国人向け公演の入場者数:5,445 人/3,236 人(168.3%) オンライン動画配信の視聴数:366,634 回/29,200 回(1255.6%)
主要な業務実績	(1) 伝統芸能の公開 ア 主催公演の実施 ①歌舞伎 ・青少年向けの歌舞伎鑑賞教室で取り上げる機会のない名作を、一般向けの入門企画「歌舞伎名作入門」として平易な解説付きで上演し、併せて文楽と同時期に同一演目を上演する相乗効果も狙った(9月「夏祭浪花鑑」)。 ・代替施設で初めてとなる本格的な通し狂言を提供した。上演に当たり、上演機会の稀な場面の復活にも取り組み、成果を上げた(1月「彦山権現誓助剣」)。 ②文楽 ・十一代目豊竹若太夫襲名披露公演を4月・5月に実施した。4月文楽劇場では、披露狂言「和田合戦女舞鶴」の導入部の「中」を84年ぶりに復活し、演者とスタッフが協力した台本と新たな演出により、物語の流れの分かりやすさと三業の高い表現力が評価された。また、5月東京では、披露公演のAプロと人気作の半通し上演のBプロを組み合わせ、両方を観劇しやすいようにプログラムの昼夜入替えを行った。 ・隣接する中劇場で歌舞伎を上演している新国立劇場小劇場で同一演目の「夏祭浪花鑑」を上演し、伝統芸能愛好家を中心とする世間の耳目を集めた(9月鑑賞教室)。 ・首都圏では珍しい現代作家による作品を上演した(12月公演)。 ・吉田和生文化功労者顕彰記念公演を1月・2月に実施した。1月文楽劇場では、人間国宝4名全員を含む好配役の「仮名手本忠臣蔵」が高く評価され、入場者数の目標値を達成した。また、2月東京では、「妹背山婦女庭訓」の通し上演を行い、代替施設では初となる本格的な通し上演として好評を博し、収支が黒字に転じた。 ・開場40周年を迎えた文楽劇場は、年間を通じて「開場40周年記念公演」と銘打ち、一日にわたる通し上演、上演が稀な場面の復活、レパートリーの拡充を通じて、人形浄瑠璃文楽の本拠地として文楽の多彩な魅力を発信する公演の実施に努めた。 ・文楽劇場夏休み文楽特別公演では、「ひょうたん池の大なまず」を劇場空間で初上演し、レパートリーの拡充に寄与した。また「西遊記」では、小学生以下の来場者への明快な台本や演出を心掛け、次世代の観客育成に繋げた。また、終演時には人形遣いによる見送りを実施し、好評を得た。 ・文楽劇場11月文楽公演では、開場40周年記念にふさわしい大作「仮名手本忠臣蔵」の通し上演に挑んで二部制を4年ぶりに実施し、人形浄瑠璃文楽の総力を結集した公演として高い評価を受け、収支も黒字となった。 ・竹本千歳太夫が11月文楽公演の成果により令和6年度大阪文化祭賞を、井上安寿子が5月特別企画公演により同賞奨励賞を受賞した。 ③舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等 ・舞踊は、動物をテーマに歌舞伎舞踊から昭和に創作された舞踊作品など、日本舞踊の多彩さを示す企画性の高い公演を実施した。 ・邦楽は、古典作品と現代邦楽曲、対照的な作品の上演と体験を交えながら奏法等を紹介する解説をつけた入門公演や、本年の大河ドラマと同時代に作曲された多種多様な邦楽作品を紹介する企画性の高い公演を実施した。 ・声明は真言宗智山派を取り上げ、冒頭に解説を設けたほか、国立劇場の公演として普段の法要では行われない雅楽入りの演出など、初心者にもわかりやすく見ごたえのある公演を実施した。 ・文楽劇場10月舞踊公演は、日本舞踊界の第一線で活躍する東西の舞踊家が一堂に会して至芸を披露した。開場40周年を記念して、これまでの舞踊公演にゆかりの深い名手たちの総出演により、上方舞、歌舞伎舞踊、素踊りなど多様な舞踊の魅力を届けたほか、技芸の継承とレパートリーの拡充に寄与する試みも実施した。 ・文楽劇場5月特別企画公演で入場者数が目標値の約47%増、6月邦楽公演で約

20%増となり、企画内容が評価された。

- ・文楽劇場 9 月特別企画公演は、開山 850 年記念として浄土宗総本山知恩院の声明を劇場ならではの機構を生かした演出で上演した。浄土宗の声明は文楽劇場開場以降初めての出演で、その特性と魅力を十分に紹介できた。

④大衆芸能

- ・令和 6 年度は代替施設において、定席公演に相当する公演を「国立演芸場寄席」と題して行い、また「花形演芸会」も継続して行った。
- ・文楽劇場は、年間全 8 公演で「開場 40 周年記念公演」と銘打ち、記念企画も随時実施した。
- ・文楽劇場 2 月「浪曲名人会」は、浪曲界初の人間国宝に認定された京山幸枝若による本会初の長講を中心とした番組で、入場率が 95%を超え、出演者に當祝を配布した。
- ・文楽劇場で奇数月開催の「上方演芸特選会」では、7 月を除いて 90%以上の入場率を維持した。開場 40 周年を記念して上方演芸 4 団体の会長が勢揃いする座談会を盛り込んだ 11 月や人間国宝の京山幸枝若が出演した 1 月の入場率は特に高く、出演者に當祝を配布した。

⑤能楽

- ・充実した企画内容と効果的な観客勧誘によって、開催したほぼ全ての主催公演において高い入場率を達成した。
- ・年間を通じて特定の流儀に片寄ることなく上演が稀な能楽作品を積極的に取り上げ、また能楽だけでなく他芸能と共通のテーマを持たせた公演など、国立能楽堂ならではの企画を実施した。
- ・8 月企画公演では、西行法師を主題に講談・落語・狂言と異なる芸能を取り上げ、多彩な芸能を一挙に鑑賞できる公演を行った。
- ・11 月企画公演〈特集・源氏物語〉では、2 日にかけて源氏物語所縁の邦楽・雅楽と能を上演した。23 日は箏曲「住吉」と復曲能「空蟬」を国立能楽堂では初めて上演した。30 日は源氏物語に登場する雅楽と上演が稀な能「住吉詣」を上演した。
- ・11 月・1 月企画公演では、能楽界を代表する重要無形文化財保持者(各個指定)である大槻文藏と友枝昭世をシテに、復曲能「実方」「実盛」を上演し、それぞれの公演で高い評価を得た。
- ・2 月企画公演では同時期に開催した特別展示「宝生宗家展」と連動し、宝生流所蔵の能面を展示するだけでなく、展示した能面を舞台上で実際に使用するなど、宝生流と国立能楽堂の連携事業の強みを十分に活かすことができた。

⑥組踊等沖縄伝統芸能

- ・1838 年の史料に基づき、舞台構造と衣裳を復元した組踊「大川敵討一糺の場より敵討まで」や第 11 回創作舞踊大賞で入賞した作品等を上演した。

イ 演目の拡充

- ・令和 5・6 年度国立劇場《歌舞伎脚本募集》の選考を行い、佳作 3 篇を選出して贈賞を行った。
- ・初春歌舞伎公演「彦山権現誓助剣」では、原作や享和 2 年(1802)5 月中村座の台帳等を基に発端「彦山権現山中」、序幕「郡家城外」を新たに復活し、筋の通った分かりやすい通し狂言を実現した。
- ・文楽劇場 4 月文楽公演の「和田合戦女舞鶴」市若初陣の段につき、端場(導入部)にあたる「中」を 84 年ぶりに復活上演した。
- ・文楽劇場夏休み文楽特別公演では、幼稚園等小規模の会場で上演していた「ひょうたん池の大なまず」を劇場空間での上演に対応できるよう演出を工夫した。また、「西遊記」の台本の詞章を文語体から口語体に全面的に改め、小学生以下の来場者にも内容をわかりやすく伝えるよう努めた。
- ・文楽劇場 10 月舞踊公演では、題材を共有する上方唄と地歌の曲を組み合わせた演出(「正月」)、流派で伝承されていない部分の新たな振付(「山姥」)、詞章の調査・整理を踏まえた上演台本の作成(「五斗三番叟」)を通じて、日本舞踊の演目や演出の拡充に寄与した。
- ・国立能楽堂 3 月特別企画公演では、昭和 62 年に国立能楽堂で復曲初演した復曲能「武文」を 35 年ぶりに再演するに当たって、台本と演出を大幅に見直した新演出で上演した。斯界に大きな話題を提供するとともに、本作制作が法政大学能楽賞の贈賞理由の一因となり、さらには学会のテーマとなるなど国立能楽堂の存在を大きくアピールすることができた。

(3) 青少年等を対象とした公演

- ・中高生を主な対象とした鑑賞教室、社会人、親子を対象とした公演を実施し

た。

- ・夏休み親子能の会・狂言の会では館内スタンプラリーを実施し、館内施設の周知活用、青少年の資料展示室の鑑賞者数の増加に繋がった。
- ・文楽劇場の文楽鑑賞教室と夏休み文楽特別公演では、人形遣いの実演付き解説の後、観客参加形式による人形遣いの体験コーナーを設け、幅広い年齢層の来場者が文楽を身近に感じることができる機会を提供した。
- ・文楽劇場夏休み文楽特別公演第1部では、子どもを対象を限定した音声同時解説サービスの無料提供を実施し、次世代の観客育成に取り組んだ(利用実績：2,132台)。
- ・国立劇場おきなわでは、夏休みに合わせて親子向けの普及公演を実施し、「組踊の世界『執心鐘入』」において展示や楽器体験教室を実施した。また、琉球舞踊鑑賞教室では、屋内型アトラクション風の公演を試み、琉球舞踊の鑑賞だけでなく、沖縄芝居風の解説を挟みながら手踊りの体験も行った。
- ・外国人を対象とした公演を実施した。

(4) 伝統芸能の公開の実施に際しての留意事項

- ・国立劇場等の再整備期間中は代替施設での公演実施に当たり、会場が所在する自治体等と連携協定を締結し、公演実施及び公演周知における連携協力のほか、住民公演招待、住民向け優待チケット販売、入門講座、展示等の住民還元事業を実施し、地域住民に対する伝統芸能の振興を図った。
- ・オンライン動画配信等を通じて、国内外の幅広い人々に鑑賞の機会を提供し、特に舞踊公演の公演記録映像の視聴数は32万回を超える好評を得た。

(5) 快適な観劇環境の形成

- ・チラシ・ポスター等により快適な観劇環境を促進するためのマナー啓発を行った。
- ・外国人来場者のため、公演の内容を多言語で紹介する冊子を配布するとともに、会場の案内を多言語で表示した。
- ・代替施設での公演実施にあたり、施設ごとに異なる観劇環境を踏まえながら、各施設の協力のもと、プログラムやオリジナルグッズの販売・イヤホンガイド等のサービスを提供した。
- ・新たな通信販売サービスとして、読売新聞社運営の博物館グッズ専門オンラインショップ「美術展ナビ 図録・グッズ SHOP」において、オリジナルグッズ、公演解説書バックナンバー等を販売した。
- ・各館で上演演目等にちなんだフォトスポットを設けて、来場者の観劇記念とするとともに、来場者が SNS 等で発信することによる公演情報の周知も図った。
- ・文楽劇場では、開場 40 周年記念ロゴマークや三番叟の衣裳を題材とした装飾やインバウンドへの訴求も狙った四季の情緒を醸し出す飾りで館内を彩った。
- ・文楽劇場では、インバウンド等の外国人対応と大阪・関西万博開催に向けた取組の一環で、令和6年度日本博2.0事業(委託型)として、英語の音声同時解説サービス(有料)を全日程で提供した(4月文楽公演、夏休み文楽特別公演第2部・第3部、11月文楽公演、初春文楽公演、利用実績：1,837台)。

(6) 広報・営業活動の充実

- ・各分野において公演情報等をホームページで公開し、公演 PR を行った。また、出演者のインタビュー映像や公演記録映像を活用したダイジェスト版映像も公演周知に活用した。さらに、X(旧 Twitter)、Instagram、LINE に加え、Tripadvisor に写真を掲載するなど、SNS を利用した広報活動を実施した。
- ・劇場の地元地域や演目に所縁の地域の観光協会との提携によるチラシ・ポスターの掲示や SNS での広報、地元住民向け優待販売・入門講座、劇場近隣店舗や商業施設との協力によるコラボレーションキャンペーン、ホテル・旅行代理店との連携強化による公演の周知を実施した。
- ・団体観劇を促進するため、過去に利用した団体への公演情報提供や公演内容に応じた営業活動を実施した。
- ・既存顧客の繋ぎとめや新たな観客層の開拓を図るため、イヤホンガイド・プログラム付きなど各種団体向けプランの販売や、団体の幹事やホテル・旅行代理店の担当者の招待会等を実施した。
- ・インバウンドや若年層等の新たな観客層の開拓を図るため、国内外 OTA での広報・チケット販売を拡充した。
- ・次世代の観客育成を図るため、「国立劇場キャンパスメンバーズ」会員校を

	対象にした講座・イベントや、「U29」等の若年層向け割引販売を実施した。 ・地域、美術館・博物館等の文化施設や旅行代理店等との連携による講座等のイベントを通じて、公演の広報・営業活動を積極的に展開した。 ・国立劇場おきなわでは、県内で外国人が集まる地区の広報誌や基地内商業施設等でのデジタルサイネージ、海外の旅前情報サイトで周知を図った。また、劇場が復元してきた、からくり花火について国内外へ周知し、琉球文化及び劇場の取組への関心を喚起するため、「琉球国のからくり花火」ウェブサイトを作成した。 (7) 劇場施設の使用効率の向上等 ・施設利用に関する情報を、ホームページ・パンフレット・DM・専門誌等で随時発信した。 ・サービス向上のため、利用者へのアンケートを実施した。 ・文楽劇場では、DM で募集して内覧会を実施し、劇場利用者の増加に努めた。
課題と対応	<課題> ・【代替施設での経験不足】国立劇場等の再整備期間中は国立劇場及び国立演芸場で実施してきた公演を代替施設で実施するため、会場ごとに異なる制約により実施状況が変化を余儀なくされている。特に令和6年度は、国立劇場及び国立演芸場の閉場後、代替施設での公演が初めて年間を通して本格化したが、代替施設での公演実施のノウハウが十分になかった。さらに、各会場の舞台機構の制約を踏まえた演目選定や各種調整にも時間を要した結果、公演情報の公開が遅れ、十分な広報・営業活動を展開できなかった。 ・【環境変化による観客離れ】国立劇場及び国立演芸場の早期再開を求める声が多数寄せられているとおり、半蔵門に立地する国立劇場及び国立演芸場での鑑賞に価値を見出し、代替施設での鑑賞は見送る方が多い。特に常連客からは、慣れない代替施設への移動に加え、各会場のバリアフリー設備の有無や施設環境の違いなどを理由に敬遠する意見が多い。また、団体客については、食堂や団体バスの駐車スペース、事前レクチャーの会場が代替施設にないことなどを理由に、団体観劇を見送るケースもある。 ・【代替施設の確保の困難】長期公演については、借りられる施設や日数等に制限があり、公演によっては2会場で上演しなければならない場合もあり、来場者に混乱や不便が生じやすいほか、職員やスタッフにも業務の増加や複雑化を招いている。本来日数を要する準備・撤収を短時間で行わざるを得ず、舞台機材を破損した事例もあった。 <対応> ・【代替施設での実績を踏まえた計画】令和7年度計画においては、代替施設での公演が本格化した令和6年度実績を踏まえて目標値を見直した。令和7年度以降は、各代替施設で積み重ねたデータやノウハウを生かすとともに、公演内容の早期周知に努め、入場者数及び公演収支の改善に取り組む。 ・【新たな観客層の開拓・付加価値の創造】観客層の拡大に向けて、令和7年度計画より新たな指標(SNS登録者数・若年層入場者数・外国人入場者数)を掲げて取り組む。開催する地域の自治体や施設等と連携し、周辺エリアの新規開拓を目指すとともに、SNSやインターネットを活用して若年層やインバウンドなど外国人への訴求にも力を入れる。代替施設の条件を踏まえながら、より魅力的な鑑賞体験の提供や新たな付加価値の創造に努めるとともに、各会場の特性を生かした新たな演出など創意工夫を凝らす。 ・【地方公共団体等との連携強化】代替施設の安定的な確保に向けて、令和5・6年度に実績のある自治体とは継続して連携しつつ、地方劇場との連携なども視野に入れ、令和7年度には地方のホールを会場とした共催公演を実施する準備を進めている。 ・【再整備期間中の業務に応じた組織体制の整備】令和7年4月に組織再編を行い、法人全体の課題対応や戦略策定を主導する企画部や、各館の制作・営業等を統括する劇場長等を新設し、公演事業の見直しや収支改善に向けて、法人が一体となって取り組む。また、これまで分離していた国立劇場及び国立演芸場の宣伝・営業機能を統合することで、より効果的かつ効率的な宣伝・営業を展開し、集客の強化に努める。さらに、再整備期間の長期化や公演数の減少を踏まえて、主催公演に係る公演制作及び舞台技術等の人材養成を図る。

[2] 現代舞台芸術分野

自己評価	B
自己評価の根拠	以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を達成しているため、自己評価はB評価とする。 ・公演数、入場者数、公演収支の改善については、いずれも目標値を達成した。 ・「新国デジタルシアター」において公演映像等の配信を推進した。オンライン動画配信の視聴数については、目標値を非常に大きく上回った。特にバレエ「アラジン」は70万回を超える視聴数となり、世界最大級の舞台芸術配信プラットフォームOperaVisionが扱った配信での最多視聴数を記録した。 ・国際的なレピュテーションの確立を目指し、舞台芸術グローバル拠点事業に取り組んだ。英語版ホームページのアクセス数、外国人入場者数、舞台映像の海外からの視聴割合について、いずれも目標値を非常に大きく上回った。 ・各分野の出演者が新国立劇場公演に関連して受賞した。演劇では「白衛軍 The White Guard」が第32回読売演劇大賞において優秀作品賞を受賞した。
数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）	公演数:25公演/25公演(100.0%) 入場者数:196,095人/187,000人(104.9%) 公演回数、公演日数、公演収支の改善:公演実績表参照 青少年を対象とした公演の入場者数:22,837人/20,383人(112.0%) オンライン動画配信の視聴数:756,659回/50,800回(1489.5%) 英語版ホームページへのアクセス件数:190,716件/132,000件(セッション数)(144.5%) 公演の外国人入場者数:4,833人/3,000人(161.1%) 舞台映像の海外からの視聴割合:58.3%/20%(291.5%)【モニタリング指標】 新国立劇場に関する海外メディアへの掲載件数:102件/90件(113.3%)【モニタリング指標】
主要な業務実績	(2) 現代舞台芸術の公演 ①オペラ ・10公演48回のオペラ公演を実施した。 ・「夢遊病の女」「ウィリアム・テル」の2作品を新制作し、レパートリーを充実させた。 ・テアトロ・レアル(マドリッド)、リセウ大劇場(バルセロナ)、マッシモ歌劇場(パレルモ)との共同新制作により「夢遊病の女」を上演した。 ・「ウィリアム・テル」については、日本初原語(フランス語)による舞台上演を実現した。合唱については、他のオペラ作品ではあまり例を見ることのないほど登場シーンが多く、新国立劇場合唱団のポテンシャルを以ってこそ達成できた舞台となった。 ②バレエ ・6公演59回のバレエ公演を実施した。 ・「バレエ・コフレ」では、フォーサイスの人気作品「精確さによる目眩くスリル」とランダーの「エチュード」を新制作上演した。 ・こどものためのバレエ劇場2024では、新国立劇場バレエ団委嘱作品・世界初演となる「人魚姫～ある少女の物語～」を新制作上演した。 ・新国立劇場バレエ団ファースト・ソリストの木下嘉人が、第54回(2023年)舞踊批評家協会新人賞を受賞した。 ・新国立劇場バレエ団ファースト・ソリストの池田理沙子が、第31回中川鋭之助賞を受賞した。 ・新国立劇場バレエ団ソリストで岡山県出身の廣川みくりが、第25回岡山芸術文化賞グランプリを受賞した。 ・新国立劇場バレエ団プリンシパルの福岡雄大が、第2回(令和6年度)牧阿佐美賞を受賞した。 ・上演作品を指揮者が音楽面から解説する「バレエトーク」やクラスレッスン見学会、「ジゼル」のリハーサルライブ配信等を実施し、観客が公演を鑑賞

するだけでなく、舞台を創り上げる過程や作品に関する知識を得られる機会を提供した。

③現代舞踊

- ・3公演11回の現代舞踊公演を実施した。
- ・新国立劇場バレエ団の中から振付家を育てるプロジェクト「NBJ Choreographic Group」を継続的に実施した。「DANCE to the Future 2024」では、若手ダンサー2名が新たに振付家として作品を発表し、継続的に作品を発表しているダンサーにとっても新たな視点をもたらす機会となった。
- ・「DANCE to the Future 2024」では、アドヴァイザーとしてネザーランド・ダンス・シアター等で活躍した小尻健太氏を迎え、小尻氏の振付作品「プレリユード」を招待作品として上演した。バレエ団にとってコンテンポラリー作品のレパートリーを増やすこととなり、意義のある取り組みとなった。

④演劇

- ・6公演126回の演劇公演を実施した。
- ・ポーランドの名匠、クシシュトフ・キェシロフスキが発表した『デカログ』10篇の物語を完全舞台化し、4カ月かけて全10話を上演した。新国立劇場ならではの企画として評価を得た。
- ・二十世紀ロシアを代表する作家ブルガーコフの「白衛軍 The White Guard」を日本初演し、第32回読売演劇大賞において優秀作品賞を受賞した。
- ・「ピローマン」に出演した成河が、第32回読売演劇大賞において優秀男優賞を受賞した。
- ・公演に付随して実施する企画「ギャラリープロジェクト」を実施し、公演後のガイドツアーのほか、トークセッションは実地とオンライン配信を組み合わせで行った。

(3) 青少年等を対象とした公演

- ・主に青少年を対象とした公演を2公演実施した。

(4) 現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項

- ・国際的なレピュテーションの確立を目指し、舞台芸術グローバル拠点事業に取り組んだ。
- ・世界各地の主要劇場や芸術団体、アーティストなどが4年ごとに一堂に会す国際会議、「ワールド・オペラ・フォーラム」の第3回を東京・新国立劇場で開催することが決定し、開催に向けて、オペラ・ヨーロッパ、オペラ・アメリカ、オペラ・ラテンアメリカとの連携強化等、準備を進めた。
- ・日韓両国の文化交流及び協力の推進を目的として、韓国国立劇場および韓国芸術の殿堂と劇場間連携協定を締結した。韓国国立劇場とは、韓日国交正常化60周年記念事業として、日韓映像交換上映会を企画し、2月に新国立劇場のオペラ「トゥーランドット」を韓国国立劇場で上映した。
- ・共催などによる公演等を1公演実施した。
- ・全国各地の文化施設等における公演を5公演実施した。
- ・国際文化交流公演等を2公演実施した。
- ・「新国デジタルシアター」において公演映像等の配信を推進した。OperaVisionを通して配信したバレエ「アラジン」の公演映像は、70万回を超える視聴数となり、OperaVisionが扱った配信での最多視聴数を記録した。海外からの視聴割合も60%となった。

(5) 快適な観劇環境の形成

- ・新制作オペラの作品理解を深め、興味関心を喚起するオペラトークを実施したほか、バレエでは初めての試みとして作品を音楽面から深掘りするバレエトークを行い、演劇ではスペシャルトークを実施した。
- ・優雅で快適な観劇と特別な体験をお届けする公式ホスピタリティプログラム「グランエクスペリエンス」を新たに実施した(オペラ1回、バレエ1回)。
- ・オペラ「トスカ」「魔笛」、バレエ「眠れる森の美女」「くるみ割り人形」で計8回、終演後の英語版バックステージツアーを実施した。
- ・演劇公演で視覚・聴覚障害者向けに観劇サポートを実施(令和6年度障害者等による文化芸術活動推進事業)。

(6) 広報・営業活動の充実

	・ホームページと SNS (Facebook、X (旧 Twitter)、Instagram) を連動させ、映像も活用して積極的に情報発信に努めた。 ・新国立劇場バレエ団サイトの英語ページをリニューアルした。 ・欧米の舞台芸術サイト・雑誌に広告を掲載して、新国立劇場の認知を高めるとともに、同メディアに記事掲載の働きかけを行った。 ・バレエ「くるみ割り人形」では英語版トレーラを作成し、外国人に向けて英語 Facebook, Instagram で広告展開した。 ・海外からジャーナリストを招聘し、新国立劇場の認知を高めるとともに、海外メディアでの露出を図った (オペラ「ウィリアム・テル」6 名、バレエ「バレエ・コフレ」3 名)。 ・令和 7 年 7 月の「ジゼル」ロンドン公演に向けて、現地でのトークイベント実施 (オンラインでの配信も実施)、現地メディアとの昼食会開催、旅行会社と提携した観劇ツアーの告知等、広報・営業活動に努めた。 (7) 劇場施設の使用効率の向上等 ・施設利用に関する情報を、ホームページ・パンフレット・専門誌等で随時発信した。
課題と対応	・上演機会の少ない公演の営業計画については、更なる予測値の精度向上や周知活動の強化に努めたい。

[3] 日本博の運営・実施

自己評価	A
自己評価の根拠	以下に示すとおり、年度計画における所期の目標を上回る成果を得られたため、自己評価はA評価とする。 ・日本博採択事業の来場者満足度について、数値目標を大幅に上回った。 ・年間を通じ、採択事業者が取組を実施した際に積極的に実地に赴いてインバウンドへの対応状況や参加者の実態を確認し、必要に応じて実施内容の改善点等を助言した。 ・日本博 2.0 事業及び参画型について戦略的プロモーションを一体的に企画・実施し、国内外の観光需要や地方誘客に取り組んだ。SNS 広告、Web 広告により公式ホームページ等へ誘導を図った結果、ホームページ PV 及び Instagram フォロワー数が前年度と比較して大幅に増加した。 ・令和 5 年度に引き続き日本最大の旅行商談会に出店者として参加し、令和 6 年度より海外のバイヤーに対して採択事業が企画された商品を紹介するメールマガジンを送付した。これがきっかけとなって、初めて海外の旅行会社 1 社において商品取扱いが開始され、香港・アイルランド・サウジアラビアなど世界各地から個人・団体旅行の受入れについて具体的な問合せが入るようになった。 ・令和 6 年度より、専門家の協力を得ながら、採択事業者が実施する来場者満足度測定調査の内容や実施手法に対し助言を行うなど、事業者の自走化に向けた支援や仕掛けを実施した。
数値目標の達成状況 実績/目標（達成率）	日本博採択事業の来場者満足度(採択時に事業者が自ら設定した目標値に達した事業の割合が 3 分の 2 以上):63 件/52 件(121.2%) (目標値を達成した事業数:63 件)÷(採択事業数 78 件×2/3:52 件)
主要な業務実績	・「最高峰の文化資源の磨き上げによる満足度向上事業」の実施 委託型：交付件数 62 件、委託金額 3,200 百万円 補助型：補助件数 16 件、補助金額 344 百万円 ・参画型の認証 文化施設・団体等 8 件 プロジェクト 235 件 ・戦略的なプロモーションの実施 日本博公式ホームページ 1,361,916PV(前年比 3.0 倍) (海外から 1,229,736PV(前年比 5.1 倍)) Instagram フォロワー数 18,496 人(前年比 4,247 人増) ・効果検証結果に基づく「日本博 2.0」の成果の分析・考察 効果検証報告書等のフォームを作成し、日本博 2.0 事業の全体の効果を分析できるよう準備した。
課題と対応	・引き続き我が国の文化芸術の魅力を磨き上げ、国内外に戦略的に発信するため、日本博 2.0 を適正に運営し、採択事業者と緊密にコミュニケーションを図りつつ、来場者満足度を高水準で維持するとともに、外国人来場者の増加及び地方誘客に一層努める。 ・令和 8 年度以降の日本博の在り方について文化庁と密接に連携して検討するとともに、これまで培ってきた文化資産を伝承・活用する。

2-(1) 伝統芸能の公開

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(1) 伝統芸能の公開

つとめて伝承のままの姿で多様な伝統芸能の公開を行い、その適切な保存と振興を図る

再整備期間中に実施する代替施設での公演においては、新たな観客層の獲得に資する上演方法等を検討

ア 歌舞伎公演:筋の展開が理解しやすい「通し狂言」での上演、上演の途絶えた優れた演目・場面の復活、新作等の上演、解説を付した公演等の実施

イ 文楽公演:「通し狂言」や見せ場を中心に複数演目を並べる「見取り狂言」等の様々な形態での上演、上演の途絶えた優れた演目・場面の復活、新作の上演、解説を付した公演等の実施

ウ 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等公演:質の高い技芸の公開、芸能の特性を踏まえた企画性の高い公演等の実施

エ 大衆芸能公演:寄席を中心に受け継がれてきた伝統的な大衆芸能の公演、多彩な出演者による企画性の高い公演等の実施

オ 能楽公演:伝統的な能狂言の演目と各流の演者を能楽全体を見渡す視点に立って組み合わせた公演、上演の途絶えた優れた演目の復曲、新作の上演、解説を付した公演、企画性の高い公演等の実施

カ 組踊等沖縄伝統芸能公演:組踊等沖縄伝統芸能の鑑賞機会の提供、上演の途絶えた優れた演目の復曲、新作の上演、解説を付した公演、本土の芸能やアジア・太平洋地域の芸能も取り上げる企画性の高い公演等の実施

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(1) 伝統芸能の公開

ア 伝統芸能の保存と振興を図るため、別表1のとおり主催公演を実施、国立劇場等の再整備期間中は代替施設で公演を実施、日本博に関連した公演を企画

イ 演目の拡充

①歌舞伎:復活等上演時の「国立劇場文芸研究会」による補綴

新作歌舞伎脚本の選考及び贈賞

②文楽:上演が途絶えていた場面の復活、新作も視野に入れた上演に向けての準備

③能楽:上演機会の稀な作品の上演、国立能楽堂制作による復曲作品の再演及び新演出での初演、他の能楽堂等で上演された復曲作品の再演

④組踊等沖縄伝統芸能:組踊、琉球舞踊、三線音楽、沖縄芝居、民俗芸能及び本土の芸能など多様なジャンルの公演の上演

上演機会の少ない優れた演目や古典の様式を踏まえた新作の上演

「創作舞踊大賞」の公募・選考・表彰

ア 主催公演の実施

《分野別 公演実績(伝統芸能分野総計)》

分野	実績					計画					入場者数 達成率
	公演数	回数	日数	入場者数	入場率	公演数	回数	日数	入場者数	入場率	
歌舞伎	4	118	81	58,499	50.0%	4	119	82	84,768	69.3%	69.0%
文楽	9	441	165	132,329	44.6%	9	441	165	150,647	48.1%	87.8%
舞踊	3	5	3	1,418	56.5%	3	5	3	1,540	62.9%	92.1%
邦楽	3	4	3	933	50.1%	3	3	3	940	58.9%	99.3%
雅楽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
声明	1	1	1	1,112	93.8%	1	1	1	980	79.8%	113.5%
民俗芸能	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
琉球芸能	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
特別企画	2	2	2	1,059	74.1%	2	2	2	850	59.4%	124.6%
舞踊・邦楽等	9	12	9	4,522	64.7%	9	11	9	4,310	64.3%	104.9%
大衆芸能	48	165	163	21,931	58.4%	48	165	163	25,760	68.5%	85.1%
能楽	50	60	55	37,223	98.9%	50	60	55	34,470	91.6%	108.0%
組踊等	23	32	31	11,356	66.6%	23	31	31	10,159	60.1%	111.8%
合計	143	828	504	265,860	51.9%	143	827	505	310,114	58.1%	85.7%

※入場者数達成率 = 実績入場者数 / 計画入場者数

※単位は、公演数：公演、回数：回、日数：日、入場者数：人

※以下、計数はそれぞれ四捨五入により単位未満を処理しているため、合計において一致しない場合がある。

※公演収支の改善状況については、(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等に記載。

※7月特別企画公演については、会場を計画時の大和田伝承ホール(総席数 290 席)から紀尾井小ホール(総席数 250 席)へと変更した。計画入場者数が会場変更後の総席数を上回るため、計画入場率に基づき、計画入場者数を補正する。

(A)補正した計画入場者数、(B)入場者数の対計画達成率はそれぞれ以下のとおり。

7月特別企画公演(A) 232 人 (B)99.2%、特別企画【小計】(A)1,582 人 (B)74.0%

大衆芸能(東京)【合計】(A)21,722 人 (B)80.2%、大衆芸能【総合計】(A)25,722 人 (B)85.3%。

《館別 公演実績(伝統芸能分野総計)》

館名	公演数	回数	日数	入場者数	入場率
国立劇場	-	-	-	-	-
大劇場	-	-	-	-	-
小劇場	-	-	-	-	-
代替劇場(国立劇場)	13	290	147	109,386	50.5%
国立演芸場	-	-	-	-	-
代替劇場(国立演芸場)	40	138	137	17,412	53.3%
国立能楽堂	50	60	55	37,223	98.9%
国立文楽劇場	17	308	134	90,483	43.3%
文楽劇場	10	282	109	86,684	42.3%
小ホール	7	26	25	3,799	91.9%
振興会小計	119	794	472	254,321	51.3%
国立劇場おきなわ	23	32	31	11,356	66.6%
大劇場	21	28	27	10,541	65.6%
小劇場	2	4	4	815	82.7%
合計	143	828	504	265,860	51.9%

※国立劇場・国立演芸場の再整備に伴う代替劇場での公演の実績は、全て「代替劇場」として表示。

※単位は、公演数：公演、回数：回、日数：日、入場者数：人

① 歌舞伎

《制作方針》

代替劇場において、会場の特性に合わせた公演を実施し、国立劇場主催公演にふさわしい充実した内容の公演を制作する。

9月には、「歌舞伎名作入門」として一般向けの入門公演を実施する。1月は、過去に復活した演目に新たな復活場面を盛り込んで再構築することにより、本格的な「通し狂言」を提供する。

6月・7月には青少年等を対象とした入門公演を実施する。東京公演の後に、6月は神奈川県、静岡県において移動公演を実施する。6月は外国人向けの公演も実施する。

以上により、歌舞伎の保存・振興を図る。

○

新国立劇場中劇場を使用して実施する9月歌舞伎公演は、青少年向けの「歌舞伎鑑賞教室」で取り上げる機会のない名作を一般の客層向けに提供する「歌舞伎名作入門」として、義太夫狂言の人気作『夏祭浪花鑑』を住吉鳥居前、釣船三婦内、長町裏の三場面による半通しの形態で上演する。本編の上演前には平易な解説を設け、来場者が予備知識なしで気軽に名作を楽しめるよう工夫を凝らす。坂東彦三郎の団七九郎兵衛、坂東亀蔵の一寸徳兵衛、片岡孝太郎の徳兵衛女房お辰など、次代を担う中堅世代が初役で挑む機会となり、俳優の研鑽の場としても意義のある公演となることを目指す。今回は、同時期に新国立劇場小劇場で開催される文楽鑑賞教室と同一演目を上演するという当劇場ならではの企画となり、歌舞伎ファンと文楽ファンが互いに別のジャンルに興味を広げ、両方の芸能が活性化される相乗効果を狙う。

初春歌舞伎公演は、初代国立劇場閉場後の代替劇場公演として初めて、「通し狂言」の形式で歌舞伎の主催公演を実施する。『彦山権現誓助剣』は、通称「毛谷村」と呼ばれる「六助住家」が特に名場面として知られ、現在でも頻繁に上演されるが、通し狂言としての上演機会は少なく、戦後では国立劇場所演の昭和42年10月、平成14年12月の2回と、平成23年2月大阪松竹座での上演例があるのみである。敵討ちにまつわる物語の発端から結末までを丁寧に描くことにより、名作の全容を味わえる貴重な機会とする。今回の上演に当たって全体の筋をより分かりやすくするため、物語の発端を原作や江戸時代の台帳を参考に復活させ、また結末も、原作の設定を活かしたスケールの大きな場面として新たに創作する。さらに、当劇場以外ではほとんど上演されていない「瓢箪棚」も久しぶりに上演する。尾上菊五郎劇団を中心にベテランから若手までが揃う充実した座組で、初春歌舞伎にふさわしい華やかな舞台づくりを目指す。

○

歌舞伎を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図ることを目的として、主に歌舞伎初心者を対象とした解説付きの入門公演「歌舞伎鑑賞教室」を実施する。本公演は昭和42年から継続して開催している。

初代国立劇場閉場後初の開催となる6月は、荒川区のサンパール荒川に会場を移し、上方歌舞伎の名作として知られる『恋飛脚大和往来』から「封印切」の通称で有名な場면을上演する。本作の歌舞伎鑑賞教室での上演は、平成12年6月以来24年ぶり、3回目となる。物腰柔らかな二枚目の芸風「和事」の代表的な役である忠兵衛を、家の芸として継承する中村鴈治郎が東京で初めて演じ、市川高麗蔵が梅川を勤めるほか、榎屋右衛門の坂東彦三郎、丹波屋八右衛門の中村亀鶴など、若手世代を積極的に起用し、次世代への芸の継承を図る。併せて、歌舞伎の魅力や約束事、作品の見どころなどを分かりやすく紹介するため、『解説 歌舞伎のみかた』を上演する。期間中には、日中に時間を取りづらい社会人向けの公演「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」を5日(水)、6日(木)午後6時半開演で実施する。また、多言語対応を充実させた外国人向けの公演「Discover KABUKI」を20日(木)に実施する。さらに、東京都外での鑑賞機会を提供するため、23日(日)・24日(月)に横浜市の神奈川県立青少年センター、26日(水)に静岡市の静岡県コンベンションアーツセンターで移動公演を行う。

7月は、義太夫狂言の三大名作の一つ『義経千本桜』の中でも特に人気の高い「河連法眼館」(通称「四の切」)を取り上げる。本作は歌舞伎鑑賞教室の演目としては最多上演(9回目)である。狐を主人公とし、早替りなどのケレン味にもあふれる一方で、親子の情愛というテーマ性を有している点で、初めて歌舞伎を見る観客が多い鑑賞教室にうってつけの演目と言える。中村芝翫・中村橋之助の親子が、佐藤忠信/源九郎狐を回替わりで演じるほか、源義経などの主要な役もダブルキャストとし、若手世代が初役に挑める機会とする。併せて、歌舞伎の魅力や様々な約束事、作品の見どころなどを分かりやすく紹介するため、『解説 歌舞伎のみかた』を上演する。期間中には、日中に時間を取りづらい社会人向けの公演「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」を5日(金)・18日(木)午後6時半開演で実施する。また、各種学校の夏休み期間に当たる21日(日)～27日(土)は、「親子で楽しむ歌舞伎教室」として、児童・生徒と保護者が一緒に鑑賞できる機会を提供する。

(a) 公演実績

公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
		回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
9 月歌舞伎公演 「入門 夏祭浪花鑑をたのしむ」 「夏祭浪花鑑」	9/1～25 新国中劇場	23	23	5,871	27.7%	24	24	11,643	47.1%	50.4%
1 月歌舞伎公演 「通し狂言 彦山権現誓助剣」	1/5～27 新国中劇場	21	21	10,470	54.4%	21	21	15,550	71.9%	67.3%
6 月歌舞伎鑑賞教室 「解説 歌舞伎のみかた」 「恋飛脚大和往来 封印切」	6/1～21 サンパール荒川	38	19	18,800	53.5%	38	19	21,682	62.4%	86.7%
7 月歌舞伎鑑賞教室 「解説 歌舞伎のみかた」 「義経千本桜」	7/5～27 ティアラことう・ 調布市グリーンホール	36	18	23,358	56.3%	36	18	35,893	87.3%	65.1%
歌舞伎【合計】	4 公演 計画:4 公演	118	81	58,499	50.0%	119	82	84,768	69.3%	69.0%

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・歌舞伎公演専門委員会について、第1回は7/9に、第2回は3/11に開催した。

(c) アンケート調査

公演数	配布数(A)	回収数(B)	回答数(C)	満足数(D)	回収率 (B/A)	満足回答率 (D/C)
4 公演	2,851	1,430	1,219	1,202	50.2%	98.6%

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・「歌舞伎名作入門」として企画した9月歌舞伎公演『夏祭浪花鑑』は、坂東彦三郎の団七九郎兵衛、坂東亀蔵の一寸徳兵衛、片岡孝太郎のお辰など、実力ある中堅世代が初役で大役に挑み、若手にも活躍の場が与えられる澁漕とした座組により、連日熱のこもった芝居が繰り広げられ、初日以来 SNS でも盛んに取り上げられるなど話題性のある公演となった。客席の間を通り抜ける花道を特設し、オーケストラピットに当たる部分を舞台として使用したり、江戸時代の芝居小屋の錦絵を参考にして定式幕を吊り上げて収納する方法を考案したりするなど、会場の舞台・客席形状の特性を生かした舞台装置を創意工夫することで、臨場感のある演出を採用することが叶い、国立劇場が主催する歌舞伎公演として見応えのある芝居を提供することができた。また、片岡亀蔵による人物・見どころ紹介のご案内を、序幕「住吉鳥居前」の舞台を用いて行い、開幕前から舞台装置を公開して来場者の自由な写真撮影を許可するという試みも好評を博した。
- ・初春歌舞伎公演は、国立劇場で開場当初の昭和42年10月に143年ぶりの本格的な通し狂言として復活させた『彦山権現誓助剣』を、平成14年12月の再演以来22年ぶりに上演した。今回は、原作や享和2(1802)年5月中村座の台帳等を基に物語の発端となる場面(彦山権現山中、郡家城外)を新たに復活し、また仇討ち物の結末にふさわしい大詰(真柴久吉本陣)を創作して、筋の通った分かりやすい作品づくりを心掛けた。劇評で「国立劇場らしい通し上演」「文芸研究会による補綴の成果」「誠実な古典上演として当節必見の舞台」と評されるなど、高い評価を得ることができた。俳優陣についても、座頭の尾上菊五郎から孫世代まで幅広い世代が活躍する中で、毛谷村六助の尾上菊之助、京極内匠の坂東彦三郎、お園の中村時蔵がいずれも初役で大役に挑んで成果を上げるなど、「芸の継承」に貢献することができた。

【特記事項】

- ・新国立劇場中劇場のオーケストラピットに当たる部分を迫り上げて舞台の一部として使用した。また、1階席下手側前方の客席を一部撤去して花道を特設した(9月歌舞伎、初春歌舞伎)。
- ・開演前から定式幕を開けて序幕「住吉鳥居前の場」の舞台装置が見える状態とし、開演5分前まで写真撮影を許可した(9月歌舞伎)。
- ・二幕目「長町裏の場」では、登場人物(三河屋義平次、祭りの若い者10名)が客席エリアを通過する演出を採用した(9月歌舞伎)。
- ・大使招待を実施した(9月歌舞伎、9/10)。
- ・観劇体験の満足度を向上させるため、出演者2人の等身大扮装写真をロビーに設置した(9月歌舞伎)。
- ・劇中で客席に向けて出演俳優による手拭い撒きを行った(初春歌舞伎)。
- ・来場者に初芝居の観劇気分を楽しんでもらうとともに、公演への興味を広げ、観劇体験の満足度を向上さ

- せるため、獅子舞実演のイベントや場内の飾り付けを行った(初春歌舞伎)。
- ・仮設花道の真正面に当たる1階席の4席を「花道正面席」(1席20,000円、特製ブロマイド特典付き)として販売した(初春歌舞伎)。

② 文 楽

◀制作方針▶

文楽の保存と振興のため、「通し狂言」「見取り狂言」等の様々な形態により上演する。

それらの公演の中で、上演頻度が少ない演目や場面を積極的に取り上げ、文楽技芸員にとって次世代への技芸の継承やレパートリーの拡充につながるよう、また、観客に対しても文楽の作品の多様さを伝えられるように努める。

また、解説を付した鑑賞教室を継続して実施する。初心者や低年齢層にも鑑賞しやすく、文楽の魅力に触れることができるような新作の上演にも取り組む。併せて、外国人旅行者等に訴求力のある公演を制作する。

○

首都圏においては計4公演を異なる6会場にまたがって開催し、それぞれの会場の特性を生かした企画を立て、国立劇場閉場後もその存在感を発揮する。

5月公演は、十一代目豊竹若太夫襲名披露を中心に、コロナ禍以降初の二部制にしてじっくりと名作を鑑賞いただく構成とする。また、公演期間の前後半で開演時間の入れ替えを行い、特定の時間にしか来場できない観客にも複数の公演を観劇いただけるように配慮する。

12月公演は文楽として初めて2会場にまたがる公演となるが、東京都以外の会場で開催することもあり、三部制の各部に特色を盛り込んだ番組編成とする。第一部は現代演劇史に名を刻んだ劇作家たちが書き下ろした意欲作を中心に、第二部は、『一谷嫩軍記』『壇浦兜軍記』と時代物の名作を、第三部は人気作品『曾根崎心中』を取り上げることと併せて開演時間を18時45分とし、勤め帰りの観客の動員を図る。

2月公演では、王代物の大作、『妹背山婦女庭訓』を代替劇場移行後、初の通し上演で実施する。この作品は文楽作品の中でも屈指の豪華絢爛な舞台で知られるが、「きゅりあん」そして「文京シビックホール」という文楽上演が初めてながら、充実した機構と荘厳さを備えた空間を有する両会場でその魅力を十分に堪能していただく。また、昨年秋に文化功労者として顕彰された吉田和生の顕彰記念公演とし、和生の当たり役の一つである「後室定高」を配役して公演に厚みをもたせる。

9月文楽鑑賞教室は、現代演劇を専門的に上演する新国立劇場小劇場において開催するにあたり、独特の舞台構造を生かせるような演出を随所に取り入れ、従来の文楽の観客以外の、新たなファン層を取り込むことを狙う。また、同時期に新国立劇場中劇場で開催される歌舞伎公演でも同じ『夏祭浪花鑑』を上演することで、世間の注目を集め、それぞれの観客に異なる芸能への興味を喚起させる。また、本企画の目的である青少年への普及のみならず、15日間すべてに18時開演の部を設け、内11ステージを「社会人のための文楽鑑賞教室」、4ステージを「Discover BUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室」として、それぞれ社会人を中心とする成人や、在日・訪日外国人や外国語学校の生徒等に向けた取り組みも行い、幅広い層への文楽鑑賞の紹介を目指す。

9～10月には振興会主催では初の海外公演(米国)を行い、文楽の魅力を広く海外に発信し、日本文化への求心力を高める企画とする。

○

4月に開場40周年を迎える文楽劇場は、年間を通じて「開場40周年記念公演」と銘打ち、人形浄瑠璃文楽の多様な魅力を提供するとともに、記念公演にふさわしい演目を選定する。大阪・関西万博を次年度に控え、万博会場の地元の劇場としての存在と世界に誇る日本の伝統芸能としての文楽の魅力をアピールする。

4月公演は、豊竹呂太夫改め十一代目豊竹若太夫襲名披露を中心に据えた三部制。開場40周年と人形浄瑠璃の世界で由緒のある名跡の復活を前面に打ち出す。第二部で「襲名披露口上」と披露狂言『和田合戦女舞鶴』市若初陣の段を上演。市若初陣の段における大阪での57年ぶりの上演にあたり、上演が途絶えていた同段の「中」の場面を84年ぶりに復活する。襲名披露演目を間に挟み、舞踊の要素が強い演目として『団子売』で幕を開け、コミカルな内容の『釣女』で締め括る。第一部では『絵本太功記』を、主人公の武智光秀(史実の明智光秀)の謀反と一族の悲劇に焦点を絞った場面構成で上演。第三部では、花見の季節に合わせて訪日するインバウンドや文楽鑑賞の初心者の来場を企図し、歴史上の有名な人物・武蔵坊弁慶の意外な過去を題材にした『御所桜堀川夜討』に続き、華やかな掛合の演奏と立廻りの派手な演出による『増補大江山』を上演。

学校機関の夏季休暇期間に実施する夏休み特別公演は、第一部「親子劇場」、第二部「名作劇場」、第三部「サマーレイトショー」と、来場者の対象を明確に打ち出した方針に基づく三部制。第一部は、未就学児や小学生の観客育成を図り、親子で気軽に楽しめる内容を2時間強の上演時間で企画。まず、桐竹勘十郎が文楽普及の一環として幼稚園での上演用に脚本と演出を手掛けた『ひょうたん池の大なまず』を、文楽公演で初めて上演する。人形遣いの体験コーナーを設けた「解説 文楽ってなあに」を挟み、文楽劇場の開場以降に「親子劇場」のレパートリーに定着して人気の高い『西遊記』の中から、昨年と同公演の続編として猪八戒の登場場面を抜粋して上演する。第二部は夏狂言の代表作『生写朝顔話』を、美男美女の出会いと別れのドラマの流れが分かりやすい場面構成と現役の人間国宝4名が勢揃いした配役で上演し、旧来の愛好者が文楽の魅力を堪能できる公演とする。第三部は、近松門左衛門没後300年として、文楽以外の分野でもたびたび取り上げられる異色の世話物『女殺油地獄』を、切語りの豊竹若太夫をはじめとするベテランと吉田

玉助や吉田一輔を中心にした次世代を担う演者との共演で、大阪では6年ぶりに上演する。

11月文楽公演は、令和6年度(第79回)文化庁芸術祭主催公演を兼ね、開場40周年記念ならではの演目として、過去の記念公演でもたびたび上演された屈指の大曲『仮名手本忠臣蔵』の通し上演を企画。上演にあたり、新型コロナウイルス感染症の発症以降実施していなかった昼夜二部制を4年ぶりに実施。夜公演の終演が20:30以降になることを敬遠する近年の来場者の傾向に鑑み、第一部は、物語の発端にあたる大序から塩谷判官の切腹と家臣の大星由良助の決意を描く四段目までの全場面、第二部は、塩谷家家臣の早野勘平の悲劇を描く五段目・六段目と由良助の偽りの遊興を描く七段目までの上演とし、従来は一日の中で上演していた八段目・九段は初春公演に譲り、同公演への集客誘導も企図する。また、第二部の冒頭には、開場40周年を記念する祝儀曲『靉猿』を上演する。

初春文楽公演は、吉田和生文化功労者顕彰記念を中心に据えた三部制。第二部で記念演目として、11月公演『仮名手本忠臣蔵』の続編となる八段目・九段目を上演。妻戸無瀬を勤める和生の慶事を盛り上げるため、配役には当代のトップクラスと適役を揃える。また、令和7年が浄瑠璃作者・近松半二の生誕300年にあたることにちなみ、人気の高い代表作の中から、第一部では世話物の『新版歌祭文』、第三部では時代物の『本朝廿四孝』の四段目を取り上げる。各部の特徴を明確に打ち出すため、各部一作品に絞るという方針に則り、第一部・第三部ともに、名場面を中心に物語の背景が浮き彫りになる場面構成で上演する。

(a) 公演実績

公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
		回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
5月文楽公演 第一部「寿柱立万歳」「豊竹呂太夫改め十一代目豊竹若太夫襲名披露口上」「和田合戦女舞鶴」「近頃河原の達引」／第二部「ひらかな盛衰記」	5/9～27 シアター1010	36	18	11,258	56.0%	36	18	16,070	80.0%	70.1%
12月文楽公演 第一部「日高川入相花王」「瓜子姫とあまんじゃく」「金壺親父恋達引」／第二部「一谷嫩軍記」「壇浦兜軍記」／第三部「曾根崎心中」	12/4～19 江東区文化センター・ 神奈川県立青少年センター	36	12	10,960	55.0%	36	12	12,288	61.8%	89.2%
2月文楽公演 通し狂言「妹背山婦女庭訓」	2/8～16 きゅりあん・ 文京シビックホール	48	16	14,193	35.3%	48	16	25,117	45.4%	56.5%
9月文楽鑑賞教室 「伊達娘恋緋鹿子」／解説 文楽の魅力「夏祭浪花鑑」	9/7～22 新国立劇場小劇場	45	15	12,165	76.8%	45	15	12,672	80.0%	96.0%
文楽(東京)【小計】	4公演 計画4公演	165	61	48,576	50.6%	165	61	66,147	59.5%	73.4%
4月文楽公演「絵本太功記」／「団子売」／十一代目豊竹若太夫襲名披露口上」「和田合戦女舞鶴」「釣女」／「御所桜堀川夜討」「増補大江山」	4/6～29 文楽劇場	69	23	17,293	34.3%	69	23	18,000	35.7%	96.1%
夏休み文楽特別公演 「ひょうたん池の大なまず」 「解説 文楽ってなあに？」 「西遊記」／「生写朝顔話」 「女殺油地獄」	7/20～8/12 文楽劇場	66	22	19,273	41.1%	66	22	18,000	37.3%	107.1%
11月文楽公演 「仮名手本忠臣蔵」／「靉猿」 「仮名手本忠臣蔵」	11/2～24 文楽劇場	44	22	15,531	48.3%	44	22	17,000	52.9%	91.4%
初春文楽公演 「新版歌祭文」／「仮名手本忠臣蔵」／「本朝廿四孝」	1/3～26 文楽劇場	69	23	18,604	36.9%	69	23	17,500	34.7%	106.3%
6月文楽鑑賞教室 「二人三番叟」／解説 文楽へようこそ」／菅原伝授手習鑑」	6/6～20 文楽劇場	28	14	13,052	63.8%	28	14	14,000	68.4%	93.2%
文楽(大阪)【小計】	5公演 計画5公演	276	104	83,753	41.8%	276	104	84,500	41.9%	99.1%

文楽【合計】	9 公演 計画:9 公演	441	165	132,329	44.6%	441	165	150,647	48.1%	87.8%
--------	-----------------	-----	-----	---------	-------	-----	-----	---------	-------	-------

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・文楽公演専門委員会(本館)について、第1回を7/8に、第2回を3/13に開催した。

(c) アンケート調査

区分	公演数	配布数(A)	回収数(B)	回答数(C)	満足数(D)	回収率 (B/A)	満足回答率 (D/C)
東京	4 公演	2,232	1,423	1,230	1,203	63.8%	97.8%
大阪	5 公演	1,363	964	912	907	70.7%	99.5%
合計	9 公演	3,595	2,387	2,142	2,110	66.4%	98.5%

(d) 優れた業績・評価すべき点

<東京公演>

- ・5月公演はコロナ禍以降初、5年ぶりとなる二部制を実施し、ゆったりとした構成、半通し上演、食事の取れる25分休憩など、襲名披露公演にまつわる様々な企画とあいまって、代替劇場においても娯楽性豊かな公演形態・観劇環境を実現できることが実証できた。宣伝活動は襲名披露を前面に押し出しつつ、区民サービスとして文楽鑑賞の機会を提供するなど、開催地域と連携した企画を実施した。インバウンドを含む外国人の集客については、昨年度より開始した海外OTAでの販売実績が少しずつ伸びてきている。また、日本博事業により、英語のイヤホンガイドを全日程全演目で実施することができた。今後も継続して外国人の集客増加に努めたい。
- ・12月公演はかねてより文楽劇場夏休み特別公演で好評を博しながら東京公演で上演する機会に恵まれなかった『瓜子姫とあまんじゃく』『金壺親父恋達引』を上演し、三部制の各部に特色を持たせるとともに、東京での文楽公演におけるレパートリーの拡大に資することができた。歌舞伎鑑賞教室、演芸場定席に続く江東区での公演は、地元自治体や関連団体との関係構築も順調に進み、引き続き様々なジャンルでの公演を予定しており、今後の開催に弾みがつけられた。
- ・2月公演は代替劇場に移行して初の通し上演を敢行し、より本格的な文楽公演を開催していこうとする振興会の姿勢を示すとともに芸芸の伝承にも資することができた。文化功労者に選任された吉田和生の遣う後室定高は、顕彰記念公演にふさわしい芸格の高さを示した。また、大役である藤原淡海役の中堅の吉田玉勢と吉田簗紫郎もそれぞれに抜擢に応える健闘を見せた。演目決定・発表が公演の9か月前、配役が6か月前と早い時期での公演内容の周知が実現し、品川区、文京区とも連携を深めることができ、販売の拡大に大きく資することとなった。
- ・9月鑑賞教室は舞台機構をはじめとする新国立劇場小劇場の特色を活用した演目選定と大道具設計や転換の工夫、斬新な照明が効果を発揮し、一般観客を中心としたSNS上で大いに評判を呼んだ。新たなファン層に文楽の魅力をアピールできたと言える。歌舞伎との「同時期同劇場の『夏祭』競演」は世間の耳目を集めるばかりでなく、特に抜擢した若手芸員に大きな刺激となり、連日熱のこもった舞台が展開された。解説は冒頭に芸員が客席から登場、通路を回りながら観客に語り掛けるなど、客席との距離が近い小劇場の構造を生かし、観客に親近感を持っていただく効果を発揮した。

<文楽海外公演>

9/26～10/14にかけて、ニューヨークの日米交流団体ジャパン・ソサエティのコーディネートにより北米5都市で文楽公演を実施、併せてヒューストンを除く4都市でワークショップを開催した。各会場ともチケットは完売、ワークショップには定員を超える応募があった。

上演内容は、『伊達娘恋緋鹿子』火の見櫓の段／解説／『曾根崎心中』天神森の段。『曾根崎心中』は背景として大道具を使用せずアニメーション映像を投影することにより、道具運搬の負担を軽減し、地方や海外での本格的な文楽公演実施の可能性を広げることに寄与した。

開催都市	カリフォルニア州ロサンゼルス(9/28)	1 公演
	コネチカット州フェアフィールド(10/1)	1 公演
	ニューヨーク州ニューヨーク(10/3～5)	4 公演
	ワシントン D.C. (10/8・9)	2 公演
	テキサス州ヒューストン(10/12)	1 公演

<大阪公演>

- ・文楽劇場は年間を通じて「開場40周年記念公演」と題し、一日にわたる通し上演、上演が稀な場面の復活、レパートリーの拡充を通じて、人形浄瑠璃文楽の本拠地として文楽の多彩な魅力を発信する公演の実施に

努めた。

- ・4月文楽公演では、第二部の豊竹若太夫襲名披露狂言『和田合戦女舞鶴』市若初陣の段で、東京を含めても36年ぶりの上演と導入部の「中」の84年ぶりの復活にあたり、演者とスタッフが、限られた資料を基に作品の意図に則って演出を新たに構築した。その成果として、クライマックスに至る経緯が鮮明になるとともに、太夫・三味線・人形の各業の高い表現力が評価された。
- ・夏休み文楽特別公演では、従来は幼稚園等の小規模の会場で上演していた第一部の『ひょうたん池の大なまず』を今回初めて劇場空間で上演するにあたり、舞台装置や人形の演技等の演出を新たに考案した。好評を得て、レパトリーの拡充に寄与した。舞台装置や人形の演技等の演出を新たに考案し、好評を得たので、レパトリーの拡充に寄与した。また、『西遊記』は、専門委員の意見を踏まえた詞章の口語体への変更や孫悟空と妖怪銀角との格闘を表現した二人宙乗りの演出等で、小学生以下の年齢層の来場者に分かりやすく伝えるための台本や演出を心掛けた。第三部の『女殺油地獄』は、今後の世代交替を見据えた配役で舞台の成果を高めることに繋げた。
- ・11月文楽公演は、開場40周年記念企画として屈指の大曲『仮名手本忠臣蔵』の大序から七段目までの全場面の通し上演に挑み、新型コロナウイルス感染症の発症以降途絶えていた二部制を4年ぶりに実施した。人形浄瑠璃文楽の当代の総力を結集した公演として高い評価を受け、入場料金の値上げと公演費の圧縮の効果も反映され、公演収支は黒字となった。
- ・初春文楽公演は、吉田和生の文化功労者顕彰という慶事を祝うとともに、11月公演との連動企画として『仮名手本忠臣蔵』の八段目・九段目を上演し、文楽の人間国宝4名全員を含めた当代の好配役を揃えたことで、入場者数は第二部に集中して増加し、全体の入場者数が目標を超えるとともに、三部制の入場料金の値上げと公演費の圧縮の効果も反映され、公演収支も黒字となった。

【特記事項】

- ・5/6、西新井大師にて十一代目豊竹若太夫襲名披露キャンペーンを実施。5/8、シアター1010にて「襲名披露 前夜祭」を開催(5月公演)。
- ・共催：江東区、公益財団法人江東区文化コミュニティ財団共催(12月江東区文化センター公演)
- ・公道に面した敷地入口から会場のホール入口まで、公演にちなんだ「幟」を並べて設置(12月江東区文化センター公演)。
- ・吉田和生文化功労者顕彰記念(文楽劇場：初春文楽公演、2月公演)
- ・公益財団法人品川文化振興事業団共催(2月きゅりあん公演)、公益財団法人文京アカデミー共催(2月文京シビックホール公演)
- ・文京シビックホール25周年記念公演(2月文京シビックホール公演)
- ・令和6年度日本博2.0事業(参画型)
- ・関西元気文化圏共催事業(文楽劇場：全公演)
- ・令和6年度日本博2.0事業(委託型)として、英語版イヤホンガイドを全日程で実施(文楽劇場：4月・11月・初春文楽公演、夏休み文楽特別公演第二部・第三部)。
- ・令和6年度(第79回)文化庁芸術祭主催公演(文楽劇場：11月文楽公演)
- ・竹本千歳太夫が、国立文楽劇場11月文楽公演『仮名手本忠臣蔵』祇園一力茶屋の段の大星由良助の成果により、令和6年度大阪文化祭賞を受賞した。

③ 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等

《制作方針》

本館の舞踊公演では、動物をテーマに新旧の舞踊作品を上演し、日本舞踊の多彩な魅力を伝える。演目前に解説を入れることで、初めて鑑賞する人や訪日外国人も演目に対する理解を深めて鑑賞いただける環境づくりを目指す。

邦楽公演では、大河ドラマの主人公になった蔦屋重三郎が生きた時代の音楽を特集した企画性の高い公演を実施する。また体験も交えた解説と曲の鑑賞の二本立てによる入門公演を行い、邦楽に親しめるきっかけづくりを行う。いずれも、公演の意図に適した演奏家を中堅・若手も含めて積極的に起用する。

声明公演では、真言宗智山派総本山智積院の声明を取り上げる。公演の前半に声明や演目についての解説をし、後半の本編ではダイナミックな所作をはじめ見どころが多い「大般若転読会」を上演する構成とすることで、初めて鑑賞する人や訪日外国人にも声明に興味を持ち、理解を深めていただくことを目指す。

○

開場 40 周年を迎えた文楽劇場は、年間を通じて全ての主催公演に「開場 40 周年記念公演」と銘打ち、従来の制作方針に加え、記念公演にふさわしい内容を企画する。

舞踊公演では、日本舞踊界を代表する舞踊家と演奏家の総出演により、文楽劇場ならではの高い水準の舞踊公演を継続的に提供している。10 月「東西名流舞踊鑑賞会」では、日本舞踊界の第一線で華々しい活躍をみせる東西の舞踊家が一堂に会する舞踊公演として、ご祝儀曲、座敷舞、歌舞伎舞踊など多彩な舞踊作品を上演し、日本舞踊の魅力を堪能できる内容とする。特に今回は記念公演として、本会に縁の深い上方舞及び東西各流派の代表者が一堂に会し、世代を超えて継承される芸の真髄を披露するほか、技芸の継承及びレパートリーの拡充のための試みも実施する。

邦楽公演では、文楽座の太夫・三味線弾きの演奏のみで物語を表現して来場者の想像力を刺激することで、義太夫節という音楽の魅力を提供する「文楽素浄瑠璃の会」を 6 月に実施。今回は記念公演として、切語り 2 名の出演を得るとともに、文楽公演での共演が稀少である太夫・三味線による演奏も披露する。

特別企画公演は 5 月と 9 月に実施する。5 月「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」は、躍進めざましい舞踊家、演奏家に脚光を当てて舞踊・邦楽界の将来を展望する。今回は記念公演にふさわしい実力派が顔を揃える。9 月「浄土宗総本山知恩院の声明」は、開場以降初めて浄土宗の声明を取り上げる。趣の異なる二つの大法要を取り上げ、祖山流声明の代表曲や念佛曲の豊かなバリエーションを紹介する。

(a) 公演実績

《分野別 公演実績》

分野	実績					計画					達成率
	公演数	回数	日数	入場者数	入場率	公演数	回数	日数	入場者数	入場率	
舞踊	3	5	3	1,418	56.5%	3	5	3	1,540	62.9%	92.1%
邦楽	3	4	3	933	50.1%	3	3	3	940	58.9%	99.3%
雅楽	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
声明	1	1	1	1,112	93.8%	1	1	1	980	79.8%	113.5%
民俗芸能	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
琉球芸能	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
特別企画	2	2	2	1,059	74.1%	2	2	2	850	59.4%	124.6%
舞踊・邦楽等 【合計】	9	12	9	4,522	64.7%	9	11	9	4,310	64.3%	104.9%

《公演別 公演実績》

公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
		回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
8 月舞踊公演 「日本舞踊の楽しみ—日本舞踊 の中の動物たち—Discover NIHONBUYO with Animals」	8/10 浅草公会堂	1	1	554	57.1%	1	1	860	86.5%	64.4%
3 月舞踊イベント 「鎌倉 建長寺で楽しむ座敷舞」	3/1 建長寺・応真閣	2	1	183	99.5%	2	1	100	100.0%	183.0%

公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
		回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
Japanese classical dance performance in Kenchoji Temple]										
舞踊(東京)【小計】	2 公演 計画:2 公演	3	2	737	63.9%	3	2	960	87.8%	76.8%
8 月邦楽公演 「はじめての邦楽―箏の魅力― Discover HOGAKU : The charm of“KOTO”」	8/31 文京シビック小 ホール	2	1	105	16.5%	1	1	220	64.5%	47.7%
1 月邦楽公演 「江戸っ子びいきの名曲―葛屋 重三郎・喜多川歌麿の生きた時 代― Discover HOGAKU: Hit tunes in EDO」	1/25 よみうり大手町 ホール	1	1	357	75.8%	1	1	330	65.9%	108.2%
邦楽(東京)【小計】	2 公演 計画:2 公演	3	2	462	41.7%	2	2	550	65.3%	84.0%
2 月声明公演 「真言宗智山派 総本山智積院の声明 Discover SHOMYO: Shomyo(Buddhist chant) of Chishakuin Temple」	2/1 ティアラこうとう	1	1	1,112	93.8%	1	1	980	79.8%	113.5%
声明(東京)【小計】	1 公演 計画:1 公演	1	1	1,112	93.8%	1	1	980	79.8%	113.5%
舞踊・邦楽等(東京)【合計】	5 公演 計画:5 公演	7	5	2,311	67.0%	6	5	2,490	78.7%	92.8%
10 月舞踊公演 「東西名流舞踊鑑賞会」	10/12 文楽劇場	2	1	681	50.3%	2	1	580	42.8%	117.4%
舞踊(大阪)【小計】	1 公演 計画:1 公演	2	1	681	50.3%	2	1	580	42.8%	117.4%
6 月邦楽公演 「文楽素浄瑠璃の会」	6/29 文楽劇場	1	1	471	62.5%	1	1	390	51.8%	120.8%
邦楽(大阪)【小計】	1 公演 計画:1 公演	1	1	471	62.5%	1	1	390	51.8%	120.8%
5 月舞踊・邦楽公演 「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」	5/11 文楽劇場	1	1	426	62.9%	1	1	290	42.8%	146.9%
9 月特別企画 「浄土宗総本山 知恩院の声明」	9/7 文楽劇場	1	1	633	84.1%	1	1	560	74.4%	113.0%
特別企画(大阪)【小計】	2 公演 計画:2 公演	2	2	1,059	74.1%	2	2	850	59.4%	124.6%
舞踊・邦楽等(大阪)【合計】	4 公演 計画:4 公演	5	4	2,211	62.5%	5	4	1,820	51.5%	121.5%
舞踊・邦楽等【総合計】	9 公演 計画:9 公演	12	9	4,522	64.7%	11	9	4,310	64.3%	104.9%

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※計画時に会場未定だった 11 月舞踊公演については、会場決定に伴い実施形態を見直し、3 月舞踊イベントとして開催した。

(b) 外部専門家等の意見

- ・公演専門委員会を本館各ジャンルで各 2 回開催。
 - ◇舞踊公演専門委員会 第 1 回は書面開催、第 2 回は 3/24。
 - ◇邦楽公演専門委員会 第 1 回は書面開催、第 2 回は 3/12。
 - ◇雅楽・声明公演専門委員会 第 1 回は書面開催、第 2 回は 3/18。
- ・短期公演等専門委員会(文楽劇場)を 2 回開催。第 1 回は 7/31、第 2 回は 2/27。

(c) アンケート調査

公演数	配布数(A)	回収数(B)	回答数(C)	満足数(D)	回収率 (B/A)	満足回答率 (D/C)
8 公演	3,534	2,102	1,794	1,758	59.5%	98.0%

※邦楽 1 公演、特別企画 2 公演で紙によるアンケートを実施。

(d) 優れた業績・評価すべき点

《本館》

＜舞踊＞

- ・ 8 月 「動物」をテーマに歌舞伎舞踊 2 作品、昭和に創作された舞踊 2 作品を上演した。現代に通じる面白さを持つ作品の鑑賞及び、逐次通訳付きの幕間解説と、字幕アプリによるリアルタイム解説は、「初めて見た演目でも内容の理解ができた」等、高評価を得て、初心者にも日本舞踊をより身近に感じていただくことができた。
- ・ 3 月イベント 北鎌倉の建長寺において「建長寺で楽しむ座敷舞」を開催した(東アジア文化都市 2025 鎌倉市認証事業)。建長寺内の応真閣(大庫裏)というコンパクトで落ち着いた空間で、人間国宝・井上八千代と山村友五郎という上方舞を代表する二人の舞と対談により、本来の座敷舞の魅力を伝えた。

＜邦楽＞

- ・ 8 月 観客参加型の口唱歌体験などを交えた解説では、観客の反応も良く、楽しく箏の魅力を紹介することができた。上演する 2 作品の見どころについて実演家本人が解説したことにより、観客がより親しみを持って作品を鑑賞する環境を整えることができた。
- ・ 1 月 本年の大河ドラマで話題になっている「蔦屋重三郎」と同時代に生きた人々によって作られた趣向が異なる 4 作品の上演で、邦楽の幅広さ、趣の違いなどを紹介することができた。

＜声明＞

- ・ 2 月 昭和 51 年 11 月以来の出演となる真言宗智山派総本山智積院の声明を上演した。演目の「大般若転読会」は令和 5 年 8 月の公演でも取り上げたが、今回は雅楽が入る華やかな演出として、智山派ならではの声明を披露した。併せて、初めて声明を鑑賞する人や外国人客に向けた解説及び字幕を用意して鑑賞の一助とした。また、開催場所の自治体と連携して事前講座や公演の広報・周知を行ったこともあり、多くの地元の方々に来場いただけたことで、国立劇場の新規客層の開拓に寄与することができた。

《文楽劇場》

＜舞踊＞

- ・ 10 月舞踊公演「東西名流舞踊鑑賞会」では、当会に縁の深い、東西の舞踊家の総出演によって、開場 40 周年記念公演にふさわしく祝意に満ちた豪華番組が実現した。本公演シリーズでは上方舞各流の家元や重鎮の競演が毎年継続的に実現しており、各流の芸の継承面において大変意義深い。また、新規演出や新規振付曲の上演、稀曲の台本整理など技芸の継承やレパートリーの拡充に寄与する試みも実施できた。

＜邦楽＞

- ・ 6 月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」では、文楽公演では共演の機会が稀少な中堅層の竹本織太夫と実弟・鶴澤清菫による六代竹本綱太夫(二代織太夫)ゆかりの『卅三間堂棟由来』、切語りの竹本鋳太夫と鶴澤藤蔵による時代世話の『伊賀越道中双六』沼津の段、切語りの竹本千歳太夫と豊澤富助による二段目物の傑作『菅原伝授手習鑑』丞相名残の段と、趣向の異なる 3 曲の競演で浄瑠璃の多様な魅力を十分に伝えることができた。

＜特別企画＞

- ・ 5 月特別企画公演「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」は、開場 40 周年記念公演にふさわしい実力派の実演家が大曲、名曲に挑戦して充実した舞台成果を挙げた。また、気鋭の舞踊家 5 名による群舞や、初紹介となる平曲の上演により、舞踊と邦楽の幅広い魅力に触れてもらうことができた。
- ・ 9 月特別企画公演「浄土宗総本山知恩院の声明」では、本堂の御影堂を彷彿とさせる荘重な法要空間を舞台上に再現して、法要形式に則り「慶讃法要」と「御忌大会」を上演した。劇場の機構をいかした演出も取り入れて、知恩院に伝わる浄土宗祖山流声明の特徴と魅力を十分に伝えることができた。

【特記事項】

- ・ 令和 6 年度令和 6 年度日本博 2.0 事業(委託型)
文楽劇場
 - ① 最高水準の日本の伝統芸能公演として英語での紹介チラシを作成(5 月特別企画公演、6 月邦楽公演、9 月特別企画公演)
 - ② インバウンド向け舞踊・邦楽公演配信事業(8 月 9 日～令和 7 年 9 月 30 日)の実施(5 月特別企画公

演)

- ・令和6年度日本博2.0事業(参画型)(文楽劇場：全公演)
- ・関西元気文化圏共催事業(文楽劇場：全公演)
- ・令和6年度(第79回)文化庁芸術祭主催公演(文楽劇場：10月舞踊公演)
- ・井上安寿子が、5月特別企画公演「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」の地歌舞「鉄輪」の成果により、大阪文化祭賞奨励賞を受賞した。

④ 大衆芸能

《制作方針》

寄席で演じられる大衆芸能には、落語・講談・浪曲のほか、奇術・太神楽曲芸・漫才・漫談・コント・ものまね・俗曲といった多種多様な分野の芸能が含まれている。また、落語に代表されるように、江戸と上方といった地域ごとに独自の発展を遂げてきた分野の芸能もある。国立演芸場及び国立文楽劇場では、大衆芸能の多様な内容を幅広く取り入れ、地域性を加味した公演を企画・立案し、その普及・振興を図るとともに、演芸家の技芸の伝承にも配慮した公演の制作を行うこととする。

演芸場では、従来からの寄席形式で構成する定席公演を中心に大衆芸能公演を実施する。

定席公演は、公益社団法人落語芸術協会及び一般社団法人落語協会所属の演芸家を中心に出演者を選定する。落語、講談、浪曲、奇術、太神楽曲芸、漫才、コント、俗曲等、様々な分野の演芸家が出演することによって大衆芸能の多彩な魅力を伝えとともに、世代、性別を問わず幅広い観客層が楽しめるような公演を企画する。また、民間の寄席に比べ、一人(組)当たりの高座時間を長く確保することによって、内容を割愛することなく落語を一席務めることができるようにするなど、技芸の伝承にも配慮した公演制作を目指す。

若手新人公演は、各分野の若手演芸家が、年間で花形演芸大賞を競う競争性の高い公演で、優秀者に賞を授与することで、その育成と技芸向上を目指す。落語に限らず、多種多様な大衆芸能の分野からの出演者を選定する。

初代国立演芸場開場後、令和6年1月より代替施設において定席に相当する公演を「国立演芸場寄席」と題し、若手新人公演とともに継続している。

○

文楽劇場では、大阪における伝統的な演芸場のかつての賑わいを取り戻すべく、上方の大衆芸能の普及・振興を目指している。特に令和6年度は、年間を通じて「開場40周年記念公演」と銘打ち、記念公演にふさわしい番組も企画する。

2月「浪曲名人会」は、開場の翌年の昭和61年(1986)から開催し、関西浪曲界の第一人者が揃う恒例の公演。今回は、「浪曲語り」が国の重要無形文化財に指定されたことを受け、重要無形文化財保持者(各個認定)の京山幸枝若による長講を中心に、当代のベテランが得意の名作を披露する番組を企画し、語り物芸能としての浪曲の魅力を堪能できる機会を提供する。

5月「浪曲錬声会」は、次代を担う若手浪曲師の「語り」の向上を目的にした二部制の公演。若手浪曲師4名に各部1曲の口演で日頃の研鑽の成果を披露させ、今後の飛躍に繋げる公演とする。今回は、前年度に各方面で受賞して評価を得た出演者を揃える

奇数月開催の「上方演芸特選会」では、落語、浪曲、漫才、マジックなど多彩な演芸種目を上演する昔ながらの寄席として、上方演芸4団体(上方落語協会・浪曲親友協会・関西演芸協会・関西芸能親和会)と協力して大衆芸能各分野の技芸の継承保存に努め、関西演芸界の振興に寄与していく。今年度は、開場40周年記念企画として、4団体の会長が一堂に会して思い出を語る座談会「笑話会～会長勢揃い」を11月に実施する。

(a) 公演実績

公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
		回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
4月国立演芸場寄席(11日～15日)	4/11～15 紀尾井小ホール	5	5	777	62.2%	5	5	770	61.6%	100.9%
4月国立演芸場寄席(16日～20日)	4/16～20 紀尾井小ホール	5	5	286	22.9%	5	5	770	61.6%	37.1%
5月国立演芸場寄席(21日～25日)	5/21～25 紀尾井小ホール	5	5	1,213	97.0%	5	5	770	61.6%	157.5%
5月国立演芸場寄席(26日～30日)	5/26～30 紀尾井小ホール	5	5	344	27.5%	5	5	770	61.6%	44.7%
6月国立演芸場寄席(11日～15日)	6/11～15 紀尾井小ホール	5	5	875	70.0%	5	5	770	61.6%	113.6%
6月国立演芸場寄席(16日～20日)	6/16～20 紀尾井小ホール	5	5	669	53.5%	5	5	770	61.6%	86.9%
7月国立演芸場寄席(16日～20日)	7/16～20 紀尾井小ホール	5	5	985	78.8%	5	5	770	61.6%	127.9%
7月国立演芸場寄席(23日～27日)	7/23～27 紀尾井小ホール	5	5	453	36.2%	5	5	770	61.6%	58.8%

公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
		回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
8 月国立演芸場寄席(16 日～20 日)	8/16～20 内幸町ホール	5	5	656	71.7%	5	5	570	62.3%	115.1%
8 月国立演芸場寄席(21 日～25 日)	8/21～25 内幸町ホール	5	5	443	48.4%	5	5	570	62.3%	77.7%
9 月国立演芸場寄席(3 日～7 日)	9/3～7 紀尾井小ホール	5	5	259	20.7%	5	5	770	61.6%	33.6%
9 月国立演芸場寄席(11 日～15 日)	9/11～15 内幸町ホール	5	5	296	32.3%	5	5	570	62.3%	51.9%
10 月国立演芸場寄席(1 日～5 日)	10/1～5 深川江戸資料館	5	5	248	21.4%	5	5	730	62.9%	34.0%
10 月国立演芸場寄席(11 日～15 日)	10/11～15 内幸町ホール	5	5	326	35.6%	5	5	570	62.3%	57.2%
11 月国立演芸場寄席(6 日～10 日)	11/6～10 深川江戸資料館	5	5	796	68.6%	5	5	730	62.9%	109.0%
11 月国立演芸場寄席(26 日～30 日)	11/26～30 内幸町ホール	5	5	390	42.6%	5	5	570	62.3%	68.4%
12 月国立演芸場寄席(15 日～19 日)	12/15～19 内幸町ホール	5	5	415	45.4%	5	5	570	62.3%	72.8%
12 月国立演芸場寄席(23 日～27 日)	12/23～27 紀尾井小ホール	5	5	372	29.8%	5	5	770	61.6%	48.3%
1 月国立演芸場寄席(6 日～10 日)	1/6～10 紀尾井小ホール	5	5	1,068	85.4%	5	5	770	61.6%	138.7%
1 月国立演芸場寄席(11 日～15 日)	1/11～15 紀尾井小ホール	5	5	441	35.3%	5	5	770	61.6%	57.3%
2 月国立演芸場寄席(4 日～8 日)	2/4～8 紀尾井小ホール	5	5	361	28.9%	5	5	770	61.6%	46.9%
2 月国立演芸場寄席(11 日～15 日)	2/11～15 内幸町ホール	5	5	778	85.0%	5	5	570	62.3%	136.5%
3 月国立演芸場寄席(11 日～15 日)	3/11～15 紀尾井小ホール	5	5	600	48.0%	5	5	770	61.6%	77.9%
3 月国立演芸場寄席(25 日～29 日)	3/25～29 紀尾井小ホール	5	5	600	48.0%	5	5	770	61.6%	77.9%
定席公演【小計】	24 公演 計画:24 公演	120	120	13,651	49.7%	120	120	17,000	61.9%	80.3%
4 月花形演芸会	4/27 大和田伝承ホール	1	1	245	84.5%	1	1	270	93.1%	90.7%
5 月花形演芸会	5/12 大和田伝承ホール	1	1	153	52.8%	1	1	270	93.1%	56.7%
6 月花形演芸会	6/29 大和田伝承ホール	1	1	204	70.3%	1	1	270	93.1%	75.6%
7 月花形演芸会	7/14 大和田伝承ホール	1	1	174	60.0%	1	1	270	93.1%	64.4%
8 月花形演芸会	8/10 大和田伝承ホール	1	1	240	82.8%	1	1	270	93.1%	88.9%
9 月花形演芸会	9/22 大和田伝承ホール	1	1	221	76.2%	1	1	270	93.1%	81.9%
10 月花形演芸会	10/19 大和田伝承ホール	1	1	262	90.3%	1	1	270	93.1%	97.0%
12 月花形演芸会	12/7 大和田伝承ホール	1	1	276	95.2%	1	1	220	75.9%	125.5%
1 月花形演芸会	1/18 大和田伝承ホール	1	1	186	64.1%	1	1	270	93.1%	68.9%
2 月花形演芸会(2/1)	2/1 大和田伝承ホール	1	1	224	77.2%	1	1	270	93.1%	83.0%
2 月花形演芸会(2/22)	2/22 大和田伝承ホール	1	1	175	60.3%	1	1	220	75.9%	79.5%
3 月花形演芸会	3/1 大和田伝承ホール	1	1	231	79.7%	1	1	270	93.1%	85.6%

公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
		回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
花形演芸会【小計】	12 公演 計画:12 公演	12	12	2,591	74.5%	12	12	3,140	90.2%	82.5%
5 月特別企画公演 「立川流落語会」	5/10～11 大和田伝承ホール	2	2	301	51.9%	2	2	540	93.1%	55.7%
7 月特別企画公演 「演芸大にぎわい～東から西から～」	7/15 紀尾井小ホール	1	1	230	92.0%	1	1	270	93.1%	85.2%
9 月特別企画公演 「五代目圓楽一門会」	9/21 大和田伝承ホール	2	1	359	61.9%	2	1	540	93.1%	66.5%
1 月特別企画公演 「国立名人会」	1/2 大和田伝承ホール	1	1	280	96.6%	1	1	270	93.1%	103.7%
特別企画【小計】	4 公演 計画:4 公演	6	5	1,170	68.8%	6	5	1,620	93.1%	72.2%
大衆芸能(東京)【合計】	40 公演 計画:40 公演	138	137	17,412	53.3%	138	137	21,760	66.6%	80.0%
浪曲名人会	2/22 文楽劇場	1	1	720	95.6%	1	1	500	66.4%	144.0%
浪曲名人会【小計】	1 公演 計画:1 公演	1	1	720	95.6%	1	1	500	66.4%	144.0%
浪曲錬声会	5/25 文楽小ホール	2	1	249	78.3%	2	1	230	72.3%	108.3%
浪曲錬声会【小計】	1 公演 計画:1 公演	2	1	249	78.3%	2	1	230	72.3%	108.3%
5 月上方演芸特選会	5/15～18 文楽小ホール	4	4	578	90.9%	4	4	545	85.7%	106.1%
7 月上方演芸特選会	7/10～13 文楽小ホール	4	4	532	83.6%	4	4	545	85.7%	97.6%
9 月上方演芸特選会	9/18～21 文楽小ホール	4	4	611	96.1%	4	4	545	85.7%	112.1%
11 月上方演芸特選会	11/20～23 文楽小ホール	4	4	611	96.1%	4	4	545	85.7%	112.1%
1 月上方演芸特選会	1/22～25 文楽小ホール	4	4	630	99.1%	4	4	545	85.7%	115.6%
3 月上方演芸特選会	3/5～8 文楽小ホール	4	4	588	92.5%	4	4	545	85.7%	107.9%
上方演芸特選会【小計】	6 公演 計画:6 公演	24	24	3,550	93.0%	24	24	3,270	85.7%	108.6%
大衆芸能(大阪)【合計】	8 公演 計画:8 公演	27	26	4,519	92.5%	27	26	4,000	81.8%	113.0%
大衆芸能【総合計】	48 公演 計画:48 公演	165	163	21,931	58.4%	165	163	25,760	68.5%	85.1%

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

※7 月特別企画公演については、会場を計画時の大和田伝承ホール(総席数 290 席)から紀尾井小ホール(総席数 250 席)へと変更した。計画入場者数が会場変更後の総席数を上回るため、計画入場率に基づき、計画入場者数を補正する。

(A)補正した計画入場者数、(B)入場者数の対計画達成率はそれぞれ以下のとおり。

7 月特別企画公演(A) 232 人 (B)99.2%、特別企画【小計】(A)1,582 人 (B)74.0%

大衆芸能(東京)【合計】(A)21,722 人 (B)80.2%、大衆芸能【総合計】(A)25,722 人 (B)85.3%。

(b) アンケート調査

公演数	配布数(A)	回収数(B)	回答数(C)	満足数(D)	回収率 (B/A)	満足回答率 (D/C)
6 公演	1,339	794	794	720	59.3%	90.7%

(c) 優れた業績・評価すべき点

- ・文楽劇場の全8公演では、入場者数は7月「上方演芸特選会」を除いて目標を達成するとともに、入場料金の値上げと公演費の圧縮によって全公演ともに公演収支を黒字にすることができた。
- ・文楽劇場2月「浪曲名人会」は、京山幸枝若の浪曲界初の人間国宝認定を契機に企画した本会初の長講とベテランの三原佐知子の3年ぶりの舞台復帰で注目を集め、入場者数が目標の44%増となり、入場率は95.6%を記録し、出演者に當祝を配布した。
- ・文楽劇場「上方演芸特選会」は、7月以外の5公演で90%以上の入場率を記録し、演芸ファンの関心を集めた開場40周年記念企画「笑話会～会長勢揃い」を実施した11月と、京山幸枝若の人間国宝認定を前面に出した1月では、出演者に當祝を配布した。また、1月には「上方演芸特選会」の公演の黒字額が過去最高となった。

【特記事項】

- ・令和6年度日本博2.0事業(参画型)(文楽劇場：全公演)
- ・関西元気文化圏共催事業(文楽劇場：全公演)

⑤ 能 楽

《制作方針》

定例公演は、能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスを配慮しつつ、能一番・狂言一番により番組を構成し、初心者にも鑑賞しやすい公演とする。月2回のペースで公演を実施し、年間を通して能・狂言の持つ多様な魅力を余すところなく明らかにする。

普及公演は、能一番・狂言一番に事前の解説をつけ、より分かりやすく、深く鑑賞するための公演とする。能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスを配慮しつつ月1回のペースで公演を実施する。

企画公演は、テーマ性を持たせて能・狂言の魅力を紹介する「企画公演」のほか、上演頻度の低い演目を含めて狂言のみを3演目上演する「狂言の会」、能・狂言を存分に堪能していただく「特別公演」等、企画性をより強調した公演とする。また、毎年夏季に行っている「親子で楽しむ能の会」「親子で楽しむ狂言の会」などに加え、本年も「国立能楽堂ショーケース」を実施し、入門的な内容を軸に新たな観客層を開拓する。さらに年度末には、昭和62年に国立能楽堂で復曲した能「武文」を、演出と台本を大幅に見直し、同じく国立能楽堂にて復曲した狂言「袴裂」と共に上演する。

鑑賞教室は、中高生を中心とした初心者育成のために、名作を選んで分かりやすい形で上演する。学生が親しみを持てるよう、能・狂言上演の前に解説を付ける。また、外国人を主な対象とした公演としては「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」を英語解説付きで実施する。

(a) 公演実績

公演名	日程	回数	日数	入場者数	入場率	達成率
狂言「二九十八」、能「嵐山」	4/10	1	1	623	99.4%	109.3%
狂言「隠笠」、能「夕顔 山ノ端之出・法味之伝」	5/8	1	1	622	99.2%	109.1%
狂言「鱸庖丁」、能「野守 白頭」	5/17	1	1	618	98.6%	108.4%
狂言「地蔵舞」、能「古本による水無月祓」	6/4	1	1	620	98.9%	108.8%
狂言「無布施経」、能「熊野 読次之伝・村雨留・墨次之伝・膝行留」	6/26	1	1	620	98.9%	108.8%
狂言「文荷」、能「弱法師」	7/3	1	1	623	99.4%	109.3%
月間特集 刊行400年 仮名草子「竹斎」と能 狂言「雷」、能「善知鳥」	9/4	1	1	621	99.0%	108.9%
月間特集 刊行400年 仮名草子「竹斎」と能 狂言「膏藥煉」、能「西行桜」	9/20	1	1	622	99.2%	109.1%
狂言「酢薑」、能「巻絹」	10/9	1	1	622	99.2%	109.1%
狂言「仁王」、能「白楽天 鶯蛙」	11/6	1	1	622	99.2%	109.1%
狂言「茶子味梅」、能「鳥追」	12/4	1	1	620	98.9%	108.8%
素謡「翁」、狂言「蛭子大黒」、能「海士 懷中之舞」	1/7	1	1	621	99.0%	108.9%
月間特集 絵巻物と能 狂言「千鳥」、能「隅田川」	2/19	1	1	621	99.0%	108.9%
狂言「口真似」、能「三山」	3/5	1	1	622	99.2%	109.1%
狂言「名取川」、能「景清」	3/19	1	1	620	98.9%	108.8%
定例公演【小計】	15 公演 計画15 公演	15	15	9,317	99.1%	109.0%
解説、狂言「靱猿 替装束」、能「吉野静」	4/13	1	1	623	99.4%	103.8%
解説、狂言「入間川」、能「加茂物狂」	5/11	1	1	620	98.9%	103.3%
解説、狂言「ぬけから」、能「放下僧」	6/8	1	1	623	99.4%	103.8%
解説、狂言「飛越」、能「鶴」	7/13	1	1	623	99.4%	103.8%
月間特集 刊行400年 仮名草子「竹斎」と能 解説、狂言「薩摩守」、能「兼平」	9/14	1	1	622	99.2%	103.7%

公演名	日程	回数	日数	入場者数	入場率	達成率
解説、狂言「舟渡聲」、能「天鼓 弄鼓之楽」	10/12	1	1	623	99.4%	103.8%
解説、狂言「寝音曲」、能「蟬丸 替之型」	11/9	1	1	623	99.4%	103.8%
解説、狂言「察化」、能「通小町」	12/14	1	1	622	99.2%	103.7%
解説、狂言「竹生島参」、能「大蛇」	1/11	1	1	619	98.7%	103.2%
月間特集 絵巻物と能 解説、狂言「吹取」、能「生田敦盛 替之型」	2/22	1	1	623	99.4%	103.8%
解説、狂言「八句連歌」、能「恋重荷」	3/8	1	1	623	99.4%	103.8%
普及公演【小計】	11 公演 計画11 公演	11	11	6,844	99.2%	103.7%
【国立能楽堂ショーケース】 狂言「鎌腹」、能「土蜘蛛」	4/19	1	1	623	99.4%	113.3%
【狂言の会】 狂言「勝栗」、狂言「因幡堂」、狂言「政頼」	5/25	1	1	621	99.0%	107.1%
【特別公演】 能「誓願寺 来迎拍子・札之仕形」、狂言「茶壺」、能「藤戸 蹉跎之伝」	6/29	1	1	622	99.2%	107.2%
【国立能楽堂ショーケース】 狂言「附子」、能「熊坂」	7/17	1	1	623	99.4%	113.3%
【特別公演】 狂言「鬼瓦」、狂言「定家 袖神楽・六道・埋留」	7/25	1	1	616	98.2%	106.2%
【企画公演】女性能楽師による 能「忠度」、能「三輪」	7/27	1	1	621	99.0%	107.1%
【企画公演】親子で楽しむ狂言の会 おはなし、狂言「昆布売」、狂言「瓜盗人」	8/3	1	1	615	98.1%	106.0%
【企画公演】素の魅力 小舞「住吉」、脇仕舞「春栄」、仕舞「鉄輪」、袴能「通盛」	8/8	1	1	619	98.7%	106.7%
【企画公演】親子で楽しむ能の会 おはなし、能「殺生石」	8/24	1	1	615	98.1%	106.0%
【企画公演】狂言と落語・講談 講談「西行法師・鼓ヶ滝」、落語「崇徳院」、狂言「伊文字」	8/29	1	1	620	98.9%	106.9%
月間特集 刊行 400 年 仮名草子「竹斎」と能 【企画公演】蠟燭の灯りによる 狂言「磁石」、能「竹生島」	9/26	1	1	618	98.6%	106.6%
【国立能楽堂ショーケース】 狂言「盆山」、能「龍田」	10/18	1	1	623	99.4%	113.3%
【企画公演】水面に浮かぶ老木の花 狂言「箕被」、復曲能「実方」	11/15	1	1	617	98.4%	106.4%
【企画公演】特集：源氏物語 箏組曲「空蟬」、箏曲「住吉」、復曲能「空蟬」	11/23	1	1	616	98.2%	106.2%
【企画公演】特集：源氏物語 管弦「平調音取」「王昭君」「萬歳楽」、催馬楽「伊勢海」、能「住吉詣」	11/30	1	1	619	98.7%	106.7%
【国立能楽堂ショーケース】 狂言「仏師」、能「西王母」	12/20	1	1	623	99.4%	113.3%
【特別公演】 狂言「川上」、能「正尊 起請文・翔入」	12/25	1	1	618	98.6%	106.6%
【企画公演】復興と文化 おはなし、舞囃子「淡路」、狂言「舟船」、能「芦刈」	1/17	1	1	547	87.2%	94.3%
【企画公演】水面に浮かぶ老木の花 狂言「鏡男」、能「実盛」	1/24	1	1	616	98.2%	106.2%
【狂言の会】 狂言「今参り」、狂言「祐善」、狂言「金津」	1/29	1	1	622	99.2%	107.2%
月間特集 絵巻物と能 【企画公演】特集：菅原道真 舞囃子「老松」、狂言「弓矢太郎」、復曲能「雷電 替装束」	2/28	1	1	616	98.2%	106.2%
【特別企画公演】 復曲狂言「天正狂言本」と古画による 袴裂、復曲能「武文」	3/28～29	2	2	1,235	98.5%	106.5%

公演名	日程	回数	日数	入場者数	入場率	達成率
企画公演【小計】	23 公演 計画23 公演	23	23	14,165	98.2%	107.1%
【能楽鑑賞教室】 解説、狂言「柿山伏」、能「安達原」	6/18～22	10	5	6,270	100.0%	114.0%
【外国人のための能楽鑑賞教室】Discover NOH & KYOGEN 解説、狂言「瘦松」、能「花月」	10/26	1	1	627	100.0%	104.5%
鑑賞教室等【小計】	2 公演 計画2 公演	11	6	6,897	100.0%	113.1%
能楽【合計】	50 公演 計画50 公演	60	55	37,223	98.9%	108.0%

※劇場は全て能楽堂。

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

＜目標入場者数＞

区分	定例公演	普及公演	企画公演 (ショーケース)	企画公演 (その他)	Discover NOH & KYOGEN	能楽鑑賞教室
目標入場者数 ()内は入場率	570 人/回 (90.9%)	600 人/回 (95.7%)	550 人/回 (87.7%)	580 人/回 (92.5%)	600 人/回 (95.7%)	5,500 人 (87.7%)

(b) 外部専門家等の意見

- ・公演専門委員会を2回開催(2/7、3/7)。
- ・専門家の主な意見は下記のとおり。

◇国立能楽堂の恒例となった「素の魅力」は、とくに能を別の角度から見せてくれる好企画となっている。

◇落語・講談と狂言のシリーズも長いが、今回のテーマである「和歌の取り持つ縁」は見事に三つの芸能を結びつけた。企画の勝利であろう。演者も吟味されており、それぞれの名人の芸を楽しめた。

◇(11月企画公演)めったに聞かない歌入りの箏曲だったので面白く聞いた。琴の音も美しいが、美しく謡われる七五調の歌詞が心地よくて、日本文化の伝統はこういうところにもあるのだなと感じさせた。こういう異分野との交流企画は苦労も多いだろうが今後も続けてもらいたい。「空蟬」に「住吉」を加えたのは、次の公演が《住吉詣》であることに重ねたからか。憎い企画である。

◇(3月特別企画)なぜ36年前の復曲作品である「武文」を再演するのか、と疑問であったが、作品の解釈や演出が大幅にかわっていて、今に再演する意義を理解できた。「名取ノ老女」の時も同じ意識であったが、復曲というよりは古曲を利用して新しい能を創成するという芸術活動ととらえられよう。早くから特別展示 宝生宗家展(この展示も特筆もの)に合わせて、「武文」だけのチラシを制作・配布して観客の期待を高めることにつとめ、また、上演に際しては宝生の名物面である「木汁怪士」を後シテに用い、厚板を新調するなど舞台の成功に寄与した。それらを含めて大いに評価できよう。夢幻能とは異なる現在能の面白さを広く認識させたこと、今後もこの種の作品を演じていく道がひらけたことが、今回の「武文」上演の大きな意義である。細かい点では改善の余地はあろうが、全体として大成功だったと思う。

(c) アンケート調査

公演数	配布数(A)	回収数(B)	回答数(C)	満足数(D)	回収率 (B/A)	満足回答率 (D/C)
11 公演	6,821	1,669	1,669	1,596	24.5%	95.6%

※うち1回を「外国人のための能楽鑑賞教室」で実施。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・充実した企画内容と効果的な観客勧誘によって、開催した多くの公演において高い入場率を達成した。
- ・11月企画公演〈特集・源氏物語〉では、2日にかけて源氏物語所縁の邦楽・雅楽と能を上演した。23日は箏曲「住吉」と平成20年横浜能楽堂で復曲初演された復曲能「空蟬」を国立能楽堂では初めて上演した。30日は源氏物語の作中に登場する雅楽と上演が稀な能「住吉詣」を上演し、源氏物語の世界を描く多彩な古典芸能を鑑賞できる公演となった。
- ・2月企画公演〈特集・菅原道真〉では菅原道真にまつわる作品を取り上げ、復曲能「雷電」を上演した。同時期に開催した特別展示「宝生宗家展」と連動し、宝生流所蔵の能面を展示するだけでなく、展示した能面を舞台上で実際に使用するなど、宝生流と国立能楽堂の連携事業の強みを十分に活かすことができた。

- ・3月特別企画公演では昭和62年に国立能楽堂で復曲した能「武文」を、台本と演出を大幅に見直した新演出で上演した。35年ぶりの上演により、斯界に大きな話題を作るのみならず、本作が出演者の法政大学能楽賞の贈賞理由の一因となり、また、能楽学会のテーマとして取り上げられるなど国立能楽堂の存在を大きくアピールした。公演の舞台成果のみならず制作の意義を含めて識者から高い評価を得た。

⑥ 組踊等沖縄伝統芸能

《制作方針》

定期公演は、組踊、琉球舞踊、三線音楽、沖縄芝居及び民俗芸能の構成により上演する。伝承された古典の原点を尊重することを基本に、現代においても理解されやすい、観客のニーズに合った多様な演目の上演及び演出や、観客の満足度を高める公演内容の制作に努める。

組踊公演では、劇聖玉城朝薫作品「銘苅子」、「女物狂」のほか、組踊の中でも数少ない恋愛が描かれた平敷屋朝敏作品「手水の縁」、平成21年に組踊保存会によって復活上演され、国立劇場おきなわの自主公演としては初となる「具志川大軍」を上演する。

琉球舞踊公演では、「うりずんの舞」、「打組舞踊の会」、「新進男性舞踊家の会」、「琉球舞踊鑑賞会」、「男性舞踊家の会」、「琉球舞踊特選会」、「創作舞踊の会」の公演を通じて、若手、中堅から国指定重要無形文化財琉球舞踊保持者による古典舞踊や雑踊、創作舞踊を幅広く上演する。

三線音楽公演では、「古典音楽の美」で人間国宝大湾清之の独唱をはじめ、古典音楽の名曲・復曲・舞踊曲まで古典音楽の世界を存分に堪能していただく。

沖縄芝居公演では、組踊「執心鐘入」を題材に戦前に生み出された歌劇「恐ろしき一夜」、北谷言葉の台詞が味わい深い「朝顔夕顔」、琉球王国時代末期に琉球王国の存続を願って戦い続けた亀川親方を描く、当劇場で初披露となる「東立ち雲」を上演する。

民俗芸能公演では、沖縄のそれぞれの地域で先祖代々引き継がれてきた多様な民俗芸能の中から、本島北部「やんばる」地域で伝承されてきた独自色の強い組踊や民俗舞踊を紹介する。

企画公演では、琉球箏曲を主軸に、独唱・斉唱・舞踊など多彩な演目で構成する「琉球箏曲の美」、第三回新作組踊戯曲大賞に入賞した新作組踊「玉掛けの糸」と「恋染の手巾」、アジア太平洋の芸能では「韓国の梵唄と日本の語り」と題して文女楽・筑前琵琶・韓国梵唄を、また、本劇場の秋定番となった「国立劇場寄席」を上演する。

研究公演では、1838年の史料に基づき、特に舞台構造と衣裳について復元して琉球王国時代の演出に少しでも近づくことを目指して「1838年の史料に拠る組踊『大川敵討 一糺しの場より敵討まで一』」を上演する。

普及公演では、組踊の魅力を伝え、初めて鑑賞する方にも楽しんでいただけるよう組踊の世界を案内しながら「執心鐘入」、琉球舞踊の入門編となる「琉球舞踊鑑賞教室」、沖縄芝居を初めて鑑賞する方にとって親しみやすい「松の精」、組踊の魅力を次世代へ伝え、新たな観客層の育成を図るため児童生徒でも親しみやすい演出を凝らした組踊鑑賞教室「万歳敵討」を上演する。併せて、外国人向けの公演「はじめての組踊 ～Discover KUMIODORI～」を実施する。

(a) 公演実績

公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
		回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
琉球舞踊「うりずんの舞」	4/13～14 おきなわ小劇場	2	2	429	87.2%	2	2	389	79.1%	110.3%
琉球舞踊「打組舞踊の会」	4/20 おきなわ大劇場	1	1	438	70.9%	1	1	402	65.0%	109.0%
組踊「銘苅子」「女物狂」	5/11 おきなわ大劇場	1	1	385	69.2%	1	1	336	60.0%	114.6%
三線音楽 大湾清之人間国 宝認定記念「古典音楽の美」	5/25 おきなわ大劇場	1	1	402	65.0%	1	1	402	65.0%	100.0%
琉球舞踊 「新進男性舞踊家の会」	6/8～9 おきなわ小劇場	2	2	386	78.3%	2	2	389	79.1%	99.2%
沖縄芝居 「恐ろしき一夜」「朝顔夕顔」	7/13～14 おきなわ大劇場	2	2	710	62.2%	2	2	597	52.5%	118.9%
組踊「手水の縁」	10/5 おきなわ小劇場	1	1	316	56.8%	1	1	308	55.0%	102.6%
琉球舞踊「琉球舞踊鑑賞会」	12/21 おきなわ大劇場	1	1	432	69.9%	1	1	389	62.9%	111.1%
琉球舞踊「男性舞踊家の会」	1/11～12 おきなわ大劇場	1	1	432	69.9%	1	1	389	62.9%	111.1%
民俗芸能「やんばるの芸能」	1/19 おきなわ大劇場	2	2	899	72.7%	2	2	803	65.0%	112.0%

琉球舞踊「琉球舞踊特選会」	2/8～9 おきなわ大劇場	1	1	395	64.8%	1	1	356	58.0%	111.0%
組踊「具志川大軍」	2/22 おきなわ大劇場	1	1	322	57.1%	1	1	308	55.0%	104.5%
琉球舞踊「創作舞踊の会」	3/15 おきなわ大劇場	1	1	445	73.0%	1	1	309	50.0%	144.0%
沖縄芝居 史劇「東立ち雲」	3/22～23 おきなわ大劇場	2	2	624	55.1%	2	2	654	57.5%	95.4%
定期公演【小計】	14 公演 計画:14 公演	20	20	6,801	64.9%	20	20	6,415	61.1%	106.0%
琉球箏曲の美	6/29 おきなわ大劇場	1	1	416	68.2%	1	1	416	67.8%	100.0%
組踊「新作組踊」	9/28 おきなわ大劇場	1	1	292	52.5%	1	1	379	67.7%	77.0%
アジア・太平洋地域の芸能 「韓国の梵唄と日本の語り」	10/20 おきなわ大劇場	1	1	261	52.2%	1	1	307	50.0%	85.0%
国立劇場寄席	11/16 おきなわ大劇場	1	1	467	75.6%	1	1	368	59.9%	126.9%
企画公演【小計】	4 公演 計画:4 公演	4	4	1,436	62.9%	4	4	1,470	61.2%	97.7%
1838 年の史料に拠る 組踊 「大川敵討 一糸しの場より 敵討まで」	12/14 おきなわ大劇場	1	1	322	57.7%	1	1	316	56.4%	101.9%
研究公演【小計】	1 公演 計画:1 公演	1	1	322	57.7%	1	1	316	56.4%	101.9%
組踊の世界「執心鐘入」	7/20 おきなわ大劇場	1	1	484	84.2%	1	1	316	55.0%	153.2%
琉球舞踊鑑賞教室	8/24 おきなわ大劇場	1	1	341	75.1%	1	1	317	55.0%	107.6%
沖縄芝居鑑賞教室「松の精」	9/12～14 おきなわ大劇場	4	3	1,718	78.2%	3	3	1,009	58.4%	170.3%
はじめての組踊 ～Discover KUMIODORI～ 組踊「万歳敵討」	11/2 おきなわ大劇場	1	1	254	50.3%	1	1	316	55.0%	80.4%
普及公演【小計】	4 公演 計画:4 公演	7	6	2,797	75.0%	6	6	1,958	56.7%	142.8%
組踊等沖縄伝統芸能【合計】	23 公演 計画:23 公演	32	31	11,356	66.6%	31	31	10,159	60.1%	111.8%

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・公演事業委員会を9月と3月に2回開催し、外部専門家等の意見を聴取して、公演制作及び公演計画に活用した。

(c) アンケート調査

公演数	配布数(A)	回収数(B)	回答数(C)	満足数(D)	回収率 (B/A)	満足回答率 (D/C)
23 公演	6,830	4,462	4,304	4,107	65.3%	95.4%

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・組踊公演では、平成21年に組踊保存会によって復活上演され、上演機会の少ない長編の「具志川大軍」を自主公演で初めて上演した。
- ・琉球舞踊公演では、新たな作品で伝統芸能の振興を図ることを目的に、第11回創作舞踊大賞で入賞した4作品を「創作舞踊の会」で上演した。
- ・三線音楽公演では、「古典音楽の美」で、古典音楽の重鎮や中堅による独唱に加え演奏機会の少ない曲を交えた斉唱等により古典音楽の世界を表現することができた。
- ・沖縄芝居公演では、琉球王国時代末期に時代の波に翻弄される人物群を描いた史劇「東立ち雲」を当劇場で

初めて上演した。

- 民俗芸能公演では、「やんばるの芸能」として、路地楽、舞踊、組踊のジャンルの異なる民族芸能を上演した。特に組踊は地域での伝統が途絶えているものがあるが、当劇場で上演することで次の上演の足がかりとすることができた。
- 企画公演の「新作組踊」では、第3回「新作組踊戯曲大賞」に入賞した2作品を初上演し、伝統組踊の継承に加え、組踊の発展につなげた。
- 研究公演では、近年の古文書研究の進展により琉球王国時代の舞台の様子が明らかにされる中、舞台構造と衣装を復元し「1838年の史料に拠る組踊『大川敵討 一糺しの場より敵討まで一』」を上演した。研究公演の研究そのものに加え、実演家の技芸の向上につなげることができた。
- 普及公演では、組踊の世界「執心鐘入」において、公演後にホワイエで三線、箏、写真撮影などの体験コーナーを設け、舞台に出演した地謡の方が直に楽器の指導を行い、親子連れの観客を中心に楽しんでいただいた。
- 外国人向けの取組として、多言語オーディオガイド(1公演)、字幕タブレット(1公演)の無料貸出を行った。

イ 演目の拡充

《復活・復曲・新作の上演を実施した作品数》

歌舞伎	文楽	舞踊・邦楽等	大衆芸能	能楽	組踊等	合計
1	3	3	0	1	2	10

＜歌舞伎＞

- ・初春歌舞伎公演「彦山権現誓助剣」（発端「彦山権現山中」、序幕「郡家城外」）

＜文楽＞

- ・文楽劇場 4 月文楽公演「和田合戦女舞鶴」（市若初陣の段 中）
- ・文楽劇場夏休み文楽特別公演「ひょうたん池の大なまず」「西遊記」

＜舞踊・邦楽等＞

- ・文楽劇場 10 月舞踊公演 地歌「正月」、地歌「山姥」、義太夫・長唄「五斗三番叟」

＜能楽＞

- ・能楽堂 3 月特別企画公演復曲能「武文」

＜組踊等沖縄伝統芸能＞

- ・国立劇場おきなわ 9 月企画公演 新作組踊「玉掛けの糸」「恋染の手巾」

※以下に示す詳細のうち、文頭が「◆」となっているものが当該作品の説明である。

① 歌舞伎

(a) 復活等上演時の「国立劇場文芸研究会」による補綴

- ◆初春歌舞伎公演「彦山権現誓助剣」では、原作や享和 2 年(1802)5 月中村座の台帳等を参考に発端「彦山権現山中」、序幕「郡家城外」を復活し、また、大詰「真柴久吉本陣」を創作するなど台本を整理して、筋の通った分かりやすい通し狂言を提供した。

(b) 新作歌舞伎脚本の選考・贈賞

- ・令和 5・6 年度国立劇場《歌舞伎脚本募集》の選考を行い、以下の 3 篇を佳作に選出し、贈賞を行った。

佳作	「盃蘭盆会再死神」	弓削猿丸
同	「廓虎五月曙」	米原信
同	「新平家公達草子 男女縁西海扇」	安樂井薫

② 文楽

(a) 上演が途絶えていた場面の復活上演

- ・本館 5 月文楽公演で「近頃河原の達引」道行涙の編笠を 34 年ぶりに上演した。
- ◆文楽劇場 4 月文楽公演の十一代目豊竹若太夫襲名披露狂言「和田合戦女舞鶴」市若初陣の段につき、物語のクライマックスとなる「切」の内容を分かりやすく伝えるため、端場(導入部)にあたる「中」を昭和 15 年(1940)以来 84 年ぶりに復活上演した。

(b) 新演出の初演

- ・文楽劇場夏休み文楽特別公演における以下の 2 作を新演出で初演した。
 - ◆「ひょうたん池の大なまず」
 幼稚園をはじめとする小規模の会場で主に上演し、鑑賞者が限定されていた演目を、振興会主催公演として文楽劇場で初めて上演した。これまでの会場とは規模が大きく異なるため、劇場空間での上演に対応できるよう、文楽上演時の舞台機構を想定した舞台美術、軽量化・操作性を向上させた大なまずの人形など、大道具や小道具を新規に作成するとともに、義太夫節の演奏人数を 3 人から 9 名に増やし、人形の演技を派手に見せるなど、演出も工夫した。文楽を親子で鑑賞できる劇場での長期公演で取り上げ、他の劇場でも上演できる演目に創り直したことにより、文楽の演目のレパートリーの拡充に加え、鑑賞の機会を幅広く提供でき、今後の劇場空間での上演を可能にする契機を作った。
 - ◆「西遊記」
 令和 5 年所演の続編として“孫悟空と三蔵法師との出逢い”“猪八戒の登場”“孫悟空と妖怪銀角との対決”に焦点を絞って上演台本を改訂した。昭和 63 年(1988)の初演以来、親子劇場での上演を想定していたが、主な来場対象である現在の子ども世代には耳で聴いても理解し難い表現があるとの専門委員からの指摘を受け、内容を分かりやすく伝えるため、台本の詞章を文語体から口語体に全面的に改めて上演した。また、表現の変更に合わせてオリジナル作品の作曲者である竹沢團七の補曲を得た。字幕表示装置と併せて、物語の内容を明確に伝えることができた。また、現在の安全基準に則って更

新された宙乗り機構により、令和 5 年は孫悟空のみであったが、今回は、ラストシーンで孫悟空と銀角が同時に客席上を移動する“二人宙乗り”を実施して昨年を上回る迫力を演出し、来場者に文楽の楽しさを印象付ける役割を果たした。

(c) 上演機会の少ない優れた演目の上演

- ・本館 12 月文楽公演は、現代演劇史に名を刻んだ劇作家による書き下ろしの作品「瓜子姫とあまんじゃく」、「金壺親父恋達引」を取り上げた。「瓜子姫とあまんじゃく」は、木下順二の民話劇を現代語浄瑠璃として、武智鉄二演出によって昭和 30 年に初演された戦後の文楽の新作を代表する作品。「金壺親父恋達引」は、井上ひさしがフランスの劇作家モリエールの戯曲『守銭奴』を題材とした新作浄瑠璃として昭和 47 年に書き下ろした作品で、翌 48 年に NHK 総合テレビ放送のために人形を含めて収録された時が初演である。どちらも上演機会の少ない作品で、国立劇場における公演としては初めてであった。古典作品とは異なる名作家による意欲作を上演することで、文楽のレパトリーの拡充と新たな魅力を引き出すことができた。

③ 舞踊・邦楽等

(a) 新演出の初演

- ・文楽劇場 10 月舞踊公演における以下の 3 曲で新演出を実施した。
 - ◆地歌「正月」(山村光)
本編の前に上方唄「十日戎」を付けて上演した。上方の正月らしい雰囲気高めるとともに、小曲ゆえに単独での上演機会が極めて稀な上方唄を地歌の曲と組み合わせることで、演奏技術の継承と演出の拡充に繋げた。
 - ◆地歌「山姥」(京舞五世家元井上八千代)
井上流で伝承されている二世八千代の振付には、能「山姥」の前場にあたる遊女を描いた部分は存在しないが、今回は、作品の主題を分かりやすく伝えるため、当代の八千代がその場面に新たな振付を行い上演した。遊郭の情景を描き遊女の情趣を醸し出すことで演出の拡充に繋げた。
 - ◆義太夫・長唄「五斗三番叟」(山村流六世宗家山村友五郎)
振興会主催公演で初めて上演した。北山村流に伝承されていた流祖ゆかりの稀曲で、今回、義太夫節における詞章の調査・整理を経て現行台本を完成させた。演奏は、これまでの女流義太夫連中から竹本連中が初演した。今回の上演によって作品及び演奏の継承に繋げることができ、今後の多種多様な演目の提供の点で意義深い役割を果たした。

④ 能楽

(a) 上演機会の稀な作品の上演

- ・5 月狂言の会において、稀曲の狂言「勝栗」を国立能楽堂では初めて上演した。
- ・6 月定例公演において、能の大曲「熊野」を観世流に伝わる小書(読次之伝・村雨留・墨次之伝・膝行留)を全て付けた演出で上演した。
- ・7 月特別公演において、上演機会が非常に稀な「六道」の小書を付けた能「定家 袖神楽・六道・埋留」を国立能楽堂では初めて上演した。
- ・8 月企画公演〈素の魅力〉において、和泉流最奥の秘曲の小舞「住吉」、上演の稀な脇仕舞「春栄」を国立能楽堂では初めて上演した。
- ・11 月定例公演において能「白楽天」を「鶯蛙」の小書にて上演した。
- ・11 月企画公演〈古典の日記念 特集・源氏物語〉において能「住吉詣」を上演した。
- ・12 月定例公演において能「鳥追」を国立能楽堂では 34 年ぶりに上演した。
- ・12 月特別公演において能「正尊」を「起請文・翔入」の小書にて上演した。

(b) 国立能楽堂制作による復曲作品の再演

- ・6 月定例公演において、平成 4 年国立能楽堂にて江戸初期の謡本を再現した演出「古本による 水無月祓」を上演した。
- ・3 月特別企画公演にて、令和 2 年に国立能楽堂で復曲した狂言「袴裂」と昭和 62 年に国立能楽堂で復曲した能「武文」を再演した。

(c) 他の能楽堂等で上演された復曲作品の再演

- ・11 月企画公演〈水面に浮かぶ老木の花〉にて、復曲能「実方」を演出及び台本を改訂した新版で上演した。
- ・11 月企画公演〈古典の日記念 特集・源氏物語〉にて、平成 20 年に横浜能楽堂で復曲初演された復曲能「空蟬」を国立能楽堂では初めて上演した。
- ・2 月企画公演〈特集・菅原道真〉において、平成 23 年に宝生能楽堂で復曲初演された復曲能「雷電」を国立能楽堂では初めて上演した。

⑤ 組踊等沖縄伝統芸能

(a) 上演機会の少ない優れた演目の上演

(b) 新作の上演

◆9月企画公演において、第三回「新作組踊戯曲大賞」で奨励賞に入賞した2作品「玉掛けの糸」(鈴木耕太作)「恋染の手巾」(大城貴幸作)を初上演した。

(c) 復曲作品の再演

・5月定期公演において、平成17年沖縄県立芸術大学第十六回琉球芸能定期公演復曲初演の「コハデサア節」と平成20年伊江村制百周年記念芸能公演復曲初演の「伊江早作田節」を上演した。

(d) 「創作舞踊大賞」の公募・選考・表彰

・第11回創作舞踊大賞の公募を実施(6/20～8/23)。9/23に選考委員会を開催し対象1作品、奨励賞2作品、佳作1作品を選考。10/18にホームページ上で受賞作品等を公表し11/2に表彰式を行った。

- ◇大賞 「遊びくぐつ」 島尻紀希
- ◇奨励賞 「音の響むまで ア！踊れ！」 新崎恵子
- ◇奨励賞 「マブイ詩」 喜屋武愛香
- ◇佳作 「露ころ」 大湾三瑠

ウ 日本博に関連した公演等の企画・実施

・日本博2.0関連事業として、公演や公演関連イベント等を実施した。

事業区分	館名	対象公演等
令和6年度日本博2.0事業 (委託型)	本館	Discover KABUKI、Discover BUNRAKU、8月舞踊、8月邦楽、1月邦楽、2月声明、KAAT×国立劇場<つたえつなぐ>、鎌倉建長寺で楽しむ座敷舞、文楽海外プロモーション、国立劇場 in 丸の内 What is 文楽(文楽関連展示・ミニパフォーマンス・東京シティアイ)
	能楽堂	ショーケース公演(4公演)、Discover NOH & KYOGEN、2月企画、3月特別企画
	文楽劇場	Discover BUNRAKU 最高水準の日本の伝統芸能公演(5月舞踊・邦楽、6月邦楽、9月特別企画) インバウンド向け舞踊・邦楽公演配信事業(令和6年8月9日～令和7年9月30日)
	おきなわ	5月組踊公演「銘苅子」「女物狂」 7月沖縄芝居公演「恐ろしき一夜」「朝顔夕顔」 7月普及公演 組踊の世界「執心鐘入」 8月普及公演 琉球舞踊鑑賞教室 9月普及公演 沖縄芝居鑑賞教室「松の精」 11月普及公演 組踊鑑賞教室「万歳敵討」 12月研究公演「1838年の史料に拠る組踊『大川敵討 一糺しの場より敵討まで』」
令和6年度日本博2.0事業 (参画型)	本館	全公演(Discover KABUKI、Discover BUNRAKU、8月舞踊、8月邦楽、1月邦楽、2月声明を除く)
	能楽堂	全公演(ショーケース、Discover NOH & KYOGEN、2月企画、3月特別企画を除く)
	文楽劇場	全公演(Discover BUNRAKU、5月舞踊・邦楽、6月邦楽、9月特別企画を除く)

2 - (2) 現代舞台芸術の公演

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(2) 現代舞台芸術の公演

国際的に比肩し得る高い水準の現代舞台芸術を自主制作により公演し、その振興と普及に努める

ア オペラ公演: 名作と呼ばれる代表的な作品の上演、新たに制作する作品や上演機会の少ない優れた作品の上演、日本の作曲家の作品の上演

イ バレエ公演: スタンダードな作品を新国立劇場バレエ団を主体に上演、国内外の振付家による質の高い新国立劇場オリジナル作品の企画・上演

ウ 現代舞踊公演: 特徴あるスタイルを持つ芸術家による斬新な企画作品や国内外で高い評価を得ている作品等の上演

エ 演劇公演: 新作上演の企画・発信、我が国で創作された作品の再評価や海外の優れた作品の紹介、芸術団体等との交流

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(2) 現代舞台芸術の公演

現代舞台芸術の振興と普及を図るため、別表 2 のとおり主催公演を実施

ア 主催公演の実施

《分野別 公演実績(現代舞台芸術分野総計)》

分野	実績					計画					入場者数 達成率
	公演数	回数	日数	入場者数	入場率	公演数	回数	日数	入場者数	入場率	
オペラ	10	48	48	72,025	84.0%	10	48	48	67,039	78.2%	107.4%
バレエ	6	59	43	90,753	88.0%	6	59	43	80,317	77.9%	113.0%
現代舞踊	3	11	8	4,649	84.9%	3	11	8	4,301	79.6%	108.1%
演劇	6	126	110	28,668	58.7%	6	126	110	35,343	72.3%	81.1%
合計	25	244	209	196,095	80.6%	25	244	209	187,000	76.9%	104.9%

※入場者数達成率 = 実績入場者数 / 計画入場者数

※単位は、公演数:公演、回数:回、日数:日、入場者数:人

※以下、計数はそれぞれ四捨五入により単位未満を処理しているため、合計において一致しない場合がある。

※公演収支の改善状況については、(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等に記載。

① オペラ

《制作方針》

- 1、名作と呼ばれるような代表的な作品を上演するとともに、新たに制作する作品や上演機会の少ない優れた作品、日本の作曲家の作品の上演にも努める。
- 2、上演作品をレパートリーとして蓄積し、繰り返し上演していくことで、オペラの振興と普及を図る。

(a) 公演実績

公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
		回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
「椿姫」	5/16～29 オペラ劇場	5	5	7,532	84.1%	5	5	6,545	73.0%	115.1%
「コジ・ファン・トゥッテ」	5/30～6/4 オペラ劇場	4	4	5,130	71.6%	4	4	4,768	66.5%	107.6%
「トスカ」	7/6～21 オペラ劇場	5	5	8,164	91.1%	5	5	7,574	84.5%	107.8%
「夢遊病の女」(新制作)	10/3～14 オペラ劇場	5	5	6,931	77.4%	5	5	6,545	73.0%	105.9%
「ウィリアム・テル」(新制作)	11/20～30 オペラ劇場	5	5	7,982	89.1%	5	5	7,480	83.5%	106.7%
「魔笛」	12/10～15 オペラ劇場	4	4	6,683	93.2%	4	4	5,984	83.5%	111.7%
「さまよえるオランダ人」	1/19～2/1 オペラ劇場	5	5	6,604	73.7%	5	5	7,012	78.3%	94.2%
「フィレンツェの悲劇/ジャンニ・スキッキ」	2/2～8 オペラ劇場	4	4	4,826	67.3%	4	4	4,301	60.0%	112.2%
「カルメン」	2/26～3/8 オペラ劇場	5	5	7,768	86.7%	5	5	7,480	83.5%	103.8%
高校生のためのオペラ鑑賞教室 2024 「トスカ」	7/11～18 オペラ劇場	6	6	10,405	99.3%	6	6	9,350	89.3%	111.3%
オペラ【合計】	10 公演 計画:10 公演	48	48	72,025	84.0%	48	48	67,039	78.2%	107.4%

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

(c) アンケート調査

公演数	配布数(A)	回収数(B)	回答数(C)	満足数(D)	回収率 (B/A)	満足回答率 (D/C)
10 公演	10,405	5,778	9,874	9,014	55.5%	91.3%

※全公演でウェブアンケートを実施した。

※高校生のためのオペラ鑑賞教室 2024「トスカ」では鑑賞校にアンケートを配布し、後日回収した。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・10 公演 48 回のオペラ公演を計画通り、実施した。
- ・「夢遊病の女」「ウィリアム・テル」の2作品を新制作し、レパートリーを充実させた。
- ・テアトロ・レアル（マドリッド）、リセウ大劇場（バルセロナ）、マッシモ歌劇場（パレルモ）との共同新制作による「夢遊病の女」を上演し、劇場間の国際交流に努めた。
- ・「ウィリアム・テル」については、日本初原語（フランス語）による舞台上演となり、4 時間半を超える上演時間とともに、ソリスト、合唱、ダンサー、助演などを含んだ大がかりなグランドオペラ作品を新制作したことは意義深いことであった。適材適所に配役された招聘歌手と日本人歌手たちが大いに実力を発揮したほか、他のオペラ作品ではあまり例を見ることのないほど登場シーンの多い合唱については、新国立劇場合唱団の持つ可能性があったからこそ達成できた舞台となった。
- ・「カルメン」では、2021 年コロナ禍で初演されたプロダクションを今回再演するにあたり、原演出家を招聘し、ディスタンス確保など感染症対策を施した当時の演出から、本来の形ともいえるべき演出に変更を行うことで、舞台全体に自然でスムーズな流れを作ることができ、高い評価を得た。

- ・「椿姫」ヴィオレッタ（中村恵理）、「トスカ」スカルピア（青山貴）、「魔笛」パミーナ（九嶋香奈枝）・パパゲーノ（駒田敏章）、「ジャンニ・スキッキ」ラウレッタ（砂田愛梨）・リヌッチョ（村上公太）等、年度を通じてオペラ研修所修了者を起用し、その高い実力を示すことができた。
- ・日本語字幕の表示に加え、令和元年度から実施している全てのオペラ公演での英語字幕の設置を引き続き実施した。併せて、公演プログラムには従来のあらすじとクレジットに加え、プロフィールや解説にも英文ページを増やし、外国人観客の観劇環境整備を更に推進した。

【特記事項】

- ・令和6年度日本博2.0事業(委託型)：「夢遊病の女」
- ・令和6年度(第79回)文化庁芸術祭主催公演(「ウィリアム・テル」)
- ・文化庁劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業(「魔笛」「さまよえるオランダ人」「カルメン」)
- ・NHK BSプレミアム 4K 及びNHK BS「プレミアムシアター」においてオペラ「シモン・ボッカネグラ」(令和5年11月収録)が放送された(2/9(再放送))。
- ・NHK-FM「オペラ・ファンタスティカ」において、以下の公演がラジオ放送された。
- ・オペラ「シモン・ボッカネグラ」(令和5年11月収録。11/22放送)
- ・オペラ「夢遊病の女」(令和6年10月収録。12/13放送)

② バレエ

《制作方針》

- 1、スタンダードな演目を多彩なキャストで上演するとともに、国内外の振付家による質の高い新国立劇場のオリジナル作品の企画・上演にも努める。
- 2、上演作品をレパートリーとして蓄積し、繰り返し上演することにより、バレエの振興普及を図る。

(a) 公演実績

公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
		回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
「ラ・バヤデール」	4/27～5/5 オペラ劇場	8	6	12,911	90.3%	8	6	8,321	58.2%	155.2%
「アラジン」	6/14～23 オペラ劇場	9	7	15,159	94.2%	9	7	12,997	80.8%	116.6%
「眠れる森の美女」	10/25～11/4 オペラ劇場	12	10	20,092	93.6%	12	10	18,046	84.1%	111.3%
「くるみ割り人形」	12/21～1/5 オペラ劇場	18	13	27,153	84.4%	18	13	28,050	87.2%	96.8%
「バレエ・コフレ」 エチュード(新制作)/精密さによる目眩 くスリル(新制作)/火の鳥	3/14～16 オペラ劇場	4	3	6,510	91.0%	4	3	5,049	70.6%	128.9%
こどものためのバレエ劇場 2024 「人魚姫 ～ある少女の物語～」(新制作)	7/27～30 オペラ劇場	8	4	8,928	74.8%	8	4	7,854	65.8%	113.7%
バレエ【合計】	6 公演 計画:6 公演	59	43	90,753	88.0%	59	43	80,317	77.9%	113.0%

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

(c) アンケート調査

公演数	配布数(A)	回収数(B)	回答数(C)	満足数(D)	回収率 (B/A)	満足回答率 (D/C)
6 公演	0	0	1,993	1,902	-	95.4%

※全公演でウェブアンケートを実施した。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・6 公演 59 回のバレエ公演を計画通り、実施した。
- ・こどものためのバレエ劇場 2024「人魚姫 ～ある少女の物語～」を新制作し、世界初演として上演した。新国立劇場バレエ団に22年間在籍した貝川鐵夫が振付を手掛け、NBJ Choreographic Groupで振付家としての経験を重ねてきた貝川による全幕バレエ作品を上演できたことは、バレエ団の中から振付家を育てるこのプロジェクト全体にとって非常に重要な成果となった。
- ・「バレエ・コフレ」では、フォーサイスの人気作品「精確さによる目眩くスリル」とランダーの「エチュード」を新制作上演した。
- ・「眠れる森の美女」ではベルリン国立バレエの佐々晴香をゲストとして招聘し、欧州で活躍する日本人ダンサーとの共演はバレエ団にとっても良い刺激となった。
- ・「眠れる森の美女」「アラジン」「くるみ割り人形」「バレエ・コフレ」等では、主要役に若手ダンサーを積極的に登用し、多くのダンサーにロールデビューの機会を与えられたとともに、観客にバレエ団の層の厚さをアピールすることができた。
- ・新国立劇場バレエ団が主役からコール・ド・バレエまで遺憾無く実力を発揮した。若手の抜擢やスタッフの徹底指導により、複数の主役キャストそれぞれが高いテクニック・表現力で完成度の高い舞台を作り上げ、観客から高い支持を得た。また、外部専門家等からも評価を受けた。
- ・SNS(X、Instagram、Facebook)を活用し、リハーサル風景や公演の様子等を積極的に映像・写真で掲載したり、映像広告を出稿したりすることで、当該公演やバレエ団への興味喚起・認知度の向上に貢献した。
- ・上演作品を指揮者が音楽面から解説する「バレエトーク～『くるみ割り人形』音楽の魅力を知ろう！～」

や、バレエダンサーの日々のレッスンの様子を公開した「ラ・バヤデール」クラスレッスン見学会、作品を練り上げていく様子を公開した「ジゼル」リハーサルライブ配信を実施し、観客が公演を鑑賞するだけでなく、舞台を創り上げる過程や作品に関する知識を得られる機会を提供した。

- ・協賛企業の支援を受けて、文化芸術に触れる機会の少ない子どもたちを対象とした招待企画「こども観劇プログラム」や未来のバレエ界を担う小・中学生を応援する特別企画「こどもみらいシート」など、若い世代に芸術鑑賞の楽しさを伝える取り組みを積極的に実施した。
- ・新国立劇場バレエ団ファースト・ソリストの木下嘉人が、第 54 回(2023 年)舞踊批評家協会新人賞を受賞した。
- ・新国立劇場バレエ団ファースト・ソリストの池田理沙子が、第 31 回中川鋭之助賞を受賞した。
- ・新国立劇場バレエ団ソリストで岡山県出身の廣川みくりが、第 25 回岡山芸術文化賞グランプリを受賞した。
- ・新国立劇場バレエ団プリンシパルの福岡雄大が、第 2 回(令和 6 年度)牧阿佐美賞を受賞した。

【特記事項】

- ・令和 6 年度日本博 2.0 事業(委託型)：こどものためのバレエ劇場 2024「人魚姫～ある少女の物語～」
- ・新国デジタルシアターおよび OperaVision にてバレエ「アラジン」(令和 6 年 6 月収録)を配信した。新国立劇場のバレエ公演を OperaVision で配信するのは初めての試みとなり、70 万回を超える高い視聴数を得た。
- ・NHK BS プレミアム 4K 及び NHK BS「プレミアムシアター」においてバレエ「白鳥の湖」(令和 3 年 10 月収録)が放送された(6/17(再放送))。

③ 現代舞踊

《制作方針》

特徴あるスタイルを持つ振付家による斬新な企画作品や国内外で高い評価を得ている作品等を上演し、現代舞踊の振興普及を図る。

(a) 公演実績

公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
		回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
森山開次「新版・NINJA」	6/28～30 中劇場	3	3	2,257	83.0%	3	3	2,151	79.1%	104.9%
新国立劇場バレエ団 「DANCE to the Future 2024」	11/29～ 12/1 小劇場	4	3	1,145	85.2%	4	3	1,122	83.5%	102.0%
Co.山田うん「オバケッタ」	3/29～30 小劇場	4	2	1,247	88.1%	4	2	1,028	76.5%	121.3%
現代舞踊【合計】	3 公演 計画:3 公演	11	8	4,649	84.9%	11	8	4,301	79.6%	108.1%

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

(c) アンケート調査

公演数	配布数(A)	回収数(B)	回答数(C)	満足数(D)	回収率 (B/A)	満足回答率 (D/C)
3 公演	0	0	206	190	－	92.2%

※全公演でウェブアンケートを実施した。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・3 公演 11 回の現代舞踊公演を計画通り、実施した。
- ・新国立劇場バレエ団の中から振付家を育てるプロジェクト「NBJ Choreographic Group」を継続的に実施した。「DANCE to the Future 2024」では、若手ダンサー2 名が新たに振付家として作品を発表し、継続的に作品を発表しているダンサーにとっても新たな視点をもたらす機会となった。
- ・「DANCE to the Future 2024」では、アドヴァイザーとしてネザーランド・ダンス・シアター等で活躍した小尻健太氏を迎え、小尻氏の振付作品「プレリュード」を招待作品として上演した。バレエ団にとってコンテンポラリー作品のレパトリーを増やすこととなり、意義のある取り組みとなった。

【特記事項】

- ・令和6 年度(第 79 回)文化庁芸術祭主催公演(「DANCE to the Future 2024」)

④ 演劇

《制作方針》

新作上演を企画・発信するとともに、国内作品の再評価や海外の優れた作品の紹介、芸術団体等との交流に努め、現代演劇の振興普及を図る。

(a) 公演実績

公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
		回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
「デカログ 1-4」	4/13～5/6 小劇場	28	21	5,753	63.8%	28	21	5,984	66.4%	96.1%
「デカログ 5-6」	5/18～6/2 小劇場	14	14	3,143	69.7%	14	14	2,992	66.4%	105.0%
「デカログ 7-10」	6/22～7/15 小劇場	28	21	5,483	60.8%	28	21	5,984	66.4%	91.6%
「ピローマン」	10/3～27 小劇場	22	20	6,032	82.1%	22	20	5,330	75.2%	113.2%
「ターバイ」	11/7～24 小劇場	16	16	3,290	67.6%	16	16	3,646	70.8%	90.2%
「白衛軍 The White Guard」	12/3～22 中劇場	18	18	4,967	35.3%	18	18	11,407	81.0%	43.5%
演劇【合計】	6 公演 計画:6 公演	126	110	28,668	58.7%	126	110	35,343	72.3%	81.1%

※数値目標は公演数、公演回数、公演日数、入場者数。表中の達成率は実績入場者数/目標入場者数。

(b) 外部専門家等の意見

- ・専門委員に各公演についてのレポートを依頼し、意見の聴取を行った。また、総括レポートの提出を依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

(c) アンケート調査

公演数	配布数(A)	回収数(B)	回答数(C)	満足数(D)	回収率 (B/A)	満足回答率 (D/C)
6 公演	0	0	912	830	-	91.0%

※全公演でウェブアンケートを実施した。

(d) 優れた業績・評価すべき点

- ・6 公演 126 回の演劇公演を計画通り、実施した。
- ・ポーランドの名匠、クシシュトフ・キェシロフスキが発表した『デカログ』10 篇の物語を完全舞台化し、4 カ月かけて全 10 話を上演した。新国立劇場ならではの企画として評価を得た。
- ・日本でも人気の高いマーティン・マクドナー『ピローマン』を小川絵梨子芸術監督の翻訳、演出で上演。コロナ禍を経て、日常を取り戻したかのように見える今だからこそ、改めて「物語は必要か」を、作り手と観客が共に考えたいと企画、長い時間を書けて俳優たちと共に台詞の推敲作業を行い、さらに、プレビュー公演を経て、初日に向けて作品をより深化させる作業も行った。
- ・「こつこつプロジェクト」第二期を通して創作された、船岩祐太が構成・上演台本・演出を務める『ターバイ』を本公演として上演した。『オイディプス王』『コロノスのオイディプス』『アンティゴネ』3つのギリシア悲劇を再構成し、ギリシア悲劇への新たな視点を与えてくれる作品となり、こつこつプロジェクト自体の意義も観客へ伝えられる上演となった。
- ・二十世紀ロシアを代表する作家ブルガーコフの『白衛軍 The White Guard』を日本初演した。祖国の風景や思考を懸命に守ろうとした軍人たちとその家族の姿を瑞々しく描いた本作では、今、ウクライナで起きていることを改めて問うと同時に、平和に見える日本で生きている我々にも、戦争とは、日常とは、生きるとは、を鋭く問うような上演となり、高い評価を得た。
- ・『ピローマン』、『ターバイ』、『白衛軍 The White Guard』各公演に付随して、視覚・聴覚に障害のある方々への観劇サポート(文化庁委託事業「令和 6 年度障害者等による文化芸術活動推進事業」)を実施した。また、演劇の全公演日において、聴覚に障害のあるお客様を対象とした、タブレット型上演台本の貸出を実施した。
- ・公演に付随して実施する企画「ギャラリープロジェクト」を実施し、公演後のガイドツアーのほか、トークセッションは実地での開催とオンライン配信を組み合わせを行った。

- ・『白衛軍 The White Guard』が第 32 回読売演劇大賞において優秀作品賞を受賞した。
- ・『ピローマン』に出演した成河が、第 32 回読売演劇大賞において優秀男優賞を受賞した。

【特記事項】

- ・令和 6 年度(第 79 回)文化庁芸術祭主催公演(『テーバイ』)
- ・文化庁劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業(『白衛軍 The White Guard』)
- ・BS 放送・WOWOW にて演劇「透明人間の蒸気」(平成 16 年 3 月収録)が放送された(2/8, 3/10(いずれも再放送))。
- ・『モグラが三千あつまって』(令和 5 年 7 月上演)が「2024 年度 バッカーズアワード演劇奨励賞」を受賞した。

2-(3) 青少年等を対象とした公演

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(3) 青少年等を対象とした公演

- ア 伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、(1)の中で主に青少年を対象とした公演を実施するほか、社会人や親子を対象とする入門企画を実施
- イ 青少年等が現代舞台芸術に触れる機会を確保し、新たな観客層の育成と現代舞台芸術の普及を図るため、(2)の中で主に青少年を対象とした公演を実施
- ウ 国内外の幅広い来訪者に伝統芸能及び現代舞台芸術の魅力を分かりやすく紹介するため、外国人向けの公演や普及的な企画を充実

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(3) 青少年等を対象とした公演

- ア 伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、主に青少年を対象とした公演、社会人や親子等を対象とした公演・入門企画を別表 3 のとおり実施
- イ 青少年等が現代舞台芸術に触れる機会を確保し、新たな観客層の育成と現代舞台芸術の普及を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表 3 のとおり実施し、親子でも楽しめる工夫
- ウ 外国人を対象とした公演・入門企画を別表 4 のとおり実施

ア 青少年、社会人や親子等を対象とした公演・入門企画(伝統芸能分野)

《制作方針》

伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、中高生をはじめ青少年を対象とした入門公演を実施する。また、日頃伝統芸能に触れる機会の少ない社会人等を対象とした公演や、親子を対象とした公演を実施する。

本館では、代替劇場を使用して歌舞伎鑑賞教室を実施し、6月は上方歌舞伎の名作として知られる「封印切」を、7月は義太夫狂言の中でも特に人気の高い「義経千本桜」河連法眼館(通称「四の切」)を、それぞれ分かりやすい解説付きで上演することにより、歌舞伎初心者への普及を図る。

なお、各教室において開演時間を遅く設定した社会人のための公演を実施するほか、夏休み期間には、割安な親子セット料金を設定した「親子で楽しむ歌舞伎教室」を実施する。

本館文楽公演では、9月に新国立小劇場で鑑賞教室を実施し、同劇場の特性を生かした「伊達娘恋緋鹿子」「夏祭浪花鑑」を選定し、短い時間で文楽の魅力を、出演者による解説と共に楽しむことができる構成とする。また、青少年への普及のみならず18時開演の部を設け、「社会人のための文楽鑑賞教室」や「Discover BUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室－」として、それぞれ社会人を中心とする成人や、在日・訪日外国人や外国語学校の生徒等に向けた取り組みも行い、幅広い層への文楽鑑賞の紹介を目指す。

能楽堂では、6月に能楽鑑賞教室を実施し、内容の分かりやすい狂言「柿山伏」、能「安達原」に、学生が親しみを持てるよう解説を付ける。また、年間を通してコンパクトな内容で能・狂言を上演する「国立能楽堂ショーケース」を、7・8月には「親子で楽しむ狂言の会」「親子で楽しむ能の会」を実施し、入門的な内容の公演の拡充を図りながら、新たな観客層を開拓する。

文楽劇場では、青少年や観劇経験の少ない層を主な対象として文楽鑑賞教室を実施する。「二人三番叟」を上演して文楽の舞台に触れた後、「文楽へようこそ」と題して人形遣いの実演解説を行う。最後に名作鑑賞として「菅原伝授手習鑑」寺入りの段、寺子屋の段を上演し、文楽の普及を図る。

また、夏休み文楽特別公演では、三部制の第1部を「親子劇場」と題し、小学生以下の年齢層とその保護者にも文楽に親しめる内容を企画する。大なまずと釣り人の知恵比べを描く「ひょうたん池の大なまず」に引き続き、「文楽ってなあに」と題した解説では、文楽人形の遣い方の説明に加え、観客参加による体験コーナーを設ける。そして、人気演目の「西遊記」では、孫悟空と芙蓉実は銀角という人形2体が同時宙乗りで客席上方を移動する演出を採用し、来場者の興味を喚起させ、次世代の観客層の開拓に繋げる。

国立劇場おきなわでは、7月には親子、10月及び11月には一般及び主として中高生を対象とした「組踊鑑賞教室」を上演する。公演では、組踊の上演前に理解を深めるために、案内役がスクリーンを活用しながら組踊の解説を行う。また、9月には沖縄芝居の魅力を広めるため「沖縄芝居鑑賞教室」を上演する。

① 公演実績

(a) 青少年や社会人・親子等を対象とした公演(再掲)

分野	公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
			回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 「恋飛脚大和往来 封印切」	6/1～21 サンパール荒川	38	19	18,800	53.5%	38	19	21,682	62.4%	86.7%
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」	6/5～6 サンパール荒川	(2)	(2)	(312)	(16.9%)	(2)	(2)	-	-	-
歌舞伎	7月歌舞伎鑑賞教室 「義経千本桜」	7/5～27 ティアラことう・ 調布市グリーン ホール	36	18	23,358	56.3%	36	18	35,893	87.3%	65.1%
歌舞伎	7月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」	7/5・18 ティアラことう・ 調布市グリーン ホール	(2)	(2)	(664)	(29.0%)	(2)	(2)	-	-	-
歌舞伎	7月歌舞伎鑑賞教室 「親子で楽しむ歌舞伎教室」	7/21～27 調布市グリーン ホール	(14)	(7)	(7,853)	(46.6%)	(14)	(7)	-	-	-
文楽	9月文楽鑑賞教室 「伊達娘恋緋鹿子」「解説 文楽の魅力」「夏祭浪花鑑」	9/7～22 新国立劇場 小劇場	45	15	12,165	76.8%	45	15	12,672	80.0%	96.0%

文楽	9 月文楽鑑賞教室 「社会人のための文楽鑑賞 教室」	9/7～22 新国立劇場 小劇場	(11)	(11)	(2,528)	(65.3%)	(11)	(11)	-	-	-
文楽	6 月文楽鑑賞教室 「二人三番叟」「解説 文楽 へようこそ」「菅原伝授手習 鑑」	6/6～20 文楽劇場	28	14	13,052	63.8%	28	14	14,000	68.4%	93.2%
文楽	6 月文楽鑑賞教室 「大人のための文楽入門」	6/16 文楽劇場	(1)	(1)	(701)	(95.9%)	(1)	(1)	-	-	-
文楽	夏休み文楽特別公演(第一部 親子劇場)	7/20～8/12 文楽劇場	22	22	7,904	50.5%	22	22	5,500	34.2%	143.7%
能楽	【国立能楽堂ショーケース】 狂言「鎌腹」、能「土蜘蛛」	4/19 能楽堂	1	1	623	99.4%	1	1	550	87.7%	113.3%
能楽	【能楽鑑賞教室】 解説、狂言「柿山伏」、能「安 達原」	6/18～22 能楽堂	10	5	6,270	100.0%	10	5	5,500	87.7%	114.0%
能楽	【国立能楽堂ショーケース】 狂言「附子」、能「熊坂」	7/17 能楽堂	1	1	623	99.4%	1	1	550	87.7%	113.3%
能楽	【企画公演】親子で楽しむ狂 言の会 おはなし、狂言「昆布売」、 狂言「瓜盗人」	8/3 能楽堂	1	1	615	98.1%	1	1	580	92.5%	106.0%
能楽	【企画公演】親子で楽しむ能 の会 おはなし、能「殺生石」	8/24 能楽堂	1	1	615	98.1%	1	1	580	92.5%	106.0%
能楽	【国立能楽堂ショーケース】 狂言「盆山」、能「龍田」	10/18 能楽堂	1	1	623	99.4%	1	1	550	87.7%	113.3%
能楽	【国立能楽堂ショーケース】 狂言「仏師」、能「西王母」	12/20 能楽堂	1	1	623	99.4%	1	1	550	87.7%	113.3%
組踊等	組踊の世界「執心鐘入」	7/20 おきなわ大劇場	1	1	484	84.2%	1	1	316	55.0%	153.2%
組踊等	琉球舞踊鑑賞教室	8/24 おきなわ大劇場	1	1	341	75.1%	1	1	317	55.0%	107.6%
組踊等	沖縄芝居鑑賞教室「松の 精」	9/12～14 おきなわ大劇場	4	3	1,718	78.2%	3	3	1,009	58.4%	170.3%
	合計	15 公演 計画:15 公演	191	104	87,814	61.9%	190	104	100,249	71.0%	87.6%

(b) 全国各地の文化施設等における主に青少年を対象とした公演(後掲)

区分	公演名	劇場	日程	回数	日数	入場者数	入場率	共催
共催	6 月歌舞伎鑑賞教室 神奈川公演	神奈川県立 青少年センター	6/23 ～24	4	2	1,322	46.5%	かながわ伝統芸能祭実行委員会
共催	6 月歌舞伎鑑賞教室 静岡公演	グランシップ 中ホール	6/26	2	1	1,667	95.5%	(公財)静岡県文化財団
共催	国立劇場おきなわ県外公演	京都芸術劇場 春秋座	6/1	1	1	463	66.0%	京都芸術大学舞台芸術研究センター
受託	令和 6 年度(第 79 回)文化庁 芸術祭オープニング 「伝統芸能で彩る京の風景」	ロームシアター 京都 サウスホール	10/1	1	1	344	91.2%	文化庁

② アンケート調査

公演数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
11 公演	6,526	2,826	2,628	2,552	43.3%	97.1%

③ 優れた業績・評価すべき点

<歌舞伎>

- ・歌舞伎では、6・7 月に鑑賞教室を実施し、中村鴈治郎家の家の芸として受け継がれる上方歌舞伎の代表作「封印切」(6 月)と、狐を主人公として親子の情愛が描かれる義太夫狂言屈指の人気作「四の切」(7 月)を主要な五つの役をダブルキャストとする配役で取り上げた。
- ・作品の内容に則した分かりやすい事前解説を施すことで、若年層が歌舞伎の魅力に初めて触れる貴重な機会を提供することができた。
- ・公演内容の理解を促進するため、字幕表示装置で歌舞伎音楽の詞章を舞台進行に合わせて表示した。

- ・親子で楽しむ歌舞伎教室では、イラスト入りパンフレットを無料配布した。

＜文楽＞

（東京）

- ・新国立劇場小劇場で開催した文楽鑑賞教室では、その舞台機構をはじめとする特色 を活用した演目選定と大道具設計や転換の工夫、斬新な照明が効果を発揮し、一般観客を中心とした SNS 上で大いに評判を呼んだ。新たなファン層に文楽の魅力をアピールできたと言える。歌舞伎との「同時期同劇場の『夏祭』競演」は世間の耳目を集めるばかりでなく、特に抜擢した若手技芸員に大きな刺激となり、連日熱のこもった舞台が展開された。解説は冒頭に技芸員が客席から登場、通路を回りながら観客に語り掛けるなど、客席との距離が近い小劇場の構造を生かし、観客に親近感を持っていただく効果を発揮した。

（大阪）

- ・文楽鑑賞教室では、解説「文楽へようこそ」で舞台の状況をスクリーンに拡大投影し、客席後方の観客にも内容を的確に伝えられるよう努めた。また、上演演目のあらすじや物語の背景を、過去の舞台写真を使用して視覚的にも分かりやすく説明した。さらに、観客参加による人形遣いの体験コーナーを設けて、出演者と観客との相互コミュニケーションを図ることができた。
- ・夏休み文楽特別公演では、第1部親子劇場の解説「文楽ってなあに」において、人形遣いによる実演付きの解説を行った後、小学生以下の年齢層の観客を対象にした人形遣いの体験コーナーを設けて、文楽を身近に感じることができる機会を提供した。また、子どもの来場者に対象を限定して、音声同時解説サービスの無料貸出を行い、内容の理解の一助とした(利用台数：2,123 台)。

＜能楽＞

- ・能楽鑑賞教室では、動きの多い、ポピュラーな作品を選曲することとし、今年度は「柿山伏」と「安達原」を上演した。能・狂言の上演前には出演者による解説を設け、鑑賞の導きとした。
- ・「国立能楽堂ショーケース」は社会人と訪日観光客を主対象とした入門的な公演で、親しみやすい作品を選択して上演、今年度より公演当日に来場者が誰でも参加できる形式に改めた事前の体験コーナーや当日のプレトークなど様々に工夫を凝らしながら、年間を通して定期的の実施した。座席字幕表示装置には日本語での現代語訳チャンネルを追加して3チャンネル方式とし、好評を得た。また、体験コーナーでは通訳の手配を可能とするなどして、外国人の誘客促進にも努めた。
- ・「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」では公演内容等の理解を促進するため、イラスト入りの分かりやすいパンフレットを作成し、無料配布した。また、座席字幕表示装置に子供向けチャンネルを追加して3チャンネル方式とし、分かりやすい解説を表示して、好評を得た。

＜組踊等沖縄伝統芸能＞

- ・8月の琉球舞踊鑑賞教室では、案内役が初めて見る方にも分かりやすいよう琉球舞踊の歴史やポイント等を親しみやすく解説した。
- ・9月の沖縄芝居鑑賞教室では、初めて鑑賞する方にも親しみやすいよう、沖縄芝居の歴史や作品のみどころを解説した。
- ・7月・10月・11月の組踊鑑賞教室は、初めて組踊を鑑賞する方の理解を深めるために、案内役による掛け合いやスクリーンを活用しながら組踊の歴史や約束事などを分かりやすく丁寧に解説した。
- ・9月の沖縄芝居鑑賞教室は、初めて沖縄芝居を鑑賞する方の理解を深めるために、案内役が沖縄芝居の歴史背景や舞台機構の紹介をしながら、沖縄芝居の魅力を伝えた。
- ・7月の親子のための組踊鑑賞教室及び8月の琉球舞踊鑑賞教室では、親子料金を学童にも適用し、県内学童に周知した。また、9月の沖縄芝居鑑賞教室及び10月・11月の組踊鑑賞教室では、学校行事としての参加を促すため、前年度から営業活動に取り組んだ。
- ・国立劇場おきなわ運営財団の自主事業として貸切バス費用助成事業を実施し、学校団体等の誘客に努めた。

イ 主に青少年を対象とした公演(現代舞台芸術分野)

《制作方針》

新国立劇場では、青少年を対象とした鑑賞教室等を実施し、新たな観客層の育成を図るとともに、現代舞台芸術の普及と理解促進を図る。

① 公演実績

(a) 主に青少年を対象とした公演(再掲)

分野	公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
			回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
オペラ	高校生のためのオペラ鑑賞教 2024「トスカ」	7/11～18 オペラ劇場	6	6	10,405	99.3%	6	6	9,350	89.3%	111.3%
バレエ	こどものためのバレエ劇場 2024「人魚姫～ある少女の物語～」(新制作)	7/27～30 オペラ劇場	8	4	8,928	74.8%	8	4	7,854	65.8%	113.7%
現代 舞踊	森山開次「新版・NINJA」	6/28～30 中劇場	3	3	2,257	83.0%	3	3	2,151	79.1%	104.9%
現代 舞踊	Co.山田うん「オバケッタ」	3/29～30 小劇場	4	2	1,247	88.1%	4	2	1,028	72.6%	121.3%
	合計	4 公演 計画:4 公演	21	15	22,837	86.0%	21	15	20,383	76.8%	112.0%

(b) 全国各地の文化施設等における主に青少年を対象とした公演、主に青少年を対象とした合唱団外部出演公演(後に再掲)

《全国各地の文化施設等における主に青少年を対象とした公演》

区分	公演名	劇場	日程	回数	日数	入場者数	入場率	連携協力先
共催	高校生のための オペラ鑑賞教室 2024 「ドン・パスクワレ」	ロームシアター京都 メインホール	10/29 ～30	2	2	2,904	93.9%	京都市、ロームシアター 京都((公財)京都市音楽 芸術文化振興財団)

《主に青少年を対象とした合唱団外部出演公演》

公演名	会場	主催・共催等	日程	回数
令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)	各県の小・中学校内体育館	主催:(独)日本芸術文化 振興会	6月・ 11月	12回

② アンケート調査

公演数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
4 公演	10,405	5,778	6,028	5,620	55.5%	93.2%

③ 優れた業績・評価すべき点

- こどものためのバレエ劇場 2024 として新制作し、世界初演となった「人魚姫～ある少女の物語～」は、「人魚姫」という広く親しまれる童話をモチーフにして、初めてバレエを鑑賞する子どもたちにも親しみやすくバレエならではの表現を楽しめる作品となった。また、振付は 2022 年まで新国立劇場バレエ団に 22 年間在籍した貝川鐵夫が手掛け、NBJ Choreographic Group で振付家としての経験を重ねてきた貝川による全幕バレエ作品を上演できたことは、バレエ団の中から振付家を育てるこのプロジェクト全体にとって非常に重要な成果となった。会場ホワイエにて特別協賛社の株式会社タカラトミーによる本公演オリジナル「リカちゃん」の展示を行ったほか、こどもバックステージツアーを 2 回実施し、子どもたちに舞台芸術への関心を深めてもらう機会となった。

ウ 外国人を対象とした公演・入門企画

《制作方針》

「Discover KABUKI—外国人のための歌舞伎鑑賞教室—」をはじめ、外国人向けの入門公演を各館で実施する。実施に際しては、解説や外国語表示、音声同時解説等に工夫を凝らし、当日の受け入れ態勢等のサービスにも留意する。

東京の文楽では、訪日外国人、在住外国人が文楽に触れる機会を創出するため、9月文楽鑑賞教室の4ステージを「Discover BUNRAKU—外国人のための文楽鑑賞教室—」として上演する。今年度の文楽鑑賞教室の演目を取り上げる『伊達娘恋緋鹿子』と『夏祭浪花鑑』上演間に実演解説と作品解説を英語で行い、また、文楽の魅力を紹介する英語字幕付きの映像を放映して人形浄瑠璃文楽の世界を十分に楽しめる公演を行う。

文楽劇場における外国人のための文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKU」においては、解説に外国籍で日本文化に精通した大学教員を初めて起用し、英語字幕の表示、多言語対応による別冊の無料解説書、日本語・英語の音声同時解説サービスの無料提供により、文楽の理解を深める一助とする。

能楽堂においては、座席字幕表示装置を活用し、6言語(日本語・英語・中国語(簡体字)・韓国語・フランス語・スペイン語)での表示を行う。また、当日無料配布した解説書も同じく6言語表記として、理解促進に役立てる。

① 公演実績

分野	公演名	日程 劇場	実績				計画				達成率
			回数	日数	入場者数	入場率	回数	日数	入場者数	入場率	
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 「Discover KABUKI—外国人のための歌舞伎鑑賞教室—」	6/20 サンパール荒川	2	1	1,506	81.4%	2	1	1,100	60.1%	136.9%
文楽	9月文楽鑑賞教室 「Discover BUNRAKU—外国人のための文楽鑑賞教室—」	9/16~20 新国立劇場小劇場	4	4	639	45.4%	4	4	900	63.9%	71.0%
文楽	6月文楽鑑賞教室 「Discover BUNRAKU」	6/16 文楽劇場	1	1	291	39.8%	1	1	320	43.8%	90.9%
短期	8月舞踊公演 「日本舞踊の楽しみ—日本舞踊の中の動物たち—Discover NIHONBUYO with Animals」	8/10 浅草公会堂	1	1	554	57.1%	0	0	0	—	—
短期	8月邦楽公演 「はじめての邦楽—箏の魅力—Discover HOGAKU: The charm of "KOTO"」	8/31 文京シビック小ホール	2	1	105	16.5%	0	0	0	—	—
短期	1月邦楽公演 「江戸っ子びいさの名曲—蔦屋重三郎・喜多川歌麿の生きた時代—Discover HOGAKU: Hit tunes in EDO」	1/25 よみうり大手町ホール	1	1	357	75.8%	0	0	0	—	—
短期	2月声明公演 「真言宗智山派 総本山智積院の声明 Discover SHOMYO: Shomyo (Buddhist chant) of Chishakuin Temple」	2/1 ティアラことう	1	1	1112	93.8%	0	0	0	—	—
能楽	【外国人のための能楽鑑賞教室】 Discover NOH & KYOGEN 解説、狂言「瘦松」、能「花月」	10/26 国立能楽堂	1	1	627	100.0%	1	1	600	95.7%	104.5%
組踊等	はじめての組踊 ～Discover KUMIODORI～ 組踊「万歳敵討」	11/2 国立劇場 おきなわ大劇場	1	1	254	50.3%	1	1	316	55.0%	80.4%
合計		9公演 計画5公演	14	12	5,445	64.9%	9	8	3,236	62.6%	168.3%

② アンケート調査

公演数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
9公演	5,362	2,739	2,400	2,351	51.1%	98.0%

③ 優れた業績・評価すべき点

＜歌舞伎・文楽(東京)＞

- ・「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」では舞台上部に英語字幕を掲出し、2言語(英語・日本語)の音声解説と6言語(日本語・英語・中国語(簡体字・繁体字)・韓国語・フランス語・スペイン語)表記のパンフレットを無料で提供し、外国人観客の理解促進を図った。
- ・文楽は外国人向け公演を従来の1ステージから4ステージに拡大し、6か国語対応のパンフレット、英語通訳を介した解説、英語と日本語から選択できる字幕アプリによる浄瑠璃の詞章表示などにより、外国人観客の理解促進を図った。

＜文楽(大阪)＞

- ・「Discover BUNRAKU」の解説に起用した外国籍の大学教員が日本の伝統文化に精通しており、日本語と英語を巧みに織り交ぜて、太夫・三味線・人形の特徴を分かりやすく紹介したことで、来場者の好評を得た。
- ・「Discover BUNRAKU」では、英語・中国語(簡体字・繁体字)・韓国語・フランス語・スペイン語による写真入りパンフレットを別途作成し、無料で配布した。
- ・「Discover BUNRAKU」において、舞台の内容を要約した解説を英語字幕で表示するとともに、英語の音声同時解説サービスの無料貸出を実施し、外国人来場者の理解の手助けとした。

＜舞踊＞

- ・「Discover NIHONBUYO with Animals」では解説の逐次通訳(英語)を行った。また、字幕アプリに日本語と英語の選択式字幕を表示するとともに、2言語(日本語・英語)表記のパンフレットを無料で提供した。

＜邦楽＞

- ・「Discover HOGAKU: Hit tunes in EDO」では字幕アプリに日本語と英語の選択式字幕を表示するとともに、2言語(日本語・英語)表記のパンフレットを無料で提供した。

＜声明＞

- ・「Discover SHOMYO」では字幕アプリに日本語と英語の選択式字幕を表示するとともに、2言語(日本語・英語)表記のパンフレットを無料で提供した。

＜能楽＞

- ・「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」を10月に実施し、充実した番組によって外国人鑑賞者に能楽を強く印象付けた。座席字幕表示装置は6言語(日本語・英語・中国語(簡体字)・韓国語・フランス語・スペイン語)での表示を行った。また、当日無料配布した解説書も同じく6言語表記とし、理解促進に大いに役立った。

＜組踊＞

- ・「はじめての組踊～Discover KUMIODORI～」では、劇場ロビーに英語通訳者を配置したほか、多言語音声ガイド(4言語:日本語・英語・中国語・韓国語)を導入した。また、公演前に英語通訳付きのワークショップを開催したほか、多言語版公演チラシを作成し、県内学校の外国語指導助手(ALT)や外国人が多く在籍する沖縄科学技術大学院大学、県人会への周知等、誘客活動を実施した。
- ・国立劇場おきなわ運営財団ウェブチケット販売サービスの英語サイトや、多言語対応している旅行代理店の販売ウェブサイト(航空券、ホテル、レンタカー等とあわせて購入可能)を活用し、外国のお客様の利便性向上を図った。
- ・日本博対象公演については、音声ガイド、タブレットの他、英語・繁体字・簡体字・韓国語のリーフレットを配布した。

2-(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等

- ア 新たな観客層の開拓、適切な鑑賞者数及び公演収支の改善目標の設定
- イ 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施
- ウ 伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点としての公演等の実施
 - ①国、地方公共団体、他の独立行政法人、芸術団体、企業等との連携協力公演等
 - ②全国各地の文化施設等における公演等
 - ③国際文化交流の進展に寄与するための国等との連携協力公演等
 - ④ICTを活用した舞台映像の配信

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等

- ア 別表 1 及び別表 2 のとおり公演収支の改善
- イ 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施
- ウ 伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点としての公演等の実施
 - ①国、地方公共団体、芸術団体、企業等との連携協力による公演等を別表 5 のとおり実施
 - ②全国各地の文化施設等における公演等を別表 6 のとおり実施
 - ③国際文化交流の進展に寄与する公演等を別表 7 のとおり実施
 - ④インターネット通信技術を活用した舞台映像の動画配信

オンライン動画配信の視聴者数

i. 伝統芸能: 29,200 回

ii. 現代舞台芸術: 50,800 回

- エ 舞台芸術グローバル拠点事業の推進、新国立劇場バレエ団のフィジカルサポート体制の充実、外国人入場者数や部隊映像の海外からの視聴割合の増加、海外への情報発信や国際的なブランディングの強化に向けたマーケティングの在り方の検討

- ・英語版の新国立劇場ホームページへのアクセス件数: 132,000 件(セッション数)
- ・別表 2 に記載した公演の外国人入場者数: 3,000 人
- ・舞台映像の海外からの視聴割合: 20%【モニタリング指標】
- ・新国立劇場に関する海外メディアへの掲載件数: 90 件【モニタリング指標】

[1] 伝統芸能の公開に際しての留意事項等

ア 公演収支の改善

《分野別 公演収支改善率》

(単位:千円)

分野	前中期実績	実績		計画	
		公演収支額	改善率(A)	公演収支額	改善率(B)
歌舞伎	△ 159,948	△ 163,754	△ 2%	△ 10,000	94%
文楽	△ 87,341	△ 68,413	22%	0	100%
舞踊・邦楽等	△ 41,257	△ 8,395	80%	△ 19,000	54%
舞踊		△ 3,509			
邦楽		△ 3,125			
雅楽		0			
声明		886			
民俗芸能		0			
琉球芸能		0			
特別企画		△ 2,647			
大衆芸能	9,301	10,918	17%	9,301	0%
能楽	4,698	38,446	718%	4,698	0%
組踊等	△ 48,509	△ 32,099	34%	△ 46,000	5%
合計	△ 323,056	△ 223,297	31%	△ 61,001	81%

※前中期実績＝平成30年度～令和4年度実績の年平均値

※改善率＝(公演収支額－前中期実績)／前中期実績

※大衆芸能については、もともと黒字公演が多いところ、国立演芸場の再整備に伴って客席数・公演回数が減少するため、代替劇場の確保状況により年度ごとに公演収支額が変動することになる。そのため、以下の算出式により、国立演芸場に係る前中期実績を補正する。上表の前中期実績は補正後の数値である。

前中期実績補正值＝公演収入の前中期実績補正值－公演支出の前中期実績補正值

公演収入の前中期実績補正值＝公演収入の前中期実績×当年度計画の総席数／総席数の前中期実績

公演支出の前中期実績補正值＝公演支出の前中期実績×当年度計画の公演回数／公演回数の前中期実績

イ 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施

① 外部専門家等の意見聴取

外部専門家等の意見聴取は、専門委員による公演ごとのレポート提出及び年2回の公演専門委員会等の開催により行った。

② アンケート調査の実施

《分野別集計》

分野	公演数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
歌舞伎	4公演	2,851	1,430	1,219	1,202	50.2%	98.6%
文楽	9公演	3,595	2,387	2,142	2,110	66.4%	98.5%
舞踊・邦楽等	8公演	3,534	2,102	1,794	1,758	59.5%	98.0%
大衆芸能	6公演	1,339	794	794	720	59.3%	90.7%
能楽	11公演	6,821	1,669	1,669	1,596	24.5%	95.6%
組踊等・沖縄伝統芸能	23公演	6,830	4,462	4,304	4,107	65.3%	95.4%
合計	61公演	24,970	12,844	11,922	11,493	51.4%	96.4%

ウ 伝統芸能の保存振興の中核的拠点としての公演等の実施

① 国、地方公共団体、芸術団体、企業等との連携協力による公演等

(a) 年度計画公演

区分	公演名	劇場	日程	回数	日数	入場者数	入場率	連携協力先
共催	1月特別企画公演 「国立名人会」	大和田伝承ホール	1/2	1	1	280	96.6%	渋谷区
協力	【企画公演】特集：源氏物語 箏組曲「空蟬」、箏曲「住吉」、	国立能楽堂	11/23	1	1	616	98.2%	(公社)宝生会

	復曲能「空蟬」							
協力	月間特集 絵巻物と能 【企画公演】特集:菅原道真 舞囃子「老松」、狂言「弓矢太郎」、 復曲能「雷電 替装束」	国立能楽堂	2/28	1	1	616	98.2%	(公社)宝生会
協力	【特別企画公演】 復曲狂言「天正狂言本」と古画に よる 袴裂」、復曲能「武文」	国立能楽堂	3/28 ～29	2	2	1,235	98.5%	(公社)宝生会
共催	令和6年度沖縄県伝統芸能公演 宜野湾市文化協会古典芸能部 華&舞2 龍年に翔ぶ	国立劇場 おきなわ小劇場	6/28	1	1	202	79.2%	(公財)沖縄県文化振興会
共催	令和6年度沖縄県伝統芸能公演 沖縄芝居「宮廷結婚式」	国立劇場 おきなわ大劇場	7/5	1	1	110	43.1%	(公財)沖縄県文化振興会
共催	組踊 琉神マブヤー ※公演中止	国立劇場 おきなわ小劇場	8/9 ～11	0	0	0	—	組踊琉神マブヤー製作委員会
共催	令和6年度沖縄県伝統芸能公演 第3回高校生選抜かりゆし公演	国立劇場 おきなわ小劇場	8/25	1	1	207	81.2%	(公財)沖縄県文化振興会
共催	令和6年度沖縄県伝統芸能公演 琉球舞踊島袋流千尋会「山花ひらく」	国立劇場 おきなわ小劇場	9/27	1	1	217	85.1%	(公財)沖縄県文化振興会
共催	令和6年度かりゆし芸能公演 光史流太鼓保存会亀浜律子練場 「大平山・雲海の鼓動」	国立劇場 おきなわ小劇場	10/11	1	1	147	57.6%	(公財)沖縄県文化振興会
共催	沖縄県立芸術大学 「第35回琉球芸能定期公演」	国立劇場 おきなわ大劇場	10/12	1	1	560	88.6%	沖縄県立芸術大学
共催	令和6年度かりゆし芸能公演 眞境名由康生誕135年を偲ぶ芸風 ～眞境名由康組踊会発足55周年記念～	国立劇場 おきなわ小劇場	11/22	1	1	127	49.8%	(公財)沖縄県文化振興会
共催	新春組踊大公演	国立劇場 おきなわ大劇場	1/5	1	1	217	37.5%	(一社)伝統組踊保存会
共催	令和6年度かりゆし芸能公演 親泊流桜羽会 新城園美琉舞研究所 新春の舞～あけみおのまより～	国立劇場 おきなわ小劇場	1/17	1	1	168	65.9%	(公財)沖縄県文化振興会
共催	令和6年度かりゆし芸能公演 大宜見一心クガニー芸能協会 ～クガニー芸能のタベ～	国立劇場 おきなわ小劇場	2/28	1	1	150	58.8%	(公財)沖縄県文化振興会
受託	組踊鑑賞教室「万歳敵討」	国立劇場 おきなわ大劇場	10/30 ～11/1	6	3	3,098	89.8%	沖縄県
	合計	15公演		21	18	7,950	83.7%	

・主催「組踊琉神マブヤー製作委員会」の代表が逝去したことにより、「組踊 琉神マブヤー」(8/9～11)を中止した。

(b) その他の公演、地方自治体等との後援・協力等

i. 令和6年度(第79回)文化庁芸術祭

区分	館名	公演名
主催公演	本館	文化庁芸術祭オープニング(会場:ロームシアター京都 サウスホール)
	おきなわ	10月企画公演(アジア・太平洋地域の芸能)

ii. 地方公共団体、教育委員会、専修学校各種学校協会、旅行社等の後援・協力等

館名	公演名	区分	連携協力先
本館	歌舞伎鑑賞教室	共催	江東区、公益財団法人江東区文化コミュニティ財団(7月歌舞伎鑑賞教室ティアラこうとう公演)
		後援	文化庁、東京都、千葉県、埼玉県教育委員会、神奈川県教育委員会、荒川区及び荒川区教育委員会(6月歌舞伎鑑賞教室)、調布市及び調布市教育委員会(7月歌舞伎鑑賞教室調布市グリーンホール公演)
	親子で楽しむ歌舞伎教室 (7月歌舞伎鑑賞教室期間中)	共催	東京都教育委員会
		後援	文化庁、埼玉県教育委員会、千葉県教育委員会、神奈川県教育委員会、東京私立初等学校協会、一般財団法人東京私立中学高等学校協会、小田原市教育委員会、船橋市教育委員会、調布市、調布市教育委員会
	社会人のための歌舞伎鑑賞教室	共催	江東区、公益財団法人江東区文化コミュニティ財団(7月歌舞伎鑑賞)

			教室ティアラこうとう公演)
		後援	一般社団法人日本経済団体連合会、公益社団法人経済同友会、東京商工会議所
	文楽鑑賞教室	後援	文化庁、東京都、千葉県、埼玉県教育委員会、神奈川県教育委員会
	12 月文楽公演	共催	江東区、公益財団法人江東区文化コミュニティ財団(江東区文化センター公演)
	2 月声明公演	共催	江東区、公益財団法人江東区文化コミュニティ財団
	2 月文楽公演	共催	公益財団法人品川文化振興事業団(きゅりあん公演)、公益財団法人文京アカデミー(文京シビックホール公演)
	Discover KABUKI、Discover BUNRAKU、8 月舞踊、8 月邦楽、1 月邦楽、2 月声明、5 月声明	主催	文化庁
演芸場	7 月特別企画公演 「演芸大にぎわい ～東から西から～」	制作協力	一般社団法人日本演芸家連合
能楽堂	能楽鑑賞教室	後援	文化庁、東京都、千葉県、埼玉県教育委員会、神奈川県教育委員会
	11 月 29 日・30 日企画公演 ◎古典の日記念 特集・源氏物語	後援	古典の日推進委員会
文楽劇場	全公演	共催	関西元氣文化圏共催事業
	8 月文楽鑑賞教室	後援	文化庁、大阪府教育委員会、大阪府教育委員会、京都府教育委員会、兵庫県教育委員会、奈良県教育委員会、滋賀県教育委員会、和歌山県教育委員会、NHK 大阪放送局
		協力	公益財団法人文楽協会
	夏休み文楽特別公演	後援	尼崎市、大阪府教育委員会

iii. 外部の公演等への後援・協力等

区分	公演名	劇場	主催等	日程
協力	第 35 回全国高等学校総合文化祭 優秀校東京公演	新国立劇場中劇場	文化庁、公益社団法人全国高等学校文化連盟、東京都教育委員会、東京都高等学校文化連盟	8/24～25
協力	「桜田門外の変」前夜を描いた歌舞伎 『大老』を読み解く	千代田区立日比谷図書文化館	千代田区立日比谷図書文化館	3/3
協賛	2024 年度小学生のための 歌舞伎体験教室	国立オリンピック記念 青少年総合センター 他	文化庁	7/15、 8/19～24
協賛	令和 6 年度キッズ伝統芸能体験	国立能楽堂 他	東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 (アーツカウンシル東京)、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会	9/22～3/28
協賛	第 65 回式能	国立能楽堂	公益社団法人能楽協会	2/16
協力	札幌市教育文化会館リニューアル オープン記念 野村萬斎狂言公演	札幌市教育文化会館	札幌市教育文化会館(札幌市芸術文化財団)、札幌テレビ放送	10/4、5

② 全国各地の文化施設等における公演等

区分	公演名	劇場	日程	回数	日数	入場者数	入場率	連携協力先
※主催	9 月歌舞伎公演 「入門 夏祭浪花鑑をたのしむ」 「夏祭浪花鑑」	新国立劇場中劇場	9/1～25	23	23	5,871	27.7%	
※主催	1 月歌舞伎公演 「通し狂言 彦山権現誓助剣」	新国立劇場中劇場	1/5～27	21	21	10,470	54.4%	
※主催	6 月歌舞伎鑑賞教室 「解説 歌舞伎のみかた」 「恋飛脚大和往来 封印切」	サンパール荒川	6/1～21	38	19	18,800	53.5%	荒川区
※主催	7 月歌舞伎鑑賞教室 「解説 歌舞伎のみかた」 「義経千本桜」	ティアラこうとう・ 調布市グリーンホール	7/5～27	36	18	23,358	56.3%	江東区
※主催	5 月文楽公演 第一部「寿柱立万歳」 「豊竹呂太夫改め十一代目豊竹若 太夫襲名披露口上」和合戦女舞 鶴「近頃河原の達引」／第二部「ひ らかな盛衰記」	シアター1010	5/9～27	36	18	11,258	56.0%	足立区
※主催	12 月文楽公演 第一部「日高川入相 花王」「瓜子姫とあまんじゃく」「金壺 親父恋達引」／第二部「一谷嫩軍 記」「壇浦兜軍記」／第三部「曾根崎	江東区文化センター・ 神奈川県立青少年センター	12/4～19	36	12	10,960	55.0%	江東区

	心中」							
※主催	2月文楽公演 通し狂言「妹背山婦女庭訓」	きゅりあん・ 文京シビックホール	2/8 ～26	48	16	14,193	35.3%	品川区、文京区
※主催	9月文楽鑑賞教室 「伊達娘恋緋鹿子」 「解説 文楽の魅力」 「夏祭浪花鑑」	新国立劇場小劇場	9/7 ～22	45	15	12,165	76.8%	
※主催	8月舞踊公演 「日本舞踊の楽しみ—日本舞踊の中 の動物たち—Discover NIHONBUYO with Animals」	浅草公会堂	8/10	1	1	554	57.1%	
※主催	3月舞踊イベント 「鎌倉 建長寺で楽しむ座敷舞 Japanese classical dance performance in Kenchoji Temple」	建長寺・応真閣	3/1	2	1	183	99.5%	
※主催	8月邦楽公演 「はじめての邦楽—箏の魅力— Discover HOGAKU : The charm of “KOTO”」	文京シビックホール	8/31	2	1	105	16.5%	
※主催	1月邦楽公演 「江戸っ子びいきの名曲—蔦屋重三 郎・喜多川歌麿の生きた時代— Discover HOGAKU : Hit tunes in EDO」	よみうり大手町ホール	1/25	1	1	357	75.8%	
※主催	2月声明公演 「真言宗智山派 総本山智積院の声明 Discover SHOMYO:Shomyo(Buddhist chant) of Chishakuin Temple」	ティアラこうとう	2/1	1	1	1,112	93.8%	江東区
※主催	4月国立演芸場寄席(11日～15日)	紀尾井小ホール	4/11 ～15	5	5	777	62.2%	(公財)日本製鉄 文化財団
※主催	4月国立演芸場寄席(16日～20日)	紀尾井小ホール	4/16 ～20	5	5	286	22.9%	(公財)日本製鉄 文化財団
※主催	5月国立演芸場寄席(21日～25日)	紀尾井小ホール	5/21 ～25	5	5	1,213	97.0%	(公財)日本製鉄 文化財団
※主催	5月国立演芸場寄席(26日～30日)	紀尾井小ホール	5/26 ～30	5	5	344	27.5%	(公財)日本製鉄 文化財団
※主催	6月国立演芸場寄席(11日～15日)	紀尾井小ホール	6/11 ～15	5	5	875	70.0%	(公財)日本製鉄 文化財団
※主催	6月国立演芸場寄席(16日～20日)	紀尾井小ホール	6/16 ～20	5	5	669	53.5%	(公財)日本製鉄 文化財団
※主催	7月国立演芸場寄席(16日～20日)	紀尾井小ホール	7/16 ～20	5	5	985	78.8%	(公財)日本製鉄 文化財団
※主催	7月国立演芸場寄席(23日～27日)	紀尾井小ホール	7/23 ～27	5	5	453	36.2%	(公財)日本製鉄 文化財団
※主催	8月国立演芸場寄席(16日～20日)	内幸町ホール	8/16 ～20	5	5	656	71.7%	千代田区
※主催	8月国立演芸場寄席(21日～25日)	内幸町ホール	8/21 ～25	5	5	443	48.4%	千代田区
※主催	9月国立演芸場寄席(3日～7日)	紀尾井小ホール	9/3 ～7	5	5	259	20.7%	(公財)日本製鉄 文化財団
※主催	9月国立演芸場寄席(11日～15日)	内幸町ホール	9/11 ～15	5	5	296	32.3%	千代田区
※主催	10月国立演芸場寄席(1日～5日)	深川江戸資料館	10/1 ～5	5	5	248	21.4%	江東区
※主催	10月国立演芸場寄席(11日～15日)	内幸町ホール	10/11 ～15	5	5	326	35.6%	千代田区
※主催	11月国立演芸場寄席(6日～10日)	深川江戸資料館	11/6 ～10	5	5	796	68.6%	江東区
※主催	11月国立演芸場寄席(26日～30日)	内幸町ホール	11/26 ～30	5	5	390	42.6%	千代田区
※主催	12月国立演芸場寄席(15日～19日)	内幸町ホール	12/15 ～19	5	5	415	45.4%	千代田区
※主催	12月国立演芸場寄席(23日～27日)	紀尾井小ホール	12/23 ～27	5	5	372	29.8%	(公財)日本製鉄 文化財団

※主催	1 月国立演芸場寄席(6 日～10 日)	紀尾井小ホール	1/6 ～10	5	5	1,068	85.4%	(公財)日本製鉄文化財団
※主催	1 月国立演芸場寄席(11 日～15 日)	紀尾井小ホール	1/11 ～15	5	5	441	35.3%	(公財)日本製鉄文化財団
※主催	2 月国立演芸場寄席(4 日～8 日)	紀尾井小ホール	2/4 ～8	5	5	361	28.9%	(公財)日本製鉄文化財団
※主催	2 月国立演芸場寄席(11 日～15 日)	内幸町ホール	2/11 ～15	5	5	778	85.0%	千代田区
※主催	3 月国立演芸場寄席(11 日～15 日)	紀尾井小ホール	3/11 ～15	5	5	600	48.0%	(公財)日本製鉄文化財団
※主催	3 月国立演芸場寄席(25 日～29 日)	紀尾井小ホール	3/25 ～29	5	5	600	48.0%	(公財)日本製鉄文化財団
※主催	4 月花形演芸会	大和田伝承ホール	4/27	1	1	245	84.5%	渋谷区
※主催	5 月花形演芸会	大和田伝承ホール	5/12	1	1	153	52.8%	渋谷区
※主催	6 月花形演芸会	大和田伝承ホール	6/29	1	1	204	70.3%	渋谷区
※主催	7 月花形演芸会	大和田伝承ホール	7/14	1	1	174	60.0%	渋谷区
※主催	8 月花形演芸会	大和田伝承ホール	8/10	1	1	240	82.8%	渋谷区
※主催	9 月花形演芸会	大和田伝承ホール	9/22	1	1	221	76.2%	渋谷区
※主催	10 月花形演芸会	大和田伝承ホール	10/19	1	1	262	90.3%	渋谷区
※主催	2 月花形演芸会(2/22)	大和田伝承ホール	2/22	1	1	175	60.3%	渋谷区
※主催	12 月花形演芸会	大和田伝承ホール	12/7	1	1	276	95.2%	渋谷区
※主催	1 月花形演芸会	大和田伝承ホール	1/18	1	1	186	64.1%	渋谷区
※主催	2 月花形演芸会(2/1)	大和田伝承ホール	2/1	1	1	224	77.2%	渋谷区
※主催	3 月花形演芸会	大和田伝承ホール	3/1	1	1	231	79.7%	渋谷区
※主催	5 月特別企画公演 「立川流落語会」	大和田伝承ホール	5/10 ～11	2	2	301	51.9%	渋谷区
※主催	7 月特別企画公演 「演芸大にぎわい～東から西から～」	紀尾井小ホール	7/15	1	1	230	92.0%	
※主催	9 月特別企画公演 「五代目圓楽一門会」	大和田伝承ホール	9/21	2	1	359	61.9%	渋谷区
※主催	1 月特別企画公演 「国立名人会」	大和田伝承ホール	1/2	1	1	280	96.6%	渋谷区
※主催	第28期歌舞伎俳優・ 第8期大衆芸能(大神楽)修了発表会、 第29期歌舞伎俳優研修発表会(合同)	国立オリンピック記念 青少年総合センター小ホール	3/14	1	1	134	34.9%	(独)国立青少年 教育振興機構
※主催	稚魚の会・歌舞伎会合同公演	浅草公会堂	8/15 ～18	4	4	2,683	69.4%	
※主催	音の会	浅草公会堂	8/8	1	1	328	42.2%	
※主催	第33回能楽若手研究会 京都公演 若手能	京都観世会館	6/22	1	1	370	81.9%	
※主催	第33回能楽若手研究会 大阪公演 若手能	大槻能楽堂	2/1	1	1	393	87.7%	
共催	6 月歌舞伎鑑賞教室神奈川公演	神奈川県立青少年センター	6/23 ～24	4	2	1,322	46.5%	かながわ伝統 芸能祭実行委 員会
共催	6 月歌舞伎鑑賞教室静岡公演	グランシップ中ホール	6/26	2	1	1,667	95.5%	(公財)静岡県文 化財団
※主催	第53回東西合同研究発表会	京都観世会館	1/29	1	1	155	34.3%	京都能楽養成 会・大阪能楽養 成会
共催	国立劇場おきなわ県外公演	京都芸術劇場春秋座	6/1	1	1	463	66.0%	京都芸術大学 舞台芸術研究 センター
受託	令和6年度(第79回)文化庁芸術祭 オープニング 「伝統芸能で彩る京の風景」	ロームシアター京都 サウスホール	10/1	1	1	344	91.2%	文化庁

	合計	62 公演		445	298	134,657	51.5%	
--	----	-------	--	-----	-----	---------	-------	--

※台風接近のため、「第 53 回東西合同研究発表会」の日程を 8/27 から 1/29 に振り替えた。

※印のものは、国立劇場等再整備期間中の代替施設における公演

③ 国際文化交流の進展に寄与する公演等

(a) 年度計画公演

公演名	劇場	日程	回数	日数	入場者数	入場率	連携協力先
6 月歌舞伎鑑賞教室「Discover KABUKI ー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」	サンパール荒川	6/20	2	1	1,506	81.4%	荒川区
9 月文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKU ー外国人のための文楽鑑賞教室ー」	新国立劇場 小劇場	9/16 ～20	4	4	639	45.4%	
6 月文楽鑑賞教室 「Discover BUNRAKU」	文楽劇場	6/16	1	1	291	39.8%	
【外国人のための能楽鑑賞教室】 Discover NOH & KYOGEN 解説、狂言「瘦松」、能「花月」	国立能楽堂	10/26	1	1	627	100.0%	
アジア・太平洋地域の芸能 「韓国の梵唄と日本の語り」	おきなわ大劇場	10/20	1	1	261	52.2%	文化庁芸術祭執行委員会
はじめての組踊～Discover KUMIODORI～ 組踊「万歳敬討」	おきなわ大劇場	11/2	1	1	254	50.3%	
合計	6 公演		10	9	3,578	63.7%	

(b) 在日各国大使等の公演招待

- ・文楽劇場 Discover BUNRAKU 公演において在関西各国総領事等招待を実施し、5 か国から総領事等 10 名が参加した(6/16)。
- ・9 月歌舞伎公演(新国立劇場中劇場)において、各国駐日大使等招待を実施。20 の国と地域から大使等 35 名が参加した(9/10)。

④ インターネット通信技術を活用した舞台映像の動画配信

《舞台映像配信》

分野	配信件数	視聴回数	年度計画	達成率
歌舞伎	0 件	0 回		
文楽	17 件	4,711 回		
舞踊・邦楽等	27 件	360,291 回		
大衆芸能	0 件	0 回		
能楽	0 件	0 回		
組踊等	1 件	1,468 回		
伝統芸能合計	45 件	366,470 回	29,200 回	1255.0%
うち視聴回数が非常に多かったコンテンツ	1 件	322,571 回		
その他のコンテンツ	44 件	43,899 回		

＜各館共通＞

- ・振興会ホームページへのトピックス及びダイジェスト動画掲出、国立オンライン劇場への情報掲出、お知らせメールへの情報掲載、X(旧 Twitter)、Instagram への投稿により周知を行った。

＜本館＞

- ・伝統芸能分野では、昨年度に引き続き海外からの視聴回数が多く、特に 4 年 7 月舞踊公演「花形・名作舞踊鑑賞会」の無料配信(「Enjoying the Masterpiece of Kabuki Dance」)の視聴回数が非常に多い(322,571 回)。

＜文楽劇場＞

- ・収録した公演記録映像を、公演終了後にストリーミングサービスを用いて有料で配信し、特典として視聴者がダウンロードして利用できる床本集を提供した(4 月文楽公演、夏休み文楽特別公演、11 月文楽公演、初春文楽公演)。

⑤ 地方公共団体、関係する独立行政法人等との連携協力

i. 国立劇場再整備等事業関連

本館・演芸場について、代替劇場公演の実施に当たり、会場が所在する地方公共団体等と連携協定を締結し、公演実施及び公演周知における連携協力の他、住民公演招待、住民向け優待チケット販売、入門講座、展示等の住民還元事業を実施し、地域住民に対する伝統芸能の振興を図った。

- ・千代田区、千代田区観光協会(8月国立演芸場寄席、9月国立演芸場寄席、10月国立演芸場寄席、11月国立演芸場寄席、12月国立演芸場寄席、2月国立演芸場寄席、3月国立演芸場寄席)
 - ◇区報や観光案内サイト等にて公演を周知
 - ◇千代田区立内幸町ホールが主催する「親子で楽しむ演芸会」において制作協力を行った。
 - ◇日比谷図書文化館の日比谷カレッジ(「桜田門外の変」前夜を描いた歌舞伎『大老』を読み解く)の企画協力を行った。(参加者数 61 名、申込者数 94 名)。
- ・文京区(2月文楽公演、8月邦楽公演)
 - ◇文京区等と連携した広報
 - 区報及び区内の文化・芸術情報紙に公演情報や関連事業の告知を掲載
 - 文京アカデミーが管理する掲示板・ラックにポスター・チラシ掲出
 - ◇文京区等と連携してチケットの委託販売を実施
 - 文京シビックホールで委託販売(メールマガジン 23,000 通、先行販売 62 枚)
 - ◇文京区等と連携事業として講座を実施
 - 8月邦楽公演前日に、箏の演奏を体験するワークショップを開催(参加者 14 名)、「『聴いて』『観て』学ぶ、文楽入門」を募集(全 3 回、2/6 佳山泉、2/13 鶴澤友之助、2/20 文楽鑑賞：35 名)。
- ・台東区(8月舞踊、既成者研修発表会(稚魚の会・歌舞伎会合同公演、音の会))
 - ◇浅草駅前にある観光案内所等にチラシを配架
 - ◇台東区民限定割引クーポンを発行(販売実績 1 枚)
- ・江東区(7月歌舞伎鑑賞教室、12月文楽公演、2月声明公演)
 - ◇江東区等と連携した広報
 - 区報及び区内の文化・芸術情報紙に公演情報や関連事業の告知を掲載(7月歌舞伎鑑賞教室、12月文楽公演及び関連イベント、2月声明公演、サロン・ドゥ・ティアラ(関連講座))
 - 江東区マスコットキャラクター「コトミちゃん」とくろごちゃんとともに登場(7月歌舞伎鑑賞教室・12月文楽公演)
 - ◇江東区との連携事業としてチケットの委託販売及び公演招待を実施
 - ティアラ友の会会員及び一般区民向け委託販売(7月歌舞伎鑑賞教室：ティアラこうとうで実施、販売実績 548 枚。12月文楽公演：江東区文化センターで実施、販売実績 463 枚。2月声明公演：ティアラこうとうで実施、販売実績 315 枚)
 - 区民招待(7月歌舞伎鑑賞教室：4回 20 組 40 名。12月文楽公演：3回 6 組 12 名)
 - ◇江東区との連携事業として講座を実施
 - ティアラ友の会会員向けの講座として、7月歌舞伎鑑賞教室と9月歌舞伎公演を事前レクチャー付きで鑑賞する国立劇場提携事業「歌舞伎鑑賞講座」を実施(事前レクチャー講師：高木秀樹(イヤホンガイド解説員)。参加者数 37 名)
 - ティアラ友の会会員向けイベント「サロン・ドゥ・ティアラ」において、連携イベント「歌舞伎の世界へようこそ」(6/19。講師：佳山泉(イヤホンガイド解説員)。参加者数 112 名)及び「もっと楽しむ！声明の魅力」(1/16。講師：近藤静乃：東京藝術大学非常勤講師、石川照貴：智山講伝所所員。参加者数 88 名)を実施
 - 江東区文化センター主催の講座として、12月文楽公演と2月文楽公演を事前レクチャー付きで鑑賞する国立劇場提携事業「文楽鑑賞講座」を実施(事前レクチャー講師：高木秀樹(イヤホンガイド解説員)。参加者数 37 名)
 - ◇江東区との連携事業として公演関連展示等を実施
 - 7月歌舞伎鑑賞教室、12月文楽公演、国立演芸場寄席を江東区内のホールで実施するに当たって、ポスター展「～国立劇場・国立演芸場 presents～ まるっと伝統芸能ポスター展」を実施(6/26～7/8。江東区文化センター展示ロビー)
- ・品川区(2月文楽公演)
 - ◇品川区等と連携した広報
 - 区内の文化・芸術情報紙に公演情報や関連事業の告知を掲載(2月文楽公演)
 - 品川文化振興事業団の品川アート活動応援マスコット「しな一と」が奈良県の PR イベントに合わせて登場(2/11)
 - ◇品川区等との連携事業としてチケットの委託販売を実施
 - 品川区チケット販売を掲載した独自チラシを区内で配架。きゅりあんにおいて、品川区文化振興

- 事業団賛助会員及び一般区民向け委託販売を実施(販売実績 405 枚)。
- ◇品川区等との連携事業として講座を実施
 - 品川文化振興事業団主催でイヤホンガイド解説者の佳山泉氏を講師に入門者向け講座を実施(1/22 : 81 名・2/8 : 31 名)。
- ・渋谷区(9 月歌舞伎、9 月文楽鑑賞教室、1 月国立名人会)
 - ◇区内の図書館・区民会館等の公共施設にチラシを配架
 - ◇渋谷区民向け委託販売を実施(1 月国立名人会 : 販売実績 180 枚)
- ・荒川区(6 月歌舞伎鑑賞教室)
 - ◇荒川区等との連携事業として各種講座を実施(6 月歌舞伎鑑賞教室)。
 - 「舞台裏から迫る！歌舞伎入門講座」(5/18。講師：近藤真理子(藤浪小道具株式会社)。参加者数 64 名、事前申込不要。)
 - 「親子で楽しむ はじめての歌舞伎教室」(5/25。講師：歌舞伎課職員。参加者数 16 組 32 名、申込数 33 組。)
 - 「歌舞伎俳優講演会」(6/9。講師：中村鴈成。参加者数 121 名、申込数 238 名。)
 - ◇荒川区等との連携事業として公演関連展示を実施(6 月歌舞伎鑑賞教室)。
 - 歌舞伎ポスター展(5/18～26 : 町屋文化センター、6/10～21 : 荒川区役所)
 - 歌舞伎の賑わい展(5/22～6/21 : サンパール荒川内「ARAKAWA1-1-1 ギャラリー」)
 - ◇荒川区と連携した広報(6 月歌舞伎鑑賞教室)
 - 荒川区報の裏一面に全面カラーで公演情報や関連事業の告知を掲載(5/1)
 - ◇荒川区民限定の割引クーポンを荒川区 HP に掲出。割引クーポン付きチラシを区内関連施設に配架(6 月歌舞伎鑑賞教室。販売実績 48 枚)
- ・足立区(5 月文楽公演)
 - ◇足立区との連携事業(区民還元事業)を実施(5 月文楽公演)
 - 区民無料招待(5 ステージ : 250 枚、申込者数 912 名。足立区がチケットを購入)
 - 足立区民限定の割引クーポン付きチラシを区内公共施設等に配架(販売実績 15 枚)。
 - 足立区産業振興課の協力による「北千住商店街」キャンペーンの実施(マップの作成、商店街でのチラシ掲出)。マップ掲載参加 : 27 店舗(うち半券サービス実施 : 5 店舗)。
 - 足立区内の 6 大学とキャンパスメンバーズの合同イベントとして「はじめての文楽 in 北千住」を実施(5/14。参加者数 9 名)
 - ◇足立区と連携した広報(5 月文楽公演)
 - 近藤区長と豊竹呂太夫との対談(区内広報誌に掲載、テレビ番組で放映)
 - 近藤区長文楽観劇(足立区 HP 内のブログに掲載)
 - ◇足立区の委託により区民向けの文楽講座「初めての文楽講座 義太夫節編／人形編」を実施。区内広報誌に募集記事を掲載(12/6 : 講師 竹本小住太夫・鶴澤友之。参加者数 95 名。12/13 : 講師 吉田一輔、吉田簑悠、桐竹勘昇。参加者数 137 名)
- ・調布市(7 月歌舞伎鑑賞教室)
 - ◇調布市等と連携してチケット販売を実施
 - 周辺地域向け割引クーポンチラシを市内の公共施設等に配架(販売実績 7 枚)
 - 調布市グリーンホールにおいて、市民向けの委託販売を実施(販売実績 46 枚)
 - ◇調布市との連携事業として公演関連展示を実施
 - ポスター展「ふらっと歌舞伎 ♪ポスター展」(7/11～26。調布市文化会館たづくりエントランス)
 - ◇調布市と連携した広報
 - 市報、コミュニティ FM で公演情報を周知
 - 市内の公共施設等にチラシ・ポスターを掲出
- ・独立行政法人国立青少年教育振興機構(以下「青少年機構」という。)
- ◇青少年機構が主催する「春のキッズフェスタ 2024」に参加し太神楽ワークショップを行い、養成事業の周知等を行った。

ii. その他

- ・国立大学法人お茶の水女子大学
 - ◇令和 4 年度に締結した協定に基づき、令和 5 年度に引き続き共同プロジェクトとして講座「日本の伝統芸能」を実施した(全 12 回)。
 - 5 月 : ガイダンス、講師による座学(総論。5/7)
 - 5 月国立演芸場寄席 : 講師による座学(演芸入門。5/16)、公演鑑賞(5/26)、ワークショップ(6/4)

- 7 月歌舞伎鑑賞教室：講師による座学(歌舞伎入門。7/2)、公演鑑賞及びワークショップ(7/20)
 - トーク&ディスカッション：講師と学生によるディスカッション(8/4)
 - 10 月国立能楽堂ショーケース：講師による座学(能楽入門。10/7)、公演鑑賞(10/18)、バックステージツアー・ワークショップ(11/8)
- ◇令和 5・6 年度の講座を受講した学生の中から希望者 7 名を受け入れ、インターンシップを実施した(8/5～9)。
- ・株式会社エイチ・アイ・エス
 - ◇インバウンド向けに日本文化発信の基地として活用する目的で、国立劇場等施設の活用に係る連携協定を締結し、協定締結式を実施した(7/8)。
 - ◇連携協定に基づき、国立劇場等施設を有効活用するため、商品開発やユニークメニューの誘致を共同で実施し、国立劇場の舞台裏探訪&初春歌舞伎鑑賞日帰りバスツアー(1 月)の実施やファッションショーの誘致(2 月)を行った。
- ・美術展ナビフェス(読売新聞社主催)
 - ◇日本各地で開催される美術展を紹介する情報サイト「美術展ナビ」が開催する「美術展ナビフェス」(9/18)において、ブース出展及びステージイベントに参加した。国立劇場・国立能楽堂のブースにてグッズ等の展示・紹介を行い、主催公演等のチラシを配布、ステージイベントでは「文楽」や「見台」の魅力について紹介するとともに実演を行い、主催公演・養成事業を含む振興会事業の広報を行った。
- ・渋谷区
 - ◇国立能楽堂は、渋谷区とアメリカ合衆国ハワイ州ホノルル市の「姉妹都市提携に関する協定」(5/31 締結)に関連した、ホノルル市首席補佐官他(9 名)の渋谷区内ツアーに協力し、シテ方観世流能楽師伶以野陽子氏による能舞台のバックステージツアー・ワークショップを実施した(5/30)。
- ・奈良県
 - ◇国立能楽堂 4 月普及公演で上演の能「吉野静」及び 7 月企画公演で上演の能「三輪」のゆかりの地である、奈良県観光局およびアンテナショップ「奈良まほろば館」と協力し、公演当日のロビーでの観光 PR と県産品の販売を実施した。
 - ◇国立劇場 2 月文楽公演で上演の「妹背山婦女庭訓」のゆかりの地である奈良県観光局と協力し、観光 PR を実施、国立劇場マスコットキャラクター「くろごちゃん」と奈良県マスコットキャラクター「せんとかん」がお客様をお迎えした。
- ・独立行政法人日本学生支援機構
 - ◇国立能楽堂が国費外国人留学生歓迎会(主催：文部科学省、日本学生支援機構)に参加し、シテ方観世流能楽師伶以野陽子氏による能楽体験ワークショップを実施した(東京国際交流館。参加者数 6/29：約 250 名、11/16：約 200 名)。
- ・公益財団法人東京二期会及び公益財団法人東京都スポーツ文化事業団
 - ◇国立能楽堂 5 月狂言の会において、近隣に所在する声楽家団体である公益財団法人東京二期会と、東京体育館を管理・運営する公益財団法人東京都スポーツ文化事業団による PR イベント「せんだがや文化祭 in 国立能楽堂」を、ロビーにて開催した。東京二期会会員のオペラ歌手によるトークイベント(参加者数約 100 名)とミニコンサート(参加者数約 200 名)、東京都スポーツ文化事業団マスコットキャラクター SUSIE による写真撮影等の来場者サービスを行った。
- ・公益社団法人宝生会
 - ◇令和 5 年度に締結した協定に基づき、国立能楽堂 11 月企画公演〈古典の日記念 特集・源氏物語〉において復曲能「空蟬」、2 月企画公演において復曲能「雷電」、3 月特別企画公演において復曲能(新演出)「武文」を上演した。また、それらの公演では、協定に基づき実施した特別展「宝生宗家展」で展示した能面の名品を実際の舞台で使用した。
- ・東京文化財研究所
 - ◇能「大江山」の映像を製作するために能の制作を受託した。映像は令和 7 年 4 月からサントリー美術館での「酒吞童子ビギンズ」展にて来場者が視聴する。
- ・大阪府
 - ◇インバウンドをはじめとする大阪府内各地への誘客事業である大阪文化資源魅力向上事業に参画し、相互のメディアを用いて広報連携を行い公演の認知度の向上と集客を図った(文楽劇場 11 月文楽公演・初春文楽公演)。
- ・大阪市
 - ◇大阪市内在学の公立学校の児童・生徒に対し「夏休み親子ペア文楽鑑賞優待事業」(大阪市主催)を実施した。
 - ◇大阪市立中央図書館の協力により、市内 24 区の各図書館へのポスター・チラシの配布などを行った。

- ・アーツサポート関西
 - ◇近畿在住・在勤・在学の15歳～35歳の方を対象として文楽公演を500円で観劇することのできる、アーツサポート関西による「ワンコイン文楽2024」実施に協力し、近畿在住・在勤・在学の学生等の集客を図った(文楽劇場11月文楽公演、初春文楽公演)。
- ・沖縄県
 - ◇国立劇場おきなわの普及公演において、沖縄県教育委員会からの後援を受け、学校団体等の誘客を図った。
 - ◇沖縄県教育庁生涯学習振興センターの主催する県民カレッジと連携し、普及公演 沖縄芝居鑑賞教室「松の精」の観劇とセットで講座を実施した。
 - ◇「11/1 琉球歴史文化の日」にあわせて、沖縄県主催「歴史文化の日記念イベント」として組踊鑑賞教室「万歳敵討」を上演した。また、団体鑑賞する学校のうち3校を対象に、出前で組踊ワークショップを開催した。
- ・沖縄県浦添市
 - ◇浦添市文化芸術振興事業を活用し、浦添市内の小学校3か所において組踊ワークショップを開催した。
- ・沖縄県、一般財団法人沖縄美ら島財団
 - ◇一般財団法人沖縄美ら島財団と連携して「組踊」とゆかりのある首里城で組踊ワークショップを行った。開催にあたっては、沖縄県と連携し、首里城復興イベントと同時開催を行った。

⑥ 再整備期間中の公演実施における留意事項

再整備のために国立劇場及び国立演芸場が閉場している現状に鑑み、ファンを繋ぎとめる方策の検討を進めた。

i. 新たな観客層の開拓・育成

- ・国立劇場及び国立演芸場のSNS登録者数：65,521人
- ・代替施設で実施した主催公演(研修公演を除く)の若年層入場者数(学生割引、若年層向け割引チケット及び国立劇場キャンパスメンバーズの利用者数)：31,650人
- ・代替施設で実施した主催公演(研修公演を除く)の外国人入場者数(外国人向けチケット販売サイトからの購入者数及び外国人団体の入場者数)：3,631人

[2] 現代舞台芸術の公演に際しての留意事項等

ア 公演収支の改善

《分野別 公演収支改善率》

(単位:千円)

分野	前中期実績	実績		計画	
		公演収支額	改善率(A)	公演収支額	改善率(B)
オペラ	△ 382,991	80,673	121%	△ 218,959	43%
バレエ	△ 111,534	230,043	306%	△ 38,392	66%
現代舞踊	△ 18,168	△ 4,879	73%	△ 14,463	20%
演劇	△ 64,868	△ 139,655	△ 115%	△ 64,868	0%
合計	△ 577,561	166,182	129%	△ 336,682	42%

※前中期実績とは、平成30年度から令和4年度実績の平均値をいう。

※改善率 = (公演収支額 - 前中期実績) / |前中期実績|

イ 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施

① 外部専門家等の意見聴取

各部門の専門委員に各公演についてのレポート提出を依頼し、意見の聴取を行った。

また、総括レポートの提出を半期ごとに依頼し、自己点検評価の総括に活かした。

② アンケート調査の実施

《分野別集計》

分野	公演数	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
オペラ	10 公演	-	-	9,874	9,014	-	91.3%
バレエ	6 公演	-	-	1,993	1,902	-	95.4%
現代舞踊	3 公演	-	-	206	190	-	92.2%
演劇	6 公演	-	-	912	830	-	91.0%
合計	25 公演	-	-	12,985	11,936	-	91.9%

- ・劇場内にウェブアンケート回答用ページにアクセスできる QR コードを掲示した他、希望者に同様の QR コードを印字した用紙をお渡した。
- ・アンケートにご協力いただいたお客様の中から抽選で劇場グッズをプレゼントする取り組みを実施し、アンケート回答率の向上に努めた。
- ・高校生のためのオペラ鑑賞教室 2024「トスカ」に関しては、事前配布したアンケート用紙を後日学校単位で回収し、5,778 件の回答があった(回収率 56.4%)。
- ・アンケート結果については、関係部署間で共有した。

ウ 現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点としての公演等の実施

① 国、地方公共団体、芸術団体、企業等との連携協力による公演等

(a) 年度計画公演

区分	公演名	劇場	日程	回数	日数	入場者数	入場率	連携協力先
共催	オペラ「コジ・ファン・トゥッテ」	新国立劇場オペラ劇場	9/5 ～9/8	4	4	2,763	38.5%	(公財)東京二期会、 (公財)日本オペラ振興会
	合計	1 公演		4	4	2,763	38.5%	

(b) その他の公演等

i. 令和6年度(第79回)文化庁芸術祭

区分	公演名
主催公演	オペラ「ウィリアム・テル」 現代舞踊「DANCE to the Future 2024」 演劇「テーバイ」

② 全国各地の文化施設等における公演等

(a) 年度計画公演

区分	公演名	劇場	日程	回数	日数	入場者数	入場率	連携協力先
----	-----	----	----	----	----	------	-----	-------

受託	「アラジン」	札幌文化芸術劇場 hitaru	7/6 ～7	2	2	3,879	92.5%	(公財)札幌市芸術文化財団
受託	森山開次「新版・NINJA」	兵庫県立 芸術文化センター 阪急中ホール	7/6	1	1	720	92.8%	兵庫県、 兵庫県立芸術文化センター
受託	森山開次「新版・NINJA」	長岡市立劇場 大ホール	7/14	1	1	371	58.6%	新潟県、 (公財)長岡市芸術文化振興財団、 令和6年度にいがた芸術・文化 育成プロジェクト実行委員会
受託	「くるみ割り人形」	サントミューゼ 大ホール	1/12	1	1	1,164	89.5%	上田市(上田市交流文化芸術セ ンター)／上田市教育委員会、 NBS 長野放送
共催	高校生のためのオペラ鑑賞教室 2024 「ドン・パスクワレ」	ロームシアター京都 メインホール	10/29	2	2	2,904	93.9%	京都市、ロームシアター京都 (公財)京都市音楽芸術文化振興財団
合計		5 公演		7	7	9,038	90.4%	

(b) その他の公演等

i. 新国立劇場合唱団外部出演公演

公演名	劇場	連携協力先	日程	回数
東京フィルハーモニー交響楽団演奏会 第 100 回 休日の午後のコンサート	東京オペラシティ コンサートホール	主催:(公財)東京フィルハーモ ニー交響楽団	4/14	1 回
東京・春・音楽祭 リヒャルト・シュトラウス:「エレクトラ」 (演奏会形式)	東京文化会館 大ホール	主催:東京・春・音楽祭実行委員会	4/18 ～21	2 回
静岡市文化振興財団 30 周年 笑顔デ カケ ル プロジェクト オーケストラを聴こうベ ートーヴェン交響曲全集 V ベートーヴェン:交響曲第 9 番	静岡市民文化会館 大ホール	主催:(公財)静岡市文化振興財団	5/11	1 回
令和 6 年度舞台芸術等総合支援事業 (学校巡回公演)	各県の小・中学校内体育館	主催:(独)日本芸術文化振興会	6/17 ～28	9 回
モーツァルト:オペラ「コジ・ファン・トゥッテ」	新国立劇場オペラパレス/三重県 文化会館/岡山芸術創造劇場ハレ ノワ大劇場/やまぎん県民ホール	主催:(公財)東京二期会/ (一社)グランドオペラジャパン/ (公財)岡山文化芸術創造	9/5 ～11/10	7 回
TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL 2024[サラダ音楽祭] メインコンサート/ラター:マニフィカ トミニコンサート 8 回、ワークショップ 4 回	メインコンサート/東京芸術劇場、 ミニコンサート/グローバルリング シアター・メトロポリタン自由通路、 ワークショップ/東京芸術劇場ギャ ラリー	主催:TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL[サラダ音楽祭] 実行委員会(東京都/(公財)東京 都交響楽団/(公財)東京都歴史文 化財団東京芸術劇場/豊島区/三 菱地所(株))	9/14 ～15	1 回
東京フィルハーモニー交響楽団定期演奏会 ヴェルディ:「マクベス」(演奏会形式)	Bunkamura オーチャードホール、 サントリーホール、東京オペラシ ティコンサートホール	主催:(公財)東京フィルハーモ ニー交響楽団	9/15 ～19	3 回
LET'S GO Tokyo Festival 2024	キラナガーデン豊洲	主催:Bloomberg L.P.	11/2	1 回
ガラ・コンサート 明星学園小学校 音楽鑑賞会	学校法人明星学園	主催:学校法人明星学園	11/7	1 回
ガラ・コンサート 気軽にオペラ! 豪華にオペラ!! 傑作オ ペラの名曲をあなたに...	長岡リリックホール コンサートホール	主催:新潟県、(公財)長岡市芸術 文化振興財団、令和6年度にい がた芸術・文化育成プロジェクト 実行委員会	11/10	1 回
令和6年度舞台芸術等総合支援事業 (学校巡回公演)(離島・へき地等小規模校 等を対象)	各県の小・中学校内体育館	主催:(独)日本芸術文化振興会	11/12 ～15	3 回
読売日本交響楽団定期演奏会 ベートーヴェン:交響曲第 9 番	東京オペラシティ コンサートホール/ 横浜みなとみらいホール/サントリ ーホール/大坂フェスティバルホール/ ミュゼ川崎シンフォニーホール	主催:読売新聞社/日本テレビ放 送網/読売テレビ/(公財)読売 日本交響楽団	12/14 ～24	7 回
NHK 交響楽団 ベートーヴェン:交響曲第 9 番	NHK ホール/サントリーホール	主催:NHK/NHK 交響楽団/NHK 厚生文化事業団	12/18 ～24	6 回
東京フィルハーモニー交響楽団演奏会 ベートーヴェン:交響曲第 9 番	東京オペラシティコンサートホール /サントリーホール/Bunkamura オーチャードホール	主催:(公財)東京フィルハーモ ニー交響楽団	12/20 ～22	3 回
東京都交響楽団演奏会	東京文化会館 大ホール/サント	主催:(公財)東京都交響楽団	12/24	3 回

ベートーヴェン:交響曲第9番	リーホール		～26	
東急ジルバスターコンサート 2024-2025	Bunkamura オーチャードホール	主催:テレビ東京	12/31	1回
第67回 NHK ニューイヤーオペラコンサート	NHK ホール	主催:日本放送協会	1/3	1回
読売日本交響楽団定期演奏会 ベルク:ヴォツェック(演奏会形式)	サントリーホール	主催:読売新聞社/日本テレビ放送網/読売テレビ/(公財)読売日本交響楽団	3/12 ～15	2回

ii. 全国各地の文化施設等との連携強化

- ・札幌文化芸術劇場 hitaru、東京文化会館、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール、富山市芸術文化ホール(オーバード・ホール)、ロームシアター京都、穂の国とよはし芸術劇場、上田市交流文化芸術センター(サントミューゼ)と連携・協力に関する協定を締結し、全国公演等を実施している。
- ・全国公演の際、制作及び技術職員間で情報交換を行った。
- ・「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」を踏まえ、地域の公立文化施設から技術者および制作の実習を受け入れ、地域の公立文化施設へ技術者を講師として派遣するなど、連携を強化した。
- ・長岡市立劇場公演「新版・NINJA」に関連し、長岡リリックホールにて、ダンスワークショップ「森山開次さんとからだを動かしてみよう♪」を開催した(6/15)。(参加者12名)
- ・バレエ「アラジン」札幌文化芸術劇場 hitaru 公演に関連し、同劇場にて、クラスレッスン見学会(参加者195名)及び、バックステージツアー(参加者30名)を開催した(いずれも7/6)。
- ・劇場・音楽堂等連絡協議会総会等に参加し全国加盟館との情報共有をした。
- ・高校生のためのオペラ鑑賞教室・ロームシアター京都公演に合わせて、公演会場であるロームシアター京都にて、オペラ鑑賞教室の歴史や公演の舞台写真、衣裳、舞台模型等を展示(「オペラの扉 2024～ KNOCKING ON THE DOOR, OPERA EXHIBITION ～」)し、オペラ作品理解に寄与するとともに舞台芸術への興味を喚起することができた。

③ 国際文化交流の進展に寄与する公演等

(a) 年度計画公演

公演名	劇場	日程	回数	日数	入場者数	入場率	連携協力先
バレエ「バレエ・アステラス 2024」	新国立劇場 オペラ劇場	8/3 ～4	2	2	1,834	51.3%	韓国芸術総合学校 バレエアカデミー
オペラ「夢遊病の女」(新制作)	新国立劇場 オペラ劇場	10/3 ～14	5	5	6,931	77.4%	テアトロ・レアル(マドリッド)、 リセウ大劇場(バルセロナ)、 マジンモ歌劇場(パレルモ)
合計	2公演		7	7	8,765	69.9%	

(b) 年度計画外の公演等

i. 海外劇場等との交流

分野	公演等名	開催場所	日程
公演	ソウル国際ダンスコンクール 2024 ワールド・ガラ	麻浦アートセンターアートホール MAC(韓国・ソウル)	7/18
公演	オペラ「夢遊病の女」をスペイン・イタリアの3劇場との共同制作により上演	新国立劇場オペラ劇場	10/3～10/14
海外配信	「ワールド・オペラ・デー2024」ミニコンサートの映像配信	オンライン	10/25～
展覧会	フィルハーモニー・ド・パリ「ラヴェル・ボレロ」展覧会にオペラ「子どもと魔法」の公演映像を提供	音楽博物館(フランス・パリ)	2024/12/3～ 2025/6/15
上映会	台中国家歌劇院 春節特別上映会 オペラ「オルフェオとエウリディーチェ」 バレエ「眠れる森の美女」上映	台中国家歌劇院(台湾)	1/29～2/1
上映会	日韓国交正常化60周年記念事業 韓国国立劇場 日韓映像交換上映会 オペラ「トゥーランドット」上映	韓国国立劇場(ソウル)	2/8
国際会議	オペラ・ヨーロッパ年次総会	ウィーン国立歌劇場、フォルクスオパー、 ムジークテアター・アン・デア・ウィーン (オーストリア)	4/11～4/13
国際会議	アジア太平洋パフォーミングアーツセンター協会(AAPPAC) 「舞台芸術へのアクセスとインクルージョンへの取り組み」会議	オンライン	5/31
国際会議	アジア太平洋パフォーミングアーツセンター協会(AAPPAC)年次総会	台北パフォーミングアーツセンター(台湾)/ 台中国家歌劇院(台湾)/衛武宮国家文化センター(台湾・高雄)	9/4～9/8

国際会議	「北京舞台芸術フォーラム BFA」会議 「世界舞台芸術連盟 WAPA」総会	中国国家大劇院(北京)	11/1～11/3
その他	韓国国立劇場と劇場間連携協定を締結	韓国国立劇場(ソウル)	10/28
その他	韓国芸術の殿堂と劇場間連携協定を締結	韓国芸術の殿堂(ソウル)	10/31

- ・「ソウル国際ダンスコンクール 2024 ワールド・ガラ」に小野絢子・福岡雄大が客演した。
- ・オペラ「夢遊病の女」をテアトロ・レアル(スペイン)、バルセロナ・リセウ大劇場(スペイン)、パレルモ・マッシモ劇場(イタリア)との共同制作により上演した。
- ・日韓両国の文化交流及び協力の推進を目的として、以下の劇場と劇場間連携協定を締結した。
 - ◇韓国国立劇場(10/28)
 - ◇韓国芸術の殿堂(10/31)
- ・中国春節(旧正月)にあたり、台中国家歌劇院におけるオペラ「オルフェオとユリディーチェ」、バレエ「眠れる森の美女」無料上映会が開催された(1/29・31、2/1)。
- ・ソウルの韓国国立劇場において、韓日国交正常化 60 周年記念事業 日韓映像交換上映会 オペラ「トゥーランドット」が開催された(2/8)。

ii. 海外の芸能関係者等の来場、見学等

日付	国・地域等名称	来場者
5/28	イギリス	イングリッシュ・ツアリング・シアター 演出家及び劇作家 2 名
5/28	中国	上海文化広場 副総経理他 6 名
6/17	オーストラリア	シドニーオペラハウス 照明責任者 1 名
7/19	韓国	韓国国立劇場 評議員/オペラ・ジャーナリスト 1 名
7/24	イギリス	イングリッシュ・ツアリング・カンパニー 芸術監督 1 名
8/27	ポーランド	ポーランド・ボズナン歌劇場 ジェネラル・マネージャー 1 名
9/18	イギリス	ロイヤルコート劇場 リーディング公演時のプロダクション・マネージャー 1 名
10/3	スペイン	テアトロ・レアル総裁、オペラ・ヨーロッパ会長及び副総裁 2 名
10/23	マレーシア	クアラルンプール・シティ・オペラ エグゼクティブ・プロデューサーおよびアソシエイト・プロデューサー 2 名
11/21	ドイツ	ワイマール文化祭 芸術監督 1 名
12/12	タイ	タイ文化センター センター長他 18 名
2/12	イギリス	英国人俳優/劇作家カースティ・ライダー氏 1 名
2/18	フランス	セーヌ・サントニ・ポピニー文化会館 舞台美術チーフ他 3 名
3/5	オーストリア	オペラベース CEO 1 名
3/10	ドイツ	ベルリン・ドイツ・オペラ 音響エンジニア 1 名
3/13	イギリス	英国ナショナル・シアター・ウェールズ TEAM Collective Cymru クリエイティブ・アソシエイト 1 名
3/20	アメリカ	ダラス・オペラ ソーシャル・エクイティ担当 1 名

iii. 在日各国大使館との連携協力

- ・駐日各国大使鑑賞プログラム
 - ◇オペラ「トスカ」(7/19。参加実績：12 ヶ国 20 名の大使及び外国文化機関代表)
 - ◇オペラ「さまよえるオランダ人」(1/22。参加実績：13 ヶ国 25 名の大使及び外国文化機関代表)
- ・プログラム以外の主催公演には主要国大使を招待し、大使館関係者へのチケット購入を促した。
- ・公演関連各国の後援名義を取得し、広報・営業協力を得た。
 - ◇演劇「デカローグ」 後援：ポーランド共和国大使館/ポーランド広報文化センター

(c) 舞台芸術グローバル拠点事業

《舞台芸術グローバル拠点事業関連指標》

区 分	実績	年度計画	達成率
英語版の国立劇場ホームページへのアクセス件数(セッション数)	190,716 件	132,000 件	144.5%
主催公演(研修所公演を除く)の外国人入場者数 (国立劇場の英語版チケットサイトの購入者数)	4,833 人	3,000 人	161.1%
舞台映像の海外からの視聴割合【モニタリング指標】	58.3%	20.0%	
国立劇場に関する海外メディアへの掲載件数【モニタリング指標】	102 件	90 件	

- ・国際的なレピュテーションの確立を目指し、舞台芸術グローバル拠点事業に取り組んだ。
- ・世界各地の主要劇場や芸術団体、アーティストなどが 4 年ごとに一堂に会す国際会議、「ワールド・オペ

- ・「ラ・フォーラム」の第3回を東京・新国立劇場で開催することが決定し、開催に向けて、オペラ・ヨーロッパ、オペラ・アメリカ、オペラ・ラテンアメリカとの連携強化等、準備を進めた。
- ・バレエ団ダンサーの医療サポート等、アーティストの活動環境整備を進めた。
- ・海外劇場等との交流や公演記録映像の活用による海外広報戦略等を通じて、国際的な情報発信の取組を推進した。

《広報・営業》

- ・欧米の舞台芸術サイト・雑誌に広告を掲載して、新国立劇場の認知を高めるとともに、同メディアに記事掲載の働きかけを行った。

《Opera Vision での配信実績》

- ・オペラ「修道女アンジェリカ/子どもと魔法」(5年10月公演)：視聴回数 6,755 回
- ・バレエ「アラジン」(6年6月公演)：視聴回数 711,884 回
- ・オペラ「ウィリアム・テル(6年11月公演)」：視聴回数 14,982 回

《養成研修事業》

- ・海外のアカデミー、音楽学校等で活躍する講師を招聘し、国際水準の研修を実施した。

④ インターネット通信技術を活用した舞台映像の動画配信等

《舞台映像の配信》

分野	配信件数	視聴回数	年度計画	達成率
オペラ	5 件	31,099 回		
バレエ	1 件	711,885 回		
現代舞踊	0 件	0 回		
演劇	4 件	13,676 回		
現代舞台芸術合計	10 件	756,659 回	50,800 回	1489.5%

- ・特に、6年6月バレエ公演「アラジン」の無料配信の視聴回数が非常に多かった(711,884回)。

⑤ 地方公共団体、関係する独立行政法人等との連携協力

- ・渋谷区
 - ◇渋谷区が後援する笹塚・幡ヶ谷・初台(ササハタハツ)地域の活性化と玉川上水旧水路緑道の再整備に向けた先行イベント「388 FARM MARCHE」に出店協力した。
 - ◇渋谷区不動産商店街振興組合が主催する地域活性を目的とした謎解きまち歩きプロジェクト「まちパスポート」に参加した。
 - ◇第47回渋谷区くみの広場「ふるさと渋谷フェスティバル 2024」に出店し、地域住民・団体へ向けた劇場施設の紹介及び公演情報の周知、オリジナルグッズのプレゼントを行った。

2-(5) 快適な観劇環境の形成

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(5) 快適な観劇環境の形成

観客本位の快適な環境の形成のために行うサービスの向上及び観客の満足度の向上

ア 観客の要望等を踏まえ、高齢者、障害者、外国人等の利用の機会が拡充される、快適で安全な劇場施設の整備、各種サービスの充実、観劇前後を含めた体験の質の向上

イ 入場券販売における、利用者にとって利便性の高い多様な購入方法の提供

ウ 公演内容等の理解促進のための解説書等作成、音声同時解説や字幕表示等のサービスの提供

鑑賞団体等に対する公演内容の説明会等の実施

エ アンケート調査等の活用による観客等の要望・利用実態等の把握、サービスの向上

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(5) 快適な観劇環境の形成

ア 快適で安全な環境を提供するための、観客の要望等を踏まえた売店・レストラン等におけるサービスの充実や観劇時のマナーの呼びかけの実施

高齢者、障害者、外国人等の利用者にも配慮した劇場内外の環境整備等各種サービスの充実

国立劇場等の再整備期間中における代替施設での公演実施に当たり、代替施設の管理者等と連携協力した各種サービスの充実

イ 入場券販売における、PC やスマートフォン等、観客の利用形態に応じた多様な購入方法の提供

ウ 公演内容等の理解促進のための解説書等作成、音声同時解説及び字幕表示の実施
公演内容の事前説明会、ワークショップ、ステージツアー等の実施

エ アンケート調査等の活用による観客等の要望・利用実態等の把握、サービス向上への活用
ホームページ等で寄せられる意見・要望の一元的管理、対応の迅速化と職員間の情報共有の強化、内容の集計・分析結果のサービス向上への活用

ア 快適で安全な観劇環境の提供

① 観客の要望等を踏まえたサービスの充実や観劇時のマナーの呼びかけ

(a) 観客の利便性・安全性を向上させる取組

<各館共通>

- ・引き続き、来場者、出演者及び施設利用者等に向けた公衆無線 LAN サービス(無料 Wi-Fi)を実施した(代替施設で実施した本館・演芸場の公演は除く)。
- ・主催公演のプログラム販売においてクレジットカード、交通系電子マネー等の利用に対応した。

<本館(代替施設)>

- ・歌舞伎・文楽公演の会場で国立劇場オリジナルグッズを販売した。9月に雅楽器の原料となる鶴殿のヨシを使用した新商品「くろごちゃんヨシふきん」を発売し、購入を通じて雅楽の保存振興に貢献できることをアピールした。
- ・新たな通信販売サービスとして、読売新聞社運営の博物館グッズ専門オンラインショップ「美術展ナビ 図録・グッズ SHOP」において、オリジナルグッズ、公演解説書バックナンバー等を販売した(販売数 118)。
- ・初代国立劇場さよなら公演・さよなら特別公演の舞台写真を使用した「国立劇場オリジナルカレンダー」を販売し、好評を得た(販売数 655 部)。新たな販売促進策として、あぜくら会員への公演チケットとセットにした割引販売(販売数 216 部)や「美術展ナビ」等での通信販売を実施した。
- ・12 月文楽公演において、江東区文化センターの協力により、文化センターロビー内に特別に観客専用食事スペースを提供し、好評を得た。

<演芸場>

- ・国立演芸場オリジナルグッズとして記念冊子「国立演芸場の公演記録」及び名人会演題入りあづま袋を継続して販売した。

<能楽堂>

- ・カレンダーを能楽書林、檜書店、小林能装束の3店舗(能楽書林、檜書店は Web 販売も実施)で、月刊国立能楽堂を檜書店で販売した。

<文楽劇場>

- ・新型コロナウイルス感染症対策として劇場内での飲食禁止を実施していたが、その規制解除後には客席を除いてロビーでの飲食を可能としている。

<おきなわ>

- ・学校団体の公演鑑賞の際に、国立劇場おきなわの敷地内を開放し、食事場所とした。また、公演時間中は、劇場ホワイエを荷物置き場として提供した。

<新国立劇場>

- ・新国立劇場公式ホスピタリティプログラム「グランエクスペリエンス」において、クリエイティブスタッフや出演者との交流など、高い付加価値を提供し、好評を得た。
- ・一部の公演において、Web でチケットを購入する際の引取方法として、e チケット(電子チケット)を選択できるようにした。
- ・観客のニーズにあったバレエ団オリジナルグッズを製作し、販売した。特に、バレエ公演のポスタービジュアルを使用したグッズやプリンシパルダンサー個人に焦点を当てたグッズが好評を得た。
- ・主催公演のプログラム販売における、クレジットカード、交通系電子マネー等の利用に対応する端末を増備し、増加するニーズに対応できる体制を整備した。

(b) 観劇の雰囲気盛り上げるための取組

<各館共通>

- ・ロビーや正面玄関に装飾を施した。
- ・上演演目ゆかりの地の地方公共団体や近隣店舗・団体、代替施設の所在する地方公共団体等と連携して、特産品の販売やトークイベント、マスコットキャラクターによる観光 PR 等を実施した。また、実施について事前にホームページで周知することで公演の PR につなげた。

<本館(代替施設)>

- ・初春歌舞伎公演において、来場者に初芝居の観劇気分を楽しんでもらうとともに、公演への興味を広げ、観劇体験の満足度を向上させるため、出演俳優による手拭い撒き、獅子舞の実演、演目の立て看板などの飾り付け、高千穂秀敏(英彦山神宮宮司)揮毫による干支の色紙の展示を行った。

<演芸場(代替施設)>

- ・国立演芸場主催の公演であることを強調するため、のぼりや提灯の飾りつけ、法被の着用などを実施した。
- ・定席公演で継続しているスタンプラリーの期間を延長し、品物を増やしてリピーター増加につなげた。

<能楽堂>

- ・観客食堂「BISTOIRE Himawari」にて、上演演目に合わせた店内演出や限定メニューの提供を行った。
- ・5年7月27日能楽普及イベントに出演した、東京ヤクルトスワローズの球団マスコットつば九郎を支えてきた社員スタッフを追悼し、同イベントでつば九郎と共演したシテ方宝生流宝生和英が復曲能「雷電」でシテをつとめる2/28企画公演に合わせ、2/27・28につば九郎着用の足袋と扇の展示を行い、200名以上が見学に訪れ、20件以上のSNSへの投稿が確認できた。

<文楽劇場>

- ・開場 40 周年記念ロゴマークや三番叟の衣裳を使用した装飾を正面玄関の柱や大階段上の壁一面に施した。
- ・文楽人形の写真を使用した大型懸垂幕ポスターを掲出した。また、上演演目に登場する人形等を展示し、当該演目を上演しない部に訪れた観客にも演目への関心を喚起した。
- ・文楽公演ごとに、インバウンドへの訴求も狙いロビー全体を四季の情緒を醸し出す飾りで彩った。

<おきなわ>

- ・5年度から引き続き、開場 20 周年記念パネルやポスター展を実施した。
- ・普及公演 琉球舞踊鑑賞教室(8/24)において、「客席をタイムマシンとして見立てる」「タイムマシンの動力を舞踊のエネルギーとするため、観客と一緒に手踊りしてもらおう場面がある」など特別な演出があったため、日本語と英語で観客に参加を呼び掛ける POP を貼り出したほか、劇場案内係も着物を着用し、公演内容の世界に合わせ、観劇の雰囲気盛り上げる工夫を行った。

<新国立劇場>

- ・優雅で快適な観劇と特別な体験をお届けする公式ホスピタリティプログラム「グランエクスペリエンス」を新たに実施した。
 - ◇実施公演(各1日程)：バレエ「眠れる森の美女」、オペラ「ウィリアム・テル」
 - ◇実施内容：優先入場、専用クローク・ラウンジ、飲み物と軽食のサービス、オペラパレス1階16列目センターブロック席の確約、クリエイティブスタッフや出演者との交流、特別パス・ギフトの贈呈
- ・開演前に、日本伝統の「和」をテーマに趣向を凝らした料理と、食事とマッチした日本酒などを楽しめるラウンジ「『和食うナー』(ワグナー) ウェルカムラウンジ」を実施した。
 - ◇実施公演：オペラ「さまよえるオランダ人」
- ・公演期間に合わせて、メインエントランスや劇場ホワイエ等に上演演目や季節等に合わせた装飾を施した。
- ・上演演目に合わせて京王新線初台駅の列車接近メロディを変更した。
- ・バレエ公演にて、バレエ団シーズンビジュアルの大型バナーをオペラパレスホワイエに掲出した。
- ・ブッフェ及びカフェにて、上演演目や季節等に合わせたフード・ドリンクメニューを提供した。

(c) 観劇記念となるフォトスポット設置・グッズ配布等

<本館(代替施設)>

- ・出演者の等身大扮装写真をロビーに設置し、フォトスポットとした(9月歌舞伎公演)。
- ・特大ポスターパネル、演目の立て看板、松羽目のパネルをロビーに設置し、フォトスポットとした(初春歌舞伎公演)。

<演芸場(代替施設)>

- ・オリジナルグッズとして記念冊子「国立演芸場の公演記録」及び名人会演題入りあづま袋を継続販売した。
- ・12/24・25の来場者全員にクリスマスプレゼントを実施し、ホームページとX(旧Twitter)で予告した。

<能楽堂>

- ・国立能楽堂オリジナルキャラクターはんにゃちゃんのパネル・観劇記念スタンプを設置し、公演アンケートの返礼品としてはんにゃちゃんのシールを配布した。
- ・能舞台、能楽堂外観、能面の観劇記念スタンプを各1か月ずつ設置した。
- ・歌手の Ado が国立能楽堂の能舞台に立つイラストのバナーをフォトスポットとして設置した(6月能楽鑑賞教室)。
- ・場内でのスタンプラリーを実施しシールをプレゼントした(8/3・24企画公演)。
- ・観劇記念グッズ(塗り絵うちわ)を来場者全員に配布した(8/3・24企画公演)。

<文楽劇場>

- ・上演演目にちなんだ観劇記念スタンプをロビーに設置した。
- ・開場 40 周年記念特製ロビー看板及び巨大かしら(弁慶)と記念撮影用顔出しパネル(三番叟)を設置した。
- ・夏休み文楽特別公演第1部親子劇場では、観劇の子供へのサービスとして、出演した人形でのお見送り・フォトコーナーの設置及び上演演目にちなんだグッズ(オリジナルミニ手ぬぐい)のプレゼントを実施した。また、演目にちなんだイラストのぬり絵コーナーを設置し、希望者の作品を抽選で Osaka Metro 連絡通路に掲示して、来場のきっかけづくりに努めた。あわせて、国立文楽劇場公式 LINE による掲示の通知も行った。
- ・初春文楽公演第三部の来場者を対象に特製ステッカーの配布を行った(1/23~26)。

<おきなわ>

- ・5年度から引き続き、ロビーに開場20周年記念のモニュメントや組踊の登場人物のフォトスポット、顔出しパネル等を設置した。
- ・親子を対象とした普及公演「組踊の世界「執心鐘入」(7/20)」において、小道具等の展示やフォトスポットを設置したほか、出演者等による琉球楽器の体験教室を実施した。また、親子向けバックステージツアーに参加した子供に塗り絵等をプレゼントした。

＜新国立劇場＞

- ・通常は客席内での撮影は禁止としているが、特別企画として、こどものためのバレエ劇場2024「人魚姫～ある少女の物語～」では本編終了後のカーテンコールの写真撮影を可能とした。
- ・オペラ劇場でのオペラ・バレエ公演にて、公演ポスターや舞台写真、ダンサーの等身大パネルを用いたフォトスポットを設置した。
- ・演劇公演中の小劇場・中劇場入口付近に、公演ビジュアルを施したフラッグや特大バナーを設置した。
- ・一部の公演について、新国メンバーズ登録キャンペーンとして、登録した来場者に新国立劇場オリジナルグッズをプレゼントした。
- ・一部の公演について、来場記念として、来場者に新国立劇場オリジナルグッズをプレゼントした。

(d) 観劇マナーの向上に関する取組

- ・観劇マナーの向上に関する取組を行った。
- ・視覚的なサインを用いたボードによる周知を行った。
- ・マナーの注意喚起に当たっては、公演に応じて日本語の他に英語の表記・アナウンスを行った。
- ・本館(代替施設)において、英語版観劇マナーチラシの配架・ポスターの掲出を行った。

② 高齢者・障害者等多様な観客に配慮した環境整備等各種サービスの充実

(a) バリアフリーに関する取組

＜各館共通＞

- ・車椅子での来場、筆談や補助犬入場等に対応した。

＜演芸場＞

- ・代替施設公演では、障害がある方の団体鑑賞に際し、案内係員を配置してスムーズな入退場ができるよう配慮した。

(b) 観劇サポートの実施

＜各館共通＞

- ・字幕表示を実施した。

＜本館(代替施設)＞

- ・9月文楽鑑賞教室、12月文楽公演、2月文楽公演において、観客のスマートフォンに舞台の進行に合わせて自動的に詞章の字幕が表示される「字幕アプリ(日本語)」を全日程で実施した。また、8月舞踊公演、1月邦楽公演、2月声明公演の短期公演では字幕アプリで詞章や解説の表示を行った。
- ・聴覚障害者の観劇補助として、希望者に台本の貸出を実施した(歌舞伎公演、歌舞伎鑑賞教室、文楽鑑賞教室)。
- ・聴覚障害者の観劇機会拡大のため、無線ポータブル字幕機に上演台本を表示する観劇支援(有料)を実施した(6月歌舞伎鑑賞教室)。
 - ◇6/9・15の2日4ステージ(各回80台限定。利用実績72名)。
 - ◇振興会ホームページ、X(旧Twitter)、聴覚特別支援学校へのDM送付により周知

＜能楽堂＞

- ・座席字幕表示装置を活用して字幕表示を実施した。
- ・4/19・7/17・10/18・12/20の国立能楽堂ショーケースにおいて、座席字幕表示装置の表示言語を通常の日本語(原文)と英語のチャンネルに加えて、日本語の現代語訳チャンネルを表示し、3チャンネルとした。

＜新国立劇場＞

- ・文化庁委託事業「令和6年度障害者等による文化芸術活動推進事業」として、視覚・聴覚に障害を持つ観客への観劇サポートを実施した。

【サポート内容】

- ◇視覚障害者向け：開演前舞台説明会、リアルタイム音声ガイド等
- ◇聴覚障害者向け：バリアフリー字幕の提供等手持ち型ポータブル字幕機の貸出

【実施実績】

公演	視覚障害者向け 実施日	聴覚障害者向け 実施日	参加者数 (合計)
「ピローマン」	10/19・21・23	10/20・23	36名

「ターバイ」	11/17・19	11/16・19	28 名
「白衛軍 The White Guard」	12/15・17	12/14・17	53 名

- ・演劇の全公演を対象に、聴覚障害者を対象とした鑑賞サポートタブレット(上演台本)の貸出を行った(利用実績 10 件)。
- ・観劇サポート実施公演にて、対象公演と過去の観劇サポートで利用した「触る模型」を展示し、晴眼者にも実際に触って体験してもらい、観劇サポートの取り組みの周知を図った。

(c) 割引等各種サービスの実施

<各館共通>

- ・高齢者や障害者に対する割引を行った。

<新国立劇場>

- ・高齢者割引(窓口・電話・WEB)を行った。

③ 外国人利用者に配慮した環境整備等各種サービスの充実

(a) Discover 公演における各種サービスの充実

<各館共通>

- ・各館の Discover 公演において、多言語によるプログラム、音声ガイドなどのサービスを提供した。

館名	対応言語
本館	7 言語(日本語・英語・中国語(簡体字)・中国語(繁体字)・韓国語・フランス語・スペイン語) ※Discover NIHONBUYO、Discover HOGAKU、Discover SHOMYO は 2 言語(日本語・英語)
能楽堂	6 言語(日本語・英語・中国語(簡体字)・韓国語・フランス語・スペイン語)
文楽劇場	7 言語(日本語・英語・中国語(簡体字)・中国語(繁体字)・韓国語・フランス語・スペイン語)
おきなわ	4 言語(日本語・英語・中国語・韓国語)

- ・多言語による字幕表示を実施した。

館名	対応言語
本館	1 言語(英語)
能楽堂	座席字幕表示 6 言語(日本語・英語・中国語(簡体字)・韓国語・フランス語・スペイン語)
文楽劇場	1 言語(英語)
おきなわ	英語字幕タブレットの無料貸出

- ・多言語による音声ガイドを無料貸出した。

館名	対応言語
本館	2 言語(日本語・英語) ※Discover KABUKI、Discover BUNRAKU のみ
文楽劇場	2 言語(日本語・英語)

(b) 観劇環境の充実

<各館共通>

- ・英語版ホームページにおいて、公演カレンダー機能を追加し、公演情報の広報強化を図った(9/30)。
- ・英語版観劇マナーチラシを配架した。
- ・英語対応が可能な劇場案内スタッフ等を配置した。
- ・英語版のチケット購入サイトを提供した。

<本館(代替施設)>

- ・英語イヤホンガイド付きの外国人向け特別プランを提供した(販売実績 475 枚)。

<おきなわ>

- ・英語版ホームページにて公演情報の詳細を掲示し、英語版のチケット購入サイトにリンクしたほか、英語により SNS で発信した。
- ・海外の SNS 等で旅前情報として公演情報を周知した。
- ・公演当日はタイムスケジュールや各種案内板を日英両方で掲示した。
- ・旅行代理店と提携し、多言語対応している航空券やホテル、レンタカーの手配もあわせてできるサイトでチケットを委託販売した。
- ・公演時のアナウンスを多言語化(英語、中国語、韓国語)した。
- ・アンケートボックスの表記を多言語化(日本語、英語、中国語、韓国語)した。

<新国立劇場>

- ・英文のシーズンラインナップリーフレット及びシーズンガイドを作成した。
- ・新国立劇場の全ての主催公演・研修所公演で、海外からチケットを購入できる英語版 Web ボックスオフィスのサービス等を引き続き提供した(オペラ劇場での公演は座席選択が可能)。

- ・公演終了後に利用しやすい劇場周辺の飲食店を紹介する4か国語(英語・中国語繁体字・簡体字・韓国語)対応のリーフレットを会場で配布した。

(c) 観劇サポートの実施

＜各館共通＞

- ・公演プログラムへの英文・多言語によるあらすじ等の掲載や英文・多言語リーフレット等の配布により、外国人の理解促進や観劇環境の充実を図った。
- ・英語版ホームページにおいて、英語であらすじや概要等、公演詳細を掲載した。
- ・Discover 公演以外でも英語音声同時解説サービスの貸出を実施した。

区分	公演数	利用実績
歌舞伎公演(東京)	4 公演	904 名
文楽公演(東京)	4 公演	715 名
文楽公演(大阪)	4 公演	1,837 名

- ・Discover 公演以外でも英語による字幕表示を実施した。
 - ◇9 月文楽鑑賞教室、2 月声明公演(字幕アプリによる)
 - ◇国立能楽堂全主催公演(6 月・10 月青翔会と9 月企画公演を除く)
 - ◇新国立劇場全オペラ公演
- ・Discover 公演以外でも英語字幕タブレットの貸出を行った。
 - ◇国立能楽堂全公演(6 月青翔会を除く)
 - ◇新国立劇場全オペラ公演

＜能楽堂＞

- ・10/26 外国人のための能楽鑑賞教室において、座席字幕表示装置の表示言語を通常の日本語と英語のチャンネルに加えて、中国語・韓国語・スペイン語・フランス語の6か国語を表示した。

＜おきなわ＞

- ・外国人観客の鑑賞の助けとなるよう、英語・中国語繁体字・簡体字・韓国語による公演の概要等の資料を作成し、配布した。
- ・Discover 公演以外でも英語字幕タブレットの貸出を行った。

区分	対応言語	公演数
字幕タブレット	英語	1 公演

④ 災害等への対応

＜能楽堂＞

- ・職員、委託業者が参加する消防訓練を実施した(9/3)。
- ・2 月には自衛消防訓練に引き続き舞台運営安全会議を開催し、職員、委託業者等、全職域が参加して、原宿警察署署員による防犯レクチャー(護身術のデモンストレーション及び簡易訓練)を実施した(2/27)。
- ・企画公演「◎復興と文化一阪神・淡路大震災から30 年一」の上演にちなみ、渋谷区危機管理対策部防災課及び東京消防庁渋谷消防署と連携して、公演当日に、公演来場者及び近隣在住、在勤の方を対象とした防災訓練(地震体験、初期消火訓練、避難訓練)を実施した(1/17 企画公演)。

＜文楽劇場＞

- ・文楽劇場にて団体観劇(大阪女学院高等学校)の高校生と教職員(計 255 人)の協力を得て、職員、出演者及び委託業者が参加し、避難誘導等の実施訓練を行った(6/13)。
- ・文楽劇場 2 階ロビーにて、救命講習として、職員及び委託業者社員が大阪市消防局による救命入門コースに参加した。続いて、消防訓練を実施し、避難経路の確認及び2 階ロビーからの避難誘導訓練を行った(3/14)。
- ・文楽劇場小ホールにおいて、職員及び委託業者社員により、舞台安全対策会議及び現場でのシミュレーションを含む舞台安全講習会を実施した(2/12)。

＜おきなわ＞

- ・警備職員、中央監視員による通報訓練及び水消火器を使用した消火訓練を実施した(6/17)。
- ・職員や委託スタッフ等、全職域が参加する自衛消防訓練を実施し、通報訓練及び避難や消火器の取扱い等について実地訓練を実施した(12/16)。
- ・職員や委託スタッフ等、全職域が参加する津波避難訓練を実施した(11/7)。

＜新国立劇場＞

- ・職員、委託会社等を対象とした防災訓練を実施し、発災時の初動対応を確認した(11/21)。
- ・劇場内の災害備蓄用品の状況、場所の確認をした(6/6)。
- ・各公演前に、劇場案内スタッフを主体とした避難誘導訓練を実施した。
- ・毎月1 回防災センター内での訓練を実施し、様々な災害状況に対応できるよう努めた。

イ 多様な購入方法の提供

＜本館・演芸場・能楽堂・文楽劇場＞

- ・チケットセンターホームページ内に親子企画を紹介する特設サイトを設置し、振興会トップページに目立つバナーを掲載して誘導した。

＜おきなわ＞

- ・学生(大学生・高校生以下)チケットをウェブチケット販売サービスでも購入できるようにした。
- ・旅行代理店に委託して、代理店が運営するサイトでチケットを購入できるようにした。これにより、ホテルやレンタカーの手配を含めてチケットの手配もできるようにした。

＜新国立劇場＞

- ・一部の公演において、e チケットでのチケット引取りを選択可能とした。

ウ 公演内容等の理解促進のための取組

① 解説書等の作成

＜各館共通＞

- ・演目に関する解説や出演者の写真・インタビュー等を掲載した解説書等を作成した。
- ・公演内容に応じてゆかりの地に関する特集を組み、また、カラー写真や図版を多用して、視覚的にも理解促進が図れるよう工夫した。

＜本館＞

- ・代替劇場で開催したすべての公演(養成研修発表会を除く)において公演解説書を作成した。
- ・短期公演はすべて無料配布した。
- ・すべての短期公演の解説書に、英語の番組及び解説を記載し、外国人鑑賞者の理解促進を図った。
- ・6・7 月歌舞伎鑑賞教室及び 9 月文楽鑑賞教室において、来場者全員に解説書及び読本(初心者向けガイドブック)を無料配布した。
- ・6・7 月「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」において、社会人を主とする来場者が演目の内容を一層理解できるよう、ミニ台本を無料配布した。

＜演芸場＞

- ・タイムテーブルと連載読物を掲載した「公演ガイド」を作成し、無料配布した。

＜能楽堂＞

- ・「月刊国立能楽堂」を作成。演目解説や出演者紹介の他、能楽師へのインタビュー(聞き書き)及び月間特集にちなんだテーマなどの特集記事、展示、公演案内及びグッズ販売等の情報を掲載した。

＜文楽劇場＞

- ・各公演(上方演芸特選会を除く)において解説書を作成した。
- ・5 月舞踊・邦楽公演、5 月浪曲録声会、6 月文楽鑑賞教室、6 月文楽若手会、2 月浪曲名人会は無料配布とした。

＜おきなわ＞

- ・公演解説書ステージガイド(月刊)を作成した。
- ・普及公演において、イラスト付き鑑賞リーフレットを配布した。
- ・外国人観客の鑑賞の助けとなるよう、英語・繁体字・簡体字・韓国語による公演の概要等の資料を作成し、配布した。

＜新国立劇場＞

- ・全ての主催公演について公演解説書(プログラム)を作成し、バレエ・現代舞踊公演は無料配布とした。
- ・2024/2025 シーズンガイドを作成し、シーズンを通した演目の紹介、各種サービスの案内を行った。
- ・新国立劇場バレエ団シーズンプログラム(有料)を作成し、ラインアップ演目に関連する解説のみならずダンサー情報を充実させて観客の要望に応えた。

② 音声同時解説・字幕表示

(a) 音声同時解説サービスの実施

＜本館＞

- ・歌舞伎・文楽の全公演で、日本語及び英語による音声同時解説サービスを実施した。

＜文楽劇場＞

- ・文楽の全公演で、日本語及び英語による音声同時解説サービスを実施した(英語版は、6 月鑑賞教室(「Discover BUNRAKU」以外)と夏休み特別公演第一部を除く)。
- ・夏休み文楽特別公演第 1 部親子劇場では、子どもの観劇のサポートとして、18 歳以下の来場者に音声同時解説サービスの無料貸出を実施した(2, 123 台)。

＜新国立劇場＞

- ・令和 6 年度障害者等による文化芸術活動推進事業(文化芸術による共生社会の推進を含む)として、演劇 3

公演（「ピローマン」「ターバイ」「白衛軍 The White Guard」）で、視覚に障害がある方向けにリアルタイム音声ガイドを提供した。

(b) 字幕表示の実施

分野	実施公演数	内 訳
歌舞伎(鑑賞教室含む)	2 公演	6 月鑑賞教室、7 月鑑賞教室
文楽(鑑賞教室含む)	9 公演	東京:4 公演 大阪:5 公演
舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗 芸能・琉球芸能・特別企画	4 公演	東京:8 月舞踊公演
		東京:1 月邦楽公演
		大阪:6 月邦楽公演
		東京:2 月声明公演
能楽(鑑賞教室含む)	49 公演	蠟燭能を除く全公演
オペラ(鑑賞教室含む)	10 公演	全公演
演劇	3 公演	令和 6 年度障害者等による文化芸術活動推進事業(文化芸術による共生社会の推進を含む)として実施
研修発表会等	3 公演	オペラ研修所「サマー・リサイタル 2024」、オペラ研修所 2025 春公演「フィガロの結婚」、オペラ研修所「スプリング・ガラコンサート 2025」

<本館>

- ・歌舞伎鑑賞教室において、字幕表示装置により義太夫の詞章を表示した。
- ・全ての文楽公演において、字幕表示装置又は字幕アプリを使用して義太夫の詞章を表示した。
- ・舞踊公演、邦楽公演、声明公演において、上演内容に応じて字幕アプリを使用して詞章等を表示した。

<能楽堂>

- ・座席字幕表示装置を活用して、9 月企画公演〈蠟燭の灯りによる〉を除く公演で、日本語・英語の 2 チャンネル方式で字幕表示を実施した。
- ・国立能楽堂では、8/3・24 の企画公演「親子で楽しむ狂言の会」「親子で楽しむ能の会」において、座席字幕表示装置の表示言語を通常の日本語と英語のチャンネルに加えて、子供用の現代語訳チャンネルを表示し、3 チャンネルとした。

<文楽劇場>

- ・6 月鑑賞教室を含むすべての文楽公演で舞台の上部に、6 月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」では舞台の上手・下手に、字幕表示装置を特設して義太夫節の詞章を表示した。

<おきなわ>

- ・22 公演において、字幕で歌詞等を表示し、鑑賞の助けとした。

<新国立劇場>

- ・すべてのオペラ公演で日・英字幕を表示し、演劇 3 公演については聴覚障害者向けにポータブル字幕機で字幕を表示した。

③ 公演内容の事前説明会・ワークショップ・ステージツアー等の実施

(a) 公演説明会・ワークショップ・ステージツアー等の実施

《公演説明会・ワークショップ・ステージツアー等の実施実績》

区分	参加者数
本館	1,797 人
演芸場	153 人
能楽堂	2,580 人
文楽劇場	2,277 人
国立劇場おきなわ	1,620 人
新国立劇場	5,919 人

<本館>

- ・代替劇場公演の地元自治体と連携して、地元住民等を対象としたワークショップ、講座、展示等を実施した。
- ・新規団体獲得のため、団体の幹事やホテル・旅行代理店の担当者を対象として、代替劇場公演の観劇体験がセットになった団体向け利用説明会を開催し、団体利用の促進を図った(4 回実施。参加者数 94 名)。実施に当たっては、DMO 丸の内およびコンシェルジュ協会の広報面での連携協力を得た。

<能楽堂>

- ・4・7・10・12 月国立能楽堂ショーケース公演の開演前ロビーにて、鑑賞初心者・日本語を母語としない外国人鑑賞者を対象に笛・小鼓・大鼓・太鼓の能楽器体験(4月)、能面・狂言装束の着用体験(7月)を行った。また鑑賞前に出演者が能楽・演目について解説するプレトークを実施した。
- ・3 月特別企画公演の観客動員のため、同公演で復曲能「武文」の台本検討を担当した横山太郎氏(立教大学教授)によるプレトークを、公演当日の大講義室にて開催した(3/28:102名、3/29:99名が参加)。

＜文楽劇場＞

- ・株式会社エイチ・アイ・エスにチケットの販売を委託し、有料で外国人向けに舞台機構・舞台、照明、音響の解説、舞台装置のデモンストレーションを含む体験型のバックステージツアーを実施した(10/16・17。参加者数:24名)。

＜おきなわ＞

- ・夏休み期間に上演する2公演(「組踊の世界「執心鐘入」」「琉球舞踊鑑賞教室」)のチケット購入者を対象にバックステージツアーを実施した(7/27、28)。
- ・近畿日本ツーリスト沖縄との合同企画として、ワークショップ付きで公演ゆかりの地巡りと公演鑑賞がセットになったツアーを実施した(8/24。普及公演 琉球舞踊鑑賞教室、10/5 組踊公演「手水の縁」)
- ・沖縄県教育庁生涯学習振興センターと連携し、県民カレッジ主催講座として、公演と講座がセットになった講座を実施した(9/14。普及公演 沖縄芝居鑑賞教室「松の精」)。
- ・沖縄県及び首里城を管理運営する一般財団法人沖縄美ら島財団と連携し、首里城復興イベントと同時開催による英語通訳付きの組踊ワークショップを実施した(12/7。参加者数84名)。参加者は観光で訪れた外国人等を想定し、組踊の歴史や三要素の説明と併せて組踊「二童敵討」と「執心鐘入」のダイジェスト版上映や実演、体験を行い、飽きさせない工夫をした。

＜新国立劇場＞

- ・新制作オペラの作品理解を深め、興味関心を喚起するため、演出家や指揮者等によるオペラトークを実施した。また、オンライン(YouTube)でもアーカイブ配信を行った。
- ・演劇公演の作品理解を深め、興味関心を喚起するため、演出家や主な出演者が制作過程の逸話等を紹介するシアタートークを実施した。

＜オペラトーク・シアタートーク開催実績＞

区分	実施回数	参加者数
オペラトーク	2 件	185 人
オペラトーク配信版	2 件	9165 人
シアタートーク	8 件	2,090 人
合計	12 件	11,440 人

- ・オペラ劇場でのバックステージツアーを実施した。また、若い世代により興味を持ってもらうことを目的として、25歳以下の方(お連れ様を含む)が優先してバックステージツアーに参加できる日程を設定した。
- ・オペラ「トスカ」「魔笛」、バレエ「眠れる森の美女」「くるみ割り人形」で計8回、終演後の英語版バックステージツアーを実施した(参加者数141名)。
- ・こどものためのバレエ劇場2024「人魚姫～ある少女の物語～」にて子供向けのバックステージツアーを2回実施した。
- ・バレエ「くるみ割り人形」の指揮者と主役ダンサーが作品を音楽面から語るトークイベントを開催した。
- ・バレエ「ラ・バヤデール」で新国立劇場バレエ団のクラスレッスン見学会を実施した。
- ・演劇公演で公演ガイドツアーを実施し、各公演の制作担当プロデューサーが公演中の劇場にて舞台美術の説明や開幕に至るまでの行程等を解説した。
- ・演劇公演「白衛軍 The White Guard」にて、作者であるブルガーコフに焦点を当てたスペシャルトークイベントを実施し、オンライン(YouTube)でもアーカイブ配信を行った。

(b) 劇場外での公演説明会等の実施

＜本館＞

- ・代替劇場を実施する地元地域と連携して、入門講座等の住民還元事業を実施した。
 - ◇公益財団法人文京アカデミーとの共催で、8月邦楽公演前日に、箏の演奏を体験するワークショップを開催。文京区内在住または在学・在勤者14人が参加した。
- ・令和7年度以降に代替劇場として利用する予定であるKAAT 神奈川芸術劇場と連携し、伝統芸能の継承や普及を目的として、国内外の現代舞台芸術のアーティストやその観客に向けたワークショップ「KAAT×国立劇場〈つたえつなぐ〉観て読み解く～実演&レクチャー～」を開催した。
 - ◇11/16 日本舞踊編 参加者33名

- ◇11/17 神楽編 参加者 62 名
- ◇3/15 文楽人形遣い編 参加者 70 名、文楽大夫編 参加者 53 名

<能楽堂>

- ・緑が丘文化会館において、目黒区の高齢者向け生涯学習団体である「シルバー大学」に向けた、シテ方宝生流武田伊左による普及公演の事前レクチャーを開催(12/4)。約 100 名が聴講し、65 名が定例公演に来場した。

<おきなわ>

- ・「おでかけ琉球舞踊鑑賞教室」と題し、那覇空港国際線ホールにおいて琉球舞踊の実演披露と解説を 2 日間にわたり行った(8/22・8/23)。
- ・沖縄県及び首里城を管理運営する一般財団法人沖縄美ら島財団と連携し、首里城復興イベントと同時開催による英語通訳付きの組踊ワークショップを実施した(12/7。参加者数 84 名)。参加者は観光で訪れた外国人等を想定し、組踊の歴史や三要素の説明と併せて組踊「二童敵討」と「執心鐘入」のダイジェスト版上映や実演、体験を行い、飽きさせない工夫をした。

<新国立劇場>

- ・チケット購入団体に対して外部専門家及び職員によるオペラ・バレエ公演の事前レクチャーを実施した(一部オンラインでも実施)。

エ アンケート調査等の活用による観客等の要望・利用実態等の把握、サービスの向上

① 意見・要望等への対応体制

<おきなわ>

- ・観客の意見・感想・要望については、関係部署間で情報共有し、サービスの向上・改善に活用するよう努めている。

<新国立劇場>

- ・アンケート結果については、関係部署間で共有した。
- ・アンケートは用紙の配布を行わず、ウェブで実施した。
- ・アンケート回答者のうちから抽選でオリジナルグッズが当たる企画を実施し、回答率の向上に努めた。
- ・意見・要望については、委託業者も交えて必要な対応を行い、提供するサービスの質の向上に努めた。
- ・主催公演において、公演会場に職員が劇場支配人として立ち会い、委託業者・観客と直接コミュニケーションを図るとともに、不測の事態に常に備えた。

② 意見・要望等への対応 実績

区分	劇場内ご意見箱		メールによるご意見	
	受付件数	回答件数	受付件数	回答件数
本館	1 件	1 件	297 件	228 件
演芸場	12 件	0 件		
能楽堂	0 件	0 件		
文楽劇場	93 件	18 件		
国立劇場おきなわ	0 件	0 件	1 件	1 件
新国立劇場			430 件	162 件
合 計	106 件	19 件	728 件	391 件

<<主な対応・改善例>>

- ・新国立劇場では、いただいた意見・要望について下記のような対応を行った。
 - ◇公演内容、チケット購入方法に関する問合せに対して適宜回答した。
 - ◇公演における忘れ物、落とし物に関する問合せについては、適宜防災センターや現場に確認して回答し、可能な限り返却の可能性を高めるよう努力した。
 - ◇上演時間についてなど、頻繁に問われる情報については、早期にウェブサイト情報を記載する、SNSで配信するなどの努力を行った。
 - ◇終演後メインエントランス外の灯りが暗く危険であるとの意見があり、施設課と連携し、終演時間に併せて灯りを点灯することとした。

2-(6) 広報・営業活動の充実

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(6) 広報・営業活動の充実

幅広く多くの人が鑑賞することを目標とする、一層効果的な広報・営業活動の展開

ア 公演内容に応じた効果的な宣伝活動

振興会各種事業に関する広報の充実、ホームページ・SNS等を活用した最新情報の提供、ホームページのアクセシビリティ向上

イ シーズンシートの拡充、会員に向けた各種サービスの提供、外国人向けの広報・営業、潜在的なニーズの把握、関係機関との連携等、観客の需要を的確に捉えた営業活動の展開
より効果的かつ効率的な運営を行うための会員組織の見直し

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(6) 広報・営業活動の充実

ア 効果的な広報・営業活動の展開

①公演内容に応じて、記者会見・取材等によるマスメディアを通じた広報や、インターネット広告等の多様な媒体を活用した効果的な広報活動

②振興会各種事業に関する広報の充実、ホームページ等を活用した最新情報の提供

(a)ホームページについて、各種情報の早期掲載及び内容の充実、アクセス動向等の分析

(b)SNSやメールマガジンによる公演等の情報の随時配信

(c)振興会各種事業の情報発信及び周知を効果的に実施、国立劇場等の再整備期間中における代替施設での公演について効果的な情報発信を行うための検討を継続

(d)外国語版のホームページ等での外国人に対する効果的な情報発信

③シーズンシートやセット券等の企画・販売、各種キャンペーンの企画・実施

④団体観劇促進のための、公演内容に応じた営業活動の展開、旅行代理店・ホテル等との連携強化

⑤若年層の観客増を図るため、大学等を対象とする会員制度「キャンパスメンバーズ」の運営、会員校の増加及びサービスの拡充に努める

イ 個人を対象とする会員組織の会員に対し、会報等による情報提供を定期的 to 実施

入場券の会員先行販売や会員向けイベント等の各種サービスを提供

アンケート調査の結果等を、会員向けサービスの充実に活用

新会員組織の構築について準備

①あぜくら会

・会報「あぜくら」(毎月発行)

・会員向けイベント(年3回程度、代替施設での上演方法や施設利用状況等を踏まえ適宜実施)

②国立文楽劇場友の会

・「国立文楽劇場友の会会報」(年6回発行)

・会員向けイベント(年3回程度)

③国立劇場おきなわ友の会

・「国立劇場おきなわ友の会会報」(年4回発行)

・会員向けイベント(年2回程度)

④クラブ・ジ・アトレ

・会報「ジ・アトレ」(毎月発行)

・会員向けイベント(年11回程度)

ア 効果的な広報・営業活動の展開

① 多様な媒体を活用した効果的な広報活動

(a) ホームページ、SNS 等インターネットを活用した広報活動

- ・詳細は「②(a) ホームページ、SNS やメールマガジンによる公演等の情報発信」に記載

(b) メディア等と連携した広報活動

<各館共通>

- ・マスコミ各社を招いて、出演者・関係者の取材会(記者会見)を実施した。また、個別にマスコミの取材対応等も行った。
- ・新聞・雑誌等に公演情報を掲載した。
- ・テレビ・ラジオ番組で職員や出演者・芸術監督等関係者が公演 PR を行った。

<本館>

- ・9 月歌舞伎公演で「建て替え閉場の国立劇場 主催の歌舞伎公演を新国立劇場で上演」として NHK の取材に対応し、「首都圏ニュース」ほかで放送した。
- ・文楽のイメージ動画を作成し、街頭ビジョンで放映した(あだちスマイルビジョン：5 月文楽公演、有楽町ビックマルチビジョン・横浜 S-VISION：12 月文楽公演)。

<演芸場>

- ・千代田区、千代田区観光協会と連携して区報や観光案内サイト等にて公演を周知した(8/16～25・9/11～15・10/11～15・11/26～30・12/15～19・2/11～15。千代田区立内幸町ホール)。
- ・コミュニティ FM 局(中央区、江戸川区)へ出演し、公演周知の為の PR を行った(リスナープレゼント実施)。

<能楽堂>

- ・読売新聞社が運営する美術展ナビ(WEB 版)に、国立能楽堂ショーケース各公演の公演紹介、朔野安子氏によるあらすじ漫画と公演情報を掲載した。なお朔野氏は例年、能楽鑑賞教室解説書に漫画を寄稿している。

<文楽劇場>

- ・豊竹若太夫という大名跡の復活を広く PR するため、11 月に襲名披露記者会見を実施した。2 月には新聞各社へ表敬訪問をし、3 月には初代若太夫の墓がある本経寺にて墓参及び成功祈願、記者会見を行った(4 月文楽公演)。
- ・襲名公演ということで初日取材(口上や襲名披露狂言の撮影、終演後の囲み取材)を実施し、翌日新聞各社で取り上げられた(4 月文楽公演)。
- ・文化功労者として顕彰された吉田和生の取材会を実施し、公演情報の周知を行った(11 月文楽公演)。

<おきなわ>

- ・沖縄タイムス(県内新聞)の子ども向け副読紙・ワラビーへ招待券を提供した。
- ・公益財団法人日本修学旅行協会の協力を得て、同協会ホームページで学校団体向けの普及公演を案内した。
- ・沖縄観光コンベンションビューローや那覇商工会議所の協力を得て、各団体のホームページ並びに県海外事務所(香港事務所)の SNS で公演を告知した。
- ・沖縄県職員向け庁内 LAN や那覇商工会議所、県人会のグループ向けであるウチナーンチュネットワーク、沖縄科学技術大学院大学に SNS 等での広報協力を得た。
- ・国立劇場おきなわの SNS について、出演者にリポストなどでの拡散を呼び掛けた。

<新国立劇場>

- ・こどものためのバレエ劇場 2024「人魚姫～ある少女の物語～」について、メディア向けに公開リハーサルを実施した(4/17)。
- ・演劇では、「デカローグ」の制作発表、「白衛軍 The White Guard」の公開フォトコールを実施した。
- ・公演を取り扱う各種プレイガイドに働きかけることで、稽古場取材の斡旋や各社の SNS・メルマガ等を通じた幅広い顧客への公演情報を周知した。

(c) チラシ・ポスター等による広報活動

<各館共通>

- ・劇場ロビーや演目ゆかりの地、文化施設・公共施設等にチラシ・ポスターを掲出した。
- ・駅貼りポスター、壁面広告、車内中吊り広告等の交通広告を行った。

<本館>

- ・令和 6 年度の文楽公演予定を告知するラインアップチラシ・ポスターを作成し、公演会場で掲出・配布した。
- ・公演会場シアター1010 が入る商業ビル・マルイの壁面に公演告知の懸垂幕を掲出した(5 月文楽公演)。
- ・荒川区芸術文化振興財団の協力を得て、都電荒川線の停留所 10 か所にポスターを掲出した(6 月歌舞伎鑑賞教室)。

<演芸場>

- ・他の4席亭との共同制作による真打昇進披露公演のチラシ・ポスターを作製した(5月国立演芸場寄席、7月国立演芸場寄席、11月国立演芸場寄席)。

<能楽堂>

- ・近隣のイベントにて、能楽師によるミニ公演やチラシ、ノベルティの配布を実施した。
 - ◇「MEIJI PARK NATURAL&CLASSICAL」(都立明治公園。5/19)
 - ◇「MEIJI PARK SOCIAL GOOD PROJECT」(都立明治公園。6/1)
 - ◇「千駄ヶ谷おとなりサンデー」(鳩森八幡神社。6/2)
 - ◇「せんだがや盆踊り大会」(鳩森八幡神社。7/19)
 - ◇「みんなでつくる！明治公園祭」(都立明治公園。11/10)
- ・チラシのロビー配架や月間チラシ配布先等への配布を行った。
 - ◇公益社団法人宝生会との連携事業(公演・展示)をまとめたチラシを作成(日本語・英語併記。10,000部)
 - ◇3月特別企画公演「武文」特別チラシを作成(日本語版8,000部・英語版4,000部)

<文楽劇場>

- ・大阪私立中学校高等学校連合会、大阪府私立小学校連合会の協力により私立小・中学校に夏休み文楽特別公演・第1部親子劇場のチラシを配布した(78校・各20部 1,560枚)。
- ・イベント会場等でチラシの配布、配架を行った。
 - ◇尼崎市文化振興財団「近松ナウ」のイベント「大近松祭」(10/20)の会場等
 - ◇「中之島文楽」(10/25・26。大阪市経済戦略局とのタイアップ、特別割引券の配布)
 - ◇「道頓堀川面舞台2024」(9/28。出演：吉田玉翔)
 - ◇高島屋大阪店で三番叟の実演イベント(出演：吉田一輔、吉田玉誉、吉田玉征)
 - ◇今宮戎神社「十日戎」の宝恵駕行列(1/10)に吉田襄二郎及び劇場職員一行で参加

<おきなわ>

- ・近隣の那覇市内・浦添市内の小学校に対し、夏休み期間中の2公演(「組踊の世界『執心鐘入』」、「琉球舞踊鑑賞教室」)のチラシ配布を行った(各3万部)。
- ・琉球芸能 春秋座特別公演(京都芸術劇場春秋座)において、11/1 琉球歴史文化の日にあわせて実施する組踊「万歳敵討」などの公演チラシを各500部配布した。

<新国立劇場>

- ・各演目のチラシを作成し、新国立劇場および他劇場、コンサートホールにて配布した。
- ・2024/2025 シーズン開幕にあたり、京王線新宿駅改札に開幕記念広告を展開した(9/30～10/6)。
- ・第47回渋谷区くみんの広場「ふるさと渋谷フェスティバル2024」に出店し、地域住民・団体へ向けた劇場施設の紹介及び公演情報の周知、オリジナルグッズのプレゼントを行った。

(d) 来場者に対する広報活動

<本館>

- ・新国立劇場で同時期に開催した9月歌舞伎公演・9月文楽鑑賞教室において、双方のロビーでポスター・チラシの掲出やセット券の告知を行った。

<演芸場>

- ・代替施設ロビーに「令和5年度国立演芸場花形演芸大賞受賞者」の看板を掲示し、来場者に各受賞者及び花形演芸大賞制度を周知した。

<能楽堂>

- ・主催公演開催時に、見所内座席字幕表示装置に公演情報等の映像を流して、公演周知に努めた。

<文楽劇場>

- ・観客への効果的な広報・宣伝を実施するために、1階エントランスロビーの大画面テレビモニター及び2階ロビーの観客用舞台モニターで、公演宣伝映像等を上映した。
- ・初春文楽公演初日に、劇場前で鏡開きを行い、文楽の広報を行った。
- ・来場者に次回文楽公演の演目を効果的に周知するため、劇場西側出口に巨大看板を設置した(11月文楽公演、初春文楽公演)。

<おきなわ>

- ・ロビーをはじめ館内各所に公演ポスター等を掲示した他、公演告知映像を放映した。

<新国立劇場>

- ・公演会場ホワイエ内で、会報誌「ジ・アトレ」の記事やポスター等を利用して、今後の主催公演に関する情報のパネル掲示を行った。
- ・全国公演の会場にて、新国立劇場のブースを設置してPRを行った。

(e) 各分野の特性や公演内容に応じた広報活動

<本館>

- ・公演会場と同じ足立区内の西新井大師にて、大師及び地元商店会の協力を得て、大師参道を練り歩く「お練り」、本堂で「成功祈願法要」、書院で「記念上演」を行い、襲名披露を告知した(5月文楽公演)。

- ・公演会場シアター1010にて、豊竹若太夫、山村紅葉(俳優)、水谷彰宏(フリーアナウンサー)によるトークイベント「前夜祭」を開催した(5月文楽公演)。
- ・9月の新国立劇場にて、同時期に同演目を歌舞伎(中劇場)と文楽鑑賞教室(小劇場)で行う企画に絡め、広告・記事の併載、両公演出演者の対談などを展開した。

＜文楽劇場＞

- ・関西の大手ゲームソフト会社である株式会社カプコンとコラボレーションを実施し、新作ゲーム『祇(くにつがみ) : Path of the Goddess』に関連した新作文楽の映像を夏休み文楽特別公演初日直前に無料公開した。カプコンのPRチャンネルにより、ゲーマーである若い世代や外国人が、文楽及び夏休み文楽特別公演を知るきっかけを作ることができた。
- ・開場40周年・4月文楽のPRイベントを初日前に人通りの多い「なんばウォークくじらパーク」で行った。吉田玉助が文楽の解説、上演演目の見どころ紹介、三番叟の実演や記念写真撮影などを実施したほか、来場者に文楽入門やチラシを広く配布した。
- ・地域で開催される各種行事に参加し、文楽劇場の認知向上及び主催公演の広報に努めた(天神祭(7/25)、法善寺祭り(8/10)、道頓堀川面舞台2024(9/28)、今宮戎神社「十日戎」(1/10))。

＜おきなわ＞

- ・組踊は元々、冊封使の歓待のため首里城で披露されていた宮廷芸能であり、首里城観光と親和性が高いため、首里城にて組踊ワークショップを行い、参加者にチラシを配布して広報した。
- ・民俗芸能公演をはじめ、公演の内容に関係が深い地域がある場合は、その地域に出向いて広報を行った(1/19 民俗芸能公演「やんばるの芸能」、2/22 組踊公演「具志川大軍」)。

＜新国立劇場＞

- ・2024/2025 シーズンガイドを作成し、シーズンを通した演目の紹介、各種サービスの案内を行った。
- ・上演演目に合わせて京王新線初台駅の列車接近メロディを変更した(バレエ「くるみ割り人形」、オペラ「カルメン」)。
- ・オペラ公演にてオーケストラとの相互宣伝協力を行い、東京フィルハーモニーオーケストラ定期公演の会場にてチラシ設置を行ったほか、オーケストラの会員に対するDMを実施した。
- ・2025年7月の「ジゼル」ロンドン公演に向けて、広報・営業活動に努めた。
 - ◇英国ロイヤルオペラハウスにて、現地メディア向けの昼食会を開催した。(2/21)
 - ◇ジャパンハウス・ロンドンにて、トークイベント「ジゼル：ロンドンデビューへの旅路」を実施した。(2/22) (オンラインでのリアルタイム配信およびアーカイブ配信も実施)
 - ◇日本旅行のロンドン公演観劇ツアー(協力：新国立劇場)が2月に発売され、クラブ・ジ・アトレ会報誌4月号の誌面や同封のチラシでも告知を行った。

② 振興会各種事業に関する広報の充実、ホームページ等を活用した最新情報の提供

(a) ホームページ、SNS やメールマガジンによる公演等の情報発信

＜ホームページアクセス件数＞

区 分	件数	前年度実績
振興会 HP	1,518,353 件	1,927,486 件
おきなわ HP	1,533,729 件	980,695 件
新国立劇場 HP	4,412,826 件	4,187,863 件

＜SNS 等登録者数＞

区分	Facebook	Instagram	LINE	YouTube	X(旧 Twitter)	メールマガジン
国立劇場	-	10,607 (+407)	-	39,546 (+2,346)	12,339 (+698)	-
国立劇場(英語)	-	269 (+269)	-	-	-	-
国立劇場チケットセンター	-	-	-	-	-	39,644 (△93,742)
演芸場	-	-	-	-	3,055 (+541)	-
能楽堂	-	-	-	-	2,119 (+825)	-
文楽劇場	-	1,587 (+927)	2,175 (+639)	-	16,343 (+756)	-
おきなわ	3,114 (+95)	1,384 (+246)	1,589 (+54)	2,170 (+150)	593 (+93)	-
新国立劇場	-	-	22,974 (+3,103)	59,762 (+6,119)	-	-

新国立劇場(英語)	3,967 (+625)	7,995 (+1,448)	-	-	-	-
新国メンバーズ	-	-	-	-	-	65,506 (+7,027)
新国立劇場オペラ	17,930 (+519)	8,564 (+1,680)	-	-	24,066 (+2,073)	-
新国立劇場バレエ団	18,942 (+160)	85,037 (+34,646)	-	-	27,945 (+2,533)	-
新国立劇場演劇	3,750 (+100)	3,324 (+709)	-	-	28,527 (+1,146)	-

※()内の数値は前年度からの増減。

《各劇場のホームページや SNS 等を活用した広報活動》

＜各館共通＞

- ・公演情報等をホームページ、SNS 等で公開し、公演 PR を行った。
- ・公演記録映像を活用した演目のダイジェスト動画、稽古場の様子、出演者等関係者によるインタビュー映像等をホームページや SNS 等で公開し、公演 PR に努めた。
- ・振興会の事業及び日本の伝統芸能の国内外へ向けた普及・広報を目的として、英語版 Instagram のアカウントを新たに公開(9/26)し、広報手段の強化を図った。

＜本館＞

- ・国立文楽劇場と合同で襲名特設サイトを作成した(5 月文楽公演)。
- ・舞台美術として使用される暖簾の紋にちなみ、JAL の SNS 担当と連携し、提供した写真を X(旧 Twitter)で投稿してもらい、引用し合う方法で交流を行って情報を拡散した(9 月歌舞伎公演)。
- ・写真のみを使用した動画を作成し、Instagram 広告を配信した(初春歌舞伎公演)。
- ・メールマガジンについて 5 月よりシステムを更新し、月 1 回のテキスト形式の配信から、各公演の発売日前に画像付きの HTML 形式による配信(月 4 回程度)に移行した。また、観劇実績に応じた配信が可能となったことから、NTJ メンバーの配信対象をアクティブな会員(過去 2 か年で利用実績がある、または新規会員登録 1 年以内)にするなど、受信率及び開封率の増を図った。

＜演芸場＞

- ・代替劇場公演の各会場へのアクセスを「くろごちゃん」を使ったシリーズ物にして国立演芸場ホームページ及び X(旧 Twitter)に紹介した。

＜能楽堂＞

- ・国立能楽堂ショーケース(4 月、10 月、12 月)、7 月企画公演「女性能楽師による」、3 月特別企画公演で、Google 広告等による広報を実施した
- ・親子で楽しむ能の会で、学校からの配布物を PDF で配信する保護者向けアプリ「スクリレ」内にバナー広告を掲出した。能楽堂沿線の地域や小学校・中学校を指定して配信した。

＜文楽劇場＞

- ・本館と合同で襲名特設サイトを作成し、公演 PR に努めた。また、4 月文楽公演の特設サイトも併せて作成したほか、上演が稀な『和田合戦女舞鶴』の理解を深めてもらうため、全体のあらすじや板額についてのコラムを作成しホームページに掲載した(4 月文楽公演)。
- ・株式会社カプコンの新作ゲーム『祇(くにつがみ) : Path of the Goddess』の前日譚を描いた新作文楽「山祇祭祀傳」の動画を X(旧 Twitter)及びホームページで紹介した。
- ・X(旧 Twitter)にて、招待券が当たるフォロー&リポストキャンペーンを実施した(Discover BUNRAKU)。
- ・文楽公演期間中に、劇場内の売店で使用できるクーポン券を公式 LINE で配信し、公演周知を行った(4 月文楽公演、夏休み文楽特別公演、11 月文楽公演、初春文楽公演)。

＜おきなわ＞

- ・連続公演の場合は特設ページを設けたほか、劇場ロビーで放映する公演毎の PR 動画を Facebook、X(旧 Twitter)及び LINE でも公開して周知に努めた。
- ・10 月の 1 ヶ月間、SNS 広告・Google 広告による広報を実施した(組踊鑑賞教室「万歳敵討」)。

＜新国立劇場＞

- ・新国立劇場バレエ団サイトの英語ページをリニューアルした。
- ・SNS における上演演目の先行発表、舞台映像やクラスレッスン見学会の映像の投稿、舞台映像の配信案内等に対して、インプレッション数が投稿から 1 か月半で数十～数百万件に達するなど大きな反響があった。
- ・ワールド・オペラ・デーに際し、高校生のためのオペラ鑑賞教室(京都公演)「ドン・パスクワレ」キャストによるミニコンサートの公開収録を実施し、その映像を配信した。
- ・演劇「デカログ 7-10」にて、SNS(Instagram、X(旧 Twitter))で感想を投稿してもらい、抽選で出演者サイン入り色紙をプレゼントするキャンペーンを実施した。

《外部のサイトや SNS を活用した広報活動》

＜各館共通＞

- ・PRTIMES など外部サイトを活用し、公演情報やイベント情報を告知した。

＜本館＞

- ・ウェブサイト上のバナー広告を配信した(12 月文楽公演・初春歌舞伎公演)。
- ・出演俳優の扮装写真のみを使用した動画を作成し、Meta 広告(Instagram)を配信した(初春歌舞伎公演)。

＜能楽堂＞

- ・Google ディスプレイ広告(7 月企画公演)、Yahoo! ディスプレイのリスティング広告を実施した(10・12 月国立能楽堂ショーケースおよび 3 月特別企画公演)。
- ・初の試みとして、学校の保護者向け配布物掲載アプリ「スクリレ」においてバナー広告を実施した。期間のみならず、自治体や学校の区分(小学校・中学校・高校)を指定できるため、ターゲット層へ効果的に情報を届けることができた(8 月親子で楽しむ能・狂言公演)。

＜文楽劇場＞

- ・Meta 広告(SNS 広告)を、国内及びインバウンド双方をターゲットとして日本語・英語で配信し、リーチ数約 26 万、クリック数約 1 万の成果を得た(4 月文楽公演)。
- ・大阪・京都・兵庫・奈良への訪日外国人・在日外国人をターゲットとした WEB 広告を実施した(文楽劇場 Discover BUNRAKU)。
- ・新聞社等のニュースサイト、ポータルサイトなど関西圏の劇場等来訪者を対象に WEB 広告を掲出した(夏休み文楽特別公演)。
- ・文楽劇場では初の試みとして、士業や資産保有者等の富裕層向けに、11 月文楽公演と初春文楽公演で WEB 広告を実施した。表示回数やクリック数は、当初の予定を大幅に上回ることができた(合計 4,905,544 表示、12,883 クリック)。
- ・TVer 広告用動画を作成して放映した(夏休み文楽特別公演、11 月文楽公演及び初春文楽公演。3 公演合計で 298,514 回再生)。

＜おきなわ＞

- ・日本修学旅行協会、沖縄県職員専用サイト、那覇商工会議所のサイトに公演情報を掲載し周知を行った。
- ・沖縄観光コンベンションビューローの観光情報サイトや修学旅行向けページで国立劇場おきなわの紹介を行った。
- ・JTB 沖縄の観光情報サイトに劇場バナーを貼り付けた(7～9 月)。
- ・台湾や韓国の旅前情報サイトで公演情報を SNS 配信した。
- ・沖縄県の海外事務所(香港事務所)の SNS で公演情報を周知した。

＜新国立劇場＞

- ・公演を取り扱う各種プレイガイドに働きかけることで、稽古場取材の斡旋や各社の SNS・メルマガ等を通じた幅広い顧客への公演情報の周知を行うことができた。

(b) 代替施設での公演に関する効果的な情報発信の検討

＜本館＞

- ・令和 6 年度の上演計画を一覧するトピックスを国立劇場ホームページ上に作成し、随時更新した(4/1～)。
- ・振興会ホームページ(日英)に各劇場の自主公演がカレンダー形式で見られる公演カレンダー機能を追加し、その日に予定されている各劇場の自主公演をすべて表示することにより、公演広報の強化を図った。
- ・令和 6 年度の文楽公演予定を告知するラインアップチラシ・ポスターを作成し、公演会場で掲出・配布した。

(c) 外国人に対する効果的な情報発信

＜各館共通＞

- ・ホームページ、SNS 等において、公演情報を積極的に英語で発信した。

＜Discover 公演＞

- ・文楽劇場の Discover BUNRAKU について、外国人向けの広報活動を行った。
 - ◇日・英表記した広告動画を作成し、なんば駅・梅田駅のデジタルサイネージで掲出した。
 - ◇インバウンドの利用者が多い近鉄奈良線に英語のみの中吊り広告を掲出した。
 - ◇大阪・京都・兵庫・奈良への訪日外国人・在日外国人をターゲットとした WEB 広告を実施した。
 - ◇関西学院大学との連携により、国際交流を実施している兵庫県内の大学のネットワークを通じて公演情報を発信した。
 - ◇ホテルや観光案内所等で「Discover BUNRAKU」の英語リーフレットを配布した。

＜本館＞

- ・海外 OTA(viator、GetYourGuide、kkday) でのチケット販売について、取扱先を増加して販売網を拡充し、前年度より大幅に販売枚数を伸ばした(販売実績 321 枚、5 年度販売実績 107 枚)。
- ・東京シティアイ(東京駅前の観光案内所)のイベントスペースで「国立劇場 in 丸の内 What is 文楽?」として、文楽を紹介する展示及び文楽技芸員によるミニパフォーマンスを行った(12/15・16。参加者数約 300 名)。

- ・フォーリン・プレスセンターを通じ、英語版プレスリリースを在日外国メディア・大使館に配信した。
- ・英字新聞に広告を掲出した。
- ・長期的に外国人の観劇の増加を図るため、英文の公演スケジュールチラシ・英文の歌舞伎イメージポスター・多言語の歌舞伎・文楽紹介リーフレットを、都内の主要な観光案内所・ホテル等に配布した。

＜能楽堂＞

- ・公演のチケット購入を検討している外国人に向けたサービスとして、4月公演より、月間チラシの裏面に掲載されている日本語のあらすじを翻訳し、国立能楽堂英語版ホームページに掲載を開始した。
- ・国立能楽堂公演一覧(主催公演・貸劇場公演両方を含んだ予定表)の英語版を作成し、各所に配架した。
- ・令和6年度日本博2.0事業(委託型)にて採択された、出張型体験プログラムの一環として、公益財団法人東京二期会が上野・東京文化会館に開催した「Tokyo Opera Days 2024」に参加。シテ方室生流能楽師武田伊左他によるミニ公演(10/20)とワークショップ(10/21)を行った(参加者数約1,000人)。
- ・令和6年度日本博2.0事業(委託型)にて採択された、出張型体験プログラムの一環として、独立行政法人日本学生支援機構が東京国際交流館にて開催した「国費外国人留学生歓迎会」に参加。シテ方観世流能楽師伶以野陽子他によるワークショップ(6/29、11/16)を行った(参加者数約450名)。
- ・独立行政法人日本学術振興会が八重洲ファーストフィナンシャルビル2階ベルサール八重洲にて開催した「2024年度外国人特別研究員交流会(英語名: JSPS Global Gathering)プログラム」に参加。シテ方観世流能楽師伶以野陽子他によるワークショップ(1/31)を行った(参加者数約110名)。

＜文楽劇場＞

- ・国立文楽劇場をPRする英語のチラシを作成し、ホテルや観光案内所等に配架した。
- ・幕見席を案内する英語チラシを作成し、ホテル、観光案内所等に掲出した。

＜おきなわ＞

- ・ホームページに英語の公演情報ページを作成するとともに、SNS等でPR映像を配信し、毎公演英語による発信を行った。
- ・沖縄県を通じて県教育庁及び県内市町村(JATプログラム任用団体)へ、ALT(外国語指導助手)及びCIR(国際交流員)に対する公演の周知・誘客を図った。
- ・沖縄県産業振興公社、沖縄科学技術大学院大学、ウチナーンチュネットワークや県内観光ホテル等へ広報協力を依頼し、周知を行った。沖縄県産業振興公社を経由して、県の海外事務所(香港事務所)がSNSで公演情報を周知した。
- ・組踊公演「銘苅子・女物狂」の英語チラシを作成。浦添市国際交流協会への掲出やSNS上での告知を行った。また、年間スケジュールを沖縄観光情報センター等へ掲出した。
- ・VOICE PAPER(フリーペーパー英語版、7/10発行)8千部を外国人が多く集まる箇所500か所(本島中部エリア)で業者を通じて配布した。
- ・外部サイトに国立劇場おきなわのバナーリンクを貼付した。
 - ◇沖縄JTBの観光情報サイト(Okinawa Traveler)(7月～9月)
 - ◇(株)ODLの現地韓国向けWEBサイト(8/20～)
 - ◇(株)沖縄彭大家族の現地台湾向けWEBサイト(8/8～)
- ・外部サイト、SNS、プレスリリースサービスに公演情報を掲載した。
 - ◇ラーチーゴ日本(台湾香港訪日繁体字サイト)にWEB広告を掲出
 - ◇トリステーション公式SNS(会員数1.2万人)に英語版チラシを投稿(9/20)
 - ◇沖縄県産業振興公社、県香港事務所のFacebookで配信
 - ◇プレスリリースサイトPRTIMESに記事を掲載し、「ことりっぷweb」を含む109社のメディア宛に告知
- ・那覇空港国際線ホールで「おでかけ琉球舞踊鑑賞教室」を実施し、英語逐次通訳付きで公演案内を行った。
- ・多くの外国人が訪れる首里城において、英語通訳者付きの組踊ワークショップを行い、組踊の歴史背景を説明した上での公演の周知を行った。

＜新国立劇場＞

- ・ホームページ・SNSにおいて、舞台写真、動画、稽古風景の紹介や出演者インタビュー等を英語で発信した。
- ・インバウンド向けの劇場紹介映像を作成し、ホームページ・SNS等で公開したほか、国内外で広告を展開し劇場の周知に活用した。
- ・欧米の舞台芸術サイト・雑誌に広告を掲載して、新国立劇場の認知を高めるとともに、同メディアに記事掲載の働きかけを行った。
- ・バレエ「くるみ割り人形」について、英語版トレーラーを作成し、外国人に向けて英語Facebook、Instagramで広告展開した。
- ・海外からジャーナリストを招聘し、新国立劇場の認知を高めるとともに、海外メディアでの露出を図った(オペラ「ウィリアム・テル」6名、バレエ「バレエ・コフレ」3名)。

- ・JNTO(日本政府観光局) ロンドン事務所の手配による訪日・訪都旅行商品を取り扱う現地の旅行会社 5 社に向けて新国立劇場の PR 及び誘客を行った。
- ・英語版ラインアップリーフレットを日本政府観光局(JNTO)の海外拠点に配備したほか、都内ホテル、ツーリストインフォメーションに英語版シーズンガイドとともに発送し、配置を依頼した。
- ・大使鑑賞プログラム等に関連して、大使館のホームページや SNS でも周知するなど広報協力を得た。
- ・オペラ「さまよえるオランダ人」において、在日旅行代理店(インバウンド取扱い)のモニター観劇会を実施した。
- ・バレエ「くるみ割り人形」において、英語版チラシを作成し、都内インフォメーションセンターやホテル等にチラシ配置を依頼した。

③ 振興会各種事業に関する広報誌の発行

- ・「新国立劇場 令和 5 年度年報」(9 月発行、2 言語(日本語・英語)表記)

④ シーズンシートやセット券等の企画・販売、各種キャンペーン等の企画・実施

＜本館・能楽堂・文楽劇場＞

- ・夏休み親子企画を実施し、親子割引・親子特別先行販売を行った。

＜本館＞

- ・「夏祭セット割」券を販売し、9 月歌舞伎公演・文楽でジャンルを超えた誘客を試みた(9 月歌舞伎、9 月文楽。販売実績 2,545 枚)。
- ・代替劇場の周辺地域や演目ゆかりの地に割引クーポンチラシを配架した(販売実績 76 枚)。
- ・初春歌舞伎公演で、仮設花道の真正面に当たる 1 階席 4 席を「花道正面席」として、特製ブロマイド特典付きで販売し、特別感を演出した(全日完売)。

＜演芸場＞

- ・継続的に行っているスタンプラリーについて、8 月公演より期限を従来の倍の 1 年間に延長とし、カードも一新させて、リニューアルキャンペーンをホームページ、X(旧 Twitter)、チラシ、ポスター等で周知し、リピーター客の増加に努めた(国立演芸場寄席公演)。

＜能楽堂＞

- ・国立能楽堂ショーケースの同一等級の座席を 2 枚以上同時購入の場合に割引となる「お誘い割」を実施した(4 月・7 月・10 月・12 月ショーケース。販売実績 261 枚)。

＜文楽劇場＞

- ・幕見席を販売した(4 月文楽公演第 1 部・第 2 部、夏休み文楽特別公演第 2 部・第 3 部、11 月文楽公演、初春文楽公演。販売実績 2,498 枚)。
- ・「開演後割引」を実施した(4 月文楽公演第 2 部・第 3 部、夏休み文楽特別公演第 3 部、11 月文楽公演第 2 部、初春文楽公演第 2 部・第 3 部。販売実績 505 枚)。
- ・第 1 部、第 2 部同時購入による通し割引を実施した(11 月文楽公演(2 部制)。販売実績 1,488 枚)。また、11 月文楽公演の第 1 部と第 2 部を通しで購入し、かつ初日から 7 日間のうちに観劇した観客に限ってクリアファイルをプレゼントする企画を実施した(合計 750 枚配布)。
- ・11 月文楽公演をインターネットで購入した NTJ メンバーを対象に、初春文楽公演第 2 部 1 等席を 10%割引で販売した(販売実績 107 枚)。
- ・ローソンチケットと提携し、特典付き(舞台見学及びお土産)のチケットを販売した(9 月特別企画公演)。
- ・チケットぴあと提携し、特典付き(人形解説またはお土産)のチケットを販売した(4 月文楽公演、夏休み文楽特別公演、初春文楽公演)。
- ・大阪市立図書館利用者に対して、図書館利用カードの提示による文楽公演入場料の割引を行った。
- ・団体以外の顧客、近隣商店街、ホテル、新規勧誘団体などに対する特別価格キャンペーンを実施した(4 月文楽公演、夏休み文楽特別公演、11 月文楽公演、初春文楽公演。販売実績 174 枚)。

＜おきなわ＞

- ・「2 日通し券」を販売した(4 月琉球舞踊公演「うりずんの舞」、6 月琉球舞踊公演「新進男性舞踊家の会」、1 月琉球舞踊公演「男性舞踊家の会」、2 月琉球舞踊公演「琉球舞踊特選会」)。
- ・開場 20 周年記念として友の会入会キャンペーン・紹介キャンペーンを実施した(令和 6 年 1 月～12 月)。

＜新国立劇場＞

2024/2025 シーズンセット券を販売した(オペラ公演。販売実績 13,113 枚)。

- ・クラブ・ジ・アトレ会員と賛助会員を対象とした「バレエ&ダンス 郵送申込シード権」による優先販売を行った(バレエ・現代舞踊公演)。

- ・子ども向けのパレエ公演と現代舞踊公演を組み合わせた「夏のこども劇場セット」を販売した(こどものためのパレエ劇場 2024「人魚姫～ある少女の物語～」、現代舞踊「新版・NINJA」。販売実績 189 セット、378 枚)。
- ・演劇「デカログ」のセット券を販売した(販売実績 1,176 セット、5,073 枚)。
- ・2024/2025 シーズン演劇 開幕 3 作品通し券(「ピローマン」「テーバイ」「白衛軍 The White Guard」)を販売した。(619 セット、1,857 枚)
- ・演劇公演において、将来の演劇界を担う劇団研究生向けの特別優待割引販売(ユース・アクターズ・プラン)を実施した。
- ・オペラ「椿姫」「コジ・ファン・トゥッテ」の両公演チケット購入者に対し、ギフト券等が抽選で当たる新年度オペラ W 観劇キャンペーンを実施した。
- ・パレエ「くるみ割り人形」で 1 月公演を 3 回公演以上購入した購入者に対し、オリジナルカードを贈呈するプレゼントキャンペーンを実施した。また、1 月 1 日～3 日公演の来場者に対して、抽選で賞品が当たるプレゼントキャンペーンも実施した。

⑤ 公演内容に応じた営業活動の展開、旅行代理店・ホテル等との連携強化

(a) 訪問、メール、DM 等による営業活動

<各館共通>

- ・訪問・メール等による団体営業を行った。
- ・ホームページ、SNS、外部のプレスリリースサービス等に団体観劇に関する案内を掲出した。
- ・チラシ・ポスターの配布による観客勧誘を行った。

過去に利用実績のある団体や利用見込団体等に対して公演情報 DM を定期的に送付した(本館 10 回 30,617 件、演芸場 1 回 229 件、能楽堂 2 回 236 件、文楽劇場 6 回 3,366 件、おきなわ 12 回 4,800 件、新国立劇場 1 回 809 件)。

<本館>

- ・既存団体の繋ぎとめ・掘り起こし及び新たな観客層の開拓を図るため、イヤホンガイド・プログラムセットなどの各種団体向けプランを販売した(販売実績 1,749 枚)
- ・団体の幹事やホテル・旅行代理店の担当者を対象として、代替劇場公演の観劇体験がセットになった団体向け利用説明会を開催し、団体利用の促進を図った(4 回実施。参加者数 94 名)。実施に当たっては、DMO 丸の内およびコンシェルジュ協会の広報面での連携協力を得た。

<能楽堂>

- ・中央区銀座のマリオットグループホテル「アロフト東京銀座」のロビーにて、訪日外国人宿泊客を主な対象に英語通訳付きの能のワークショップを開催し、令和 7 年度国立能楽堂ショーケース公演を周知した。

<演芸場>

- ・団体の幹事に対して、公演期間中に会場下見を兼ねた鑑賞を案内した。

<おきなわ>

- ・修学旅行向けのホームページを更新し、沖縄観光コンベンションビューローの観光情報サイト中の国立劇場おきなわのページを更新した。公益財団法人日本修学旅行協会のホームページでも学校団体向けの鑑賞教室を紹介した。

(b) 学校団体や若年層を対象とした営業活動

<各館共通>

- ・学校等に対して 6 年度鑑賞教室の案内 DM を送付した(本館 11,716 件、能楽堂 843 件、文楽劇場 2,186 件、おきなわ 898 件)。
- ・親子を対象とする公演について、学校・地方公共団体等を通じて生徒・児童にチラシを配布した(本館 122 万枚、能楽堂 34 校 680 枚、文楽劇場 278,390 枚)
- ・7 年度鑑賞教室の案内 DM を送付した(本館 13,884 件、能楽堂 844 件、文楽劇場 2,190 件、おきなわ 575 件、新国立劇場 1,684 件)。
- ・7 年度鑑賞教室の団体鑑賞申込み受付を開始した。

<本館>

- ・学校向け修学旅行情報誌に団体鑑賞の案内を掲載した(6 月歌舞伎鑑賞教室、7 月歌舞伎鑑賞教室)。
- ・29 歳以下のあぜくら会員、NTJ メンバーを対象にした「U29 割引」券を販売した(6 月歌舞伎鑑賞教室、9 月歌舞伎公演、9 月文楽鑑賞教室、初春歌舞伎公演、2 月文楽公演。販売実績枚 86 枚)。

<能楽堂>

- ・8/3・24 企画公演「親子で楽しむ能の会・狂言の会」特別チラシを作成し、渋谷区内の小学校 21 校、中学校 13 校の学校長宛に送付した。

<文楽劇場>

- ・大阪市経済戦略局が鑑賞費用を負担する「青少年のための文楽鑑賞教室」について、大阪市立小中学校(418件)に対し事業を周知した。
- ・大阪市と連携し大阪市内在学の公立学校の児童・生徒に対し「夏休み親子ペア文楽鑑賞優待事業」(大阪市主催)を実施した。
- ・親子劇場の実施に際して、大阪市立中央図書館とタイアップし「図書館で“観る”文楽 2024 展」を開催した(7/19～8/14)。また、文楽公演入場料の割引(大阪市立図書館利用者に対してカード提示割引)を行った。

＜おきなわ＞

- ・普及公演について、沖縄県教育委員会の後援を得て学校団体に団体鑑賞の募集を行った。
- ・外部の情報サイトで学校団体向けの普及公演の告知を行った。
- ・県内の放課後児童クラブ・自治会等に対して公演情報 DM を定期的に送付した。
- ・沖縄芝居鑑賞教室「松の精」について、観劇する学校団体等に対し、貸切バス費用の助成を実施した。

＜新国立劇場＞

- ・高校生のためのオペラ鑑賞教室 2024「トスカ」に際して、鑑賞校へレクチャー教材(動画映像)を提供した。
- ・首都圏大学宛てに新国メンバーズ入会(U25)を促進するために入会案内チラシの DM を発送し、各大学での配布協力を依頼した(458 件)。
- ・こどものためのバレエ劇場 2024「人魚姫～ある少女の物語～」、森山開次「新版・NINJA」では、渋谷区教育委員会、東京都公立小学校長会、東京私立初等学校協会の後援名義を取得し、対象となる小学校へチラシを配布した。

(c) 外国人を対象とした営業活動

- ・詳細は「(c) 外国人に対する情報発信の効果的な実施、より効果的な情報発信を行うための検討」に記載。

(d) 旅行代理店、ホテル、地方公共団体等との連携による営業活動

＜各館共通＞

- ・ホテル・観光案内所に対して公演案内の DM を定期的に送付した(本館 772 件、おきなわ 1,140 件)。
- ・旅行代理店に対して公演案内の DM を定期的に送付した(本館 1,094 件、新国立劇場 643 件)。

＜本館＞

- ・代替劇場公演の開催地域の地方公共団体・文化団体との連携により住民向けのチケット販売を行った(計 2,092 枚)。
- ・代替劇場公演の開催地域の地方公共団体・文化施設(図書館等)との連携により関連施設等にチラシ・ポスターを掲出した。
- ・旅行代理店等の運営する国内外でのチケット販売について、取扱先を増加して販売網を拡充し、前年度より販売枚数を伸ばした(販売実績 443 枚、5 年度販売実績 383 枚)。
- ・株式会社エイチ・アイ・エスとの連携事業として、国立劇場バックステージツアーと初春歌舞伎観劇をセットにしたバスツアーを実施した(145 名)。

＜能楽堂＞

- ・令和 6 年度日本博 2.0 事業(委託型)にて採択された、出張型体験プログラムの一環として、外国人宿泊客の多いホテルアロフト東京銀座にて、シテ方金春流能楽師山井綱雄他によるミニ公演(3/21)を行った(参加者数約 50 名)。

＜文楽劇場＞

- ・文楽劇場近隣のホテルのコンシェルジュ等に、宿泊客へのご案内、チラシ・ポスターの配架・掲示の提携を依頼した。
- ・Osaka Metro と連携し、1 日乗車券の提示による観劇チケットの割引を実施した。

＜おきなわ＞

- ・旅行社と連携し、ホテルやレンタカーと一緒に鑑賞チケットを購入できる仕組みを継続した。
- ・ホテルにチラシを送付するとともに、コンシェルジュ等に宿泊客へのご案内、チラシ・ポスターの配架等を依頼。一部のホテルにおいては、ホテル内のデジタルサイネージで国立劇場おきなわの公演を周知した。
- ・普及公演において、沖縄県教育庁生涯学習推進センターが実施する沖縄県民カレッジの連携講座となり、単位互換をしている「かりゆし長寿大学」へ出向き、朝礼にて直接受講生へ周知をした。

＜新国立劇場＞

- ・モダンラグジュアリーホテル「メズム東京、オートグラフ コレクション」とコラボレーションし、オペラ「魔笛」からインスパイアされた特別なディナープログラムや、観劇をセットにした宿泊プラン等を提供した。

(e) 各分野の特性や公演内容に応じた営業活動

＜各館共通＞

- ・上演目ゆかりの地の地方公共団体・文化施設・観光協会等関係団体に対する営業活動を行った。
 　　◇訪問、DM 発送等による団体勧誘

- ◇ 関連施設やイベント等でのチラシ・ポスターの掲出
- ◇ 劇場ロビーでゆかりの地の自治体等の PR イベントを開催
- ・ 鑑賞の前後に出演者等による演目解説を実施する団体向けサービスを提供した。

<能楽堂>

- ・ 国立能楽堂主催公演を広く周知するため、公演関連イベントや近隣の文化・スポーツ団体、店舗等と連携したイベント等を実施し、外部イベントでも能楽師によるミニ公演等を実施した。

<文楽劇場>

- ・ 上演演目ゆかりの地の自治体、文化施設、観光協会等関係団体に対する営業活動を行った。
 - ◇ 訪問、DM 発送等による団体勧誘
 - ◇ チラシ・ポスターの掲出依頼
- ・ 劇場ロビーでゆかりの地の物産展を開催
 - ◇ 徳島県徳島市(11 月文楽公演)
 - ◇ 兵庫県赤穂市(11 月文楽公演)
- ・ 団体客に対して、技芸員による文楽人形等の実演解説の付帯サービスを提供し、団体集客の増加に努めるとともに、作品の理解を深めることで顧客の定着を図った。

<おきなわ>

- ・ 5 月組踊公演「銘苅子」「女物狂」(5/11)については、母の日の前日であることから、演目が母子の愛を題材としていることに着目した営業活動を行った。
- ・ アジア・太平洋地域の芸能において、出演団体と縁のある団体(民団)あて誘客活動を行った。

<新国立劇場>

- ・ オペラ「フィレンツェの悲劇／ジャンニ・スキッキ」千穂楽公演で、法人向けにホスピタリティプログラム「グランエクスペリエンス」を実施した。

⑥ 大学等を対象とする会員制度「国立劇場キャンパスメンバーズ」の運営等

(a) 「国立劇場キャンパスメンバーズ」

- ・ 会員数：27 校
 - (5 年度より継続加入：27 校)
 - 青山学院大学、大妻女子大学、お茶の水女子大学、学習院女子大学、共立女子大学、学校法人国際共立学園、国士舘大学、実践女子大学・実践女子大学短期大学部、学校法人上智学院、白百合女子大学、清泉女子大学、国立大学法人総合研究大学院大学、玉川大学、津田塾大学、東京アニメーションカレッジ専門学校、東京学芸大学、東京藝術大学、東京工芸大学、学校法人東京国際大学、獨協大学、二松学舎大学、日本大学、日本女子大学、文京学院大学、法政大学、武蔵野音楽大学、明治学院大学
 - (6 年度より新規加入：0 校)
- ・ 利用枚数：計 1,370 枚(歌舞伎 907 枚、文楽 196 枚、短期 3 枚、演芸 133 枚、能楽 131 枚)
- ・ イベント及び提携・協力事業：
 - ◇ キャンパスメンバーズ/足立区 6 大学連携イベント「はじめての文楽 in 北千住」(5/14、参加者数 9 名)
 - ◇ 9 月歌舞伎公演プレゼント(参加者数 17 名)
 - ◇ 初春歌舞伎公演プレゼント(参加者数 25 名)
 - ◇ お茶の水女子大学共同プロジェクト「日本の伝統芸能」講座

(b) 新国立劇場大学連携協力協定

- ・ 協定締結校：12 校
 - 東京藝術大学、学校法人武蔵野音楽学園(武蔵野音楽大学)、国立音楽大学、東京音楽大学、大阪音楽大学、桐朋学園大学、北海道教育大学、昭和音楽大学、学校法人洗足学園(洗足学園音楽大学)、東京学芸大学、東邦音楽大学、学校法人東京医科大学

イ 個人を対象とする会員向けサービスの提供・充実

(a) 会員数

区分	会員数	対前年度末増減 (A-B)	今年度入会者数 (A)	今年度退会者数 (B)
あぜくら会	14,173 人	△ 1,056 人	320 人	1,376 人
文楽劇場友の会	7,482 人	△ 235 人	248 人	483 人
国立劇場おきなわ友の会	1,430 人	+ 5 人	606 人	601 人
クラブ・ジ・アトレ	12,407 人	+ 305 人	1,247 人	942 人

(b) 会報誌の発行

区分	発行回数	実績
あぜくら会	12 回	「あぜくら」を毎月 2 日に発行
文楽劇場友の会	6 回	文楽本公演に合わせて「友の会会報」を発行
国立劇場おきなわ友の会	4 回	「国立劇場おきなわ友の会会報」を 6、9、12、3 月に発行
クラブ・ジ・アトレ	12 回	「ジ・アトレ」を毎月発行

(c) 会員向けイベント

区分	実施回数	参加者数
あぜくら会	4 件	175 人
文楽劇場友の会	4 件	751 人
国立劇場おきなわ友の会	3 件	323 人
クラブ・ジ・アトレ	11 件	381 人

＜文楽劇場友の会＞

- ・一定数以上の公演のチケットを購入した会員へ記念品を贈呈する「文楽公演観劇ラリー」を実施した。

＜おきなわ友の会＞

- ・開場 20 周年を記念し、新規会員の入会を促すことを目的として、令和 5 年 11 月から令和 6 年 12 月まで、入会金 0 円キャンペーン及び紹介者キャンペーンを実施した。また、令和 7 年 1 月から 3 月末まで、紹介での入会が入会金 0 円になる「新春ご紹介キャンペーン」を実施した。
- ・会員と演者との交流イベント「ザ・談会 Vol.5」を実施した。

＜クラブ・ジ・アトレ＞

- ・三井住友カードの協力を得て、バレエ「くるみ割り人形」公演開始からオペラセット券優先販売期間中にあたる 12 月～3 月にかけて入会キャンペーンを実施し、会員募集に努めると同時に、カード利用促進キャンペーンを行った。

(d) 会員向けサービスの充実**＜あぜくら会・文楽劇場友の会＞**

- ・振興会ホームページ内に会員専用ページを作成し、各種情報や会報を掲載した。

＜文楽劇場友の会＞

- ・新規入会者に公演プログラム引換券(1 冊分)と文楽劇場オリジナルグッズ引換券をプレゼントした。

＜クラブ・ジ・アトレ＞

- ・シーズンセット券については、2024/2025 シーズンオペラセット券を 2024 年 3 月より、10～15%の割引価格にて優先的に販売した。2025/2026 シーズンオペラセット券についても、2025 年 3 月より同様に販売を行っている。
- ・バレエ公演・現代舞踊公演において、過去の購入実績に基づき優先的に購入できる「バレエ&ダンス 郵送申込シード権」を引き続き実施した。
- ・会員サイト上で会報誌を講読できるサービスを提供した。

(e) アンケート調査等**＜おきなわ友の会＞**

- ・会員向けイベント「ザ・談会」でアンケートを実施した。

＜クラブ・ジ・アトレ＞

- ・今後の運営に活用するため、公演アンケートやポイントアップサービス等を通じて、各種サービスに対する会員の興味・関心の把握に努めた。

2-(7) 劇場施設の使用効率の向上等

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(7) 劇場施設の使用効率の向上等

- ア 各種事業の日程をより効率的に設定するなど劇場施設の使用効率の向上
鑑賞機会の増加を図る観点から、主催公演等の実施のほか、伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を積極的に貸与
- イ 利用方法、空き日情報等をホームページ等により提供
利用者に対するアンケート調査等を活用したサービスの向上に努め、一層の利用促進を図る
- ウ 再開場後の新劇場の施設使用料金等について検討
- エ 振興会が有する各劇場の相乗効果を最大限に発揮するため、各劇場及び各公演の連携協力を強化、効果的な運営を実施

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(7) 劇場施設の使用効率の向上等

- ア 劇場施設の使用効率の向上を図るとともに、伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を積極的に貸与
- イ 各施設の利用促進を図るため、次の取組を実施
 - ①各施設の設備等の概要、利用方法及び空き日等の情報をホームページへ掲載
 - ②パンフレットやダイレクトメールによる広報
 - ③利用希望者に対する説明・見学等の機会を設け、劇場利用者の増加に取り組む
 - ④利用者に対しアンケート調査を実施、その調査結果を踏まえたサービスの充実
- ウ 他の劇場施設等の利用方法、利用料金等の調査、調査結果の検討・活用
- エ 振興会が有する各劇場の相乗効果を最大限に発揮するため、各劇場及び各公演の連携協力を効果的に実施
- オ 国立劇場等の再整備期間中は施設利用者向けのサービス継続のため、情報提供及び技術協力等の斡旋、稽古室等の貸出を実施

ア 劇場施設の使用効率の向上、積極的貸与

劇場	主催公演・養成 研修等使用日数 (A)	貸劇場使用日数 (左記使用日との重複除く) (B)	稼働日数 (C)=(A)+(B)	使用可能日数 (D)	劇場稼働率 (C)/(D)	前年度 劇場稼働率
本館大劇場(閉場)	-	-	-	-	-	96.2%
本館小劇場(閉場)	-	-	-	-	-	91.2%
演芸場(閉場)	-	-	-	-	-	96.3%
能楽堂	124 日	152 日	276 日	295 日	93.6%	88.7%
文楽劇場	163 日	73 日	236 日	308 日	76.6%	75.1%
文楽劇場小ホール	58 日	86 日	144 日	262 日	55.0%	57.2%
国立劇場おきなわ大劇場	143 日	62 日	205 日	297 日	69.0 %	67.0%
国立劇場おきなわ小劇場	34 日	91 日	125 日	306 日	40.8%	48.8%
伝統芸能分野 合計	522 日	464 日	986 日	1,468 日	67.2%	75.2%
新国立劇場オペラ劇場	252 日	31 日	283 日	288 日	98.3%	97.8%
新国立劇場中劇場	71 日	260 日	331 日	334 日	99.1%	95.4%
新国立劇場小劇場	199 日	103 日	302 日	304 日	99.3%	98.4%
現代舞台芸術分野 合計	522 日	394 日	916 日	926 日	98.9%	97.1%
総 合 計	1,044 日	858 日	1,902 日	2,394 日	79.4%	82.1%

※劇場稼働率＝稼働日数／使用可能日

稼働日数：主催公演等使用日＋養成研修使用日＋貸劇場使用日（主催公演・養成事業等使用日との重複除く）

主催公演等使用日・養成研修使用日は、稽古・仕込・業務使用等を含む。

使用可能日：365 日－（休演日＋保守日＋調整日）

※主催公演・養成研修等使用日数は、稽古・仕込・業務使用等を含む。

※使用可能日数：365 日－（休演日＋保守日＋調整日）

※主催公演等での使用と貸与とが重複する日は、劇場稼働率の算出において貸劇場使用日は 0 日として計上されるため、重複日分については、実際に貸与した日数が増加した場合でも劇場稼働率は上昇しない。

イ 各施設の利用促進を図るための取組

① ホームページへの掲載

- ・各館ホームページに利用案内及び使用可能日を随時掲出するなど、広報の充実を図った。
- ・（おきなわ）企業や行政関係者等を対象とした劇場利用案内をホームページに掲出し、利用促進を図った。

② パンフレットやダイレクトメールによる広報

- ・施設使用実績のある団体等に対し、定期的に DM 発送を行い、周知に努めた
- ・劇場内（ロビー・楽屋等）、執務室等に施設利用に関する案内を設置した。過去の劇場利用者へ利用案内を予約申込書とともに DM で送付した（能楽堂：88 件、文楽劇場：222 件、国立劇場おきなわ：525 件、新国立劇場：121 件）。
- ・国立劇場稽古室の申込受付案内 DM を送付した（国立劇場：935 件）。

③ 利用希望者に対する説明・見学等

- ・利用希望者には随時、申込手続きの説明や施設・設備の見学を行い、劇場利用者の増加に努めた。
- ・（文楽劇場）マスコミ関係・専門学校・企画会社への DM、関西経済連合会・大阪商工会議所への協力依頼によって広く参加者を募集し、施設見学会を実施して施設の説明及び公演以外での利用も含めた案内を行った。（参加者数 10/15・18：10 名）

④ 利用者に対するアンケート調査、調査結果を踏まえたサービスの充実

- ・各種事業の日程をより効率的に設定するなど、劇場使用効率の向上を図った。
- ・施設利用者に対してアンケートを実施した。施設・スタッフの対応いずれも良好との回答であった。
- ・（能楽堂）貸劇場公演の際、主催者と協力して発案した特別メニューをレストランで提供することにより集客につながった。
- ・（おきなわ）利用者に対するサービスや利便性の向上に資する取組を行った。
 - ◇国立劇場おきなわ施設使用予約システム（通称：稽古室使い隊！）の運用による稽古室等の予約の 24 時間受付
 - ◇LINE での連絡による名簿の受付及び予約確認・変更等
 - ◇現金及び銀行振込の他、クレジットカード及びコンビニでの使用料支払いに対応

◇稽古室の夜間利用

《アンケート結果》

劇 場	配布数	回収数	回答数	満足数	回収率	満足回答率
能楽堂	64 件	23 件	23 件	22 件	35.9%	95.7%
文楽劇場	94 件	47 件	46 件	46 件	50.0%	97.9%
国立劇場おきなわ	81 件	25 件	25 件	24 件	30.9%	96.0%

ウ 他の劇場施設の利用料金等の調査

- ・他劇場の利用方法・利用料金等について調査・検討を行い、施設貸与業務に活用するとともに、国立劇場再整備後の使用料を検討した。

エ 各劇場の相乗効果を発揮するための連携協力

- ・各劇場で相互に公演チラシ等をロビーに掲出し、公演周知に努めた。
- ・新国立劇場での国立劇場公演の開催に伴い、両劇場の公演案内を相互の会員向けにメールマガジンで送信し、公演周知に努めた。

オ 再整備期間中における施設利用者向けのサービス継続等

- ・国立劇場等の再整備期間中は施設利用者向けに継続してサービスを行うために、伝統芸能公演を実施するための相談窓口を設けて情報提供及び舞台技術職員等の派遣による技術協力を行った。

◇相談窓口の対応

- 劇場ホール情報の紹介、伝統芸能公演を実施するにあたっての様々な内容の相談、舞踊邦楽実演家・劇団等からの美術・技術協力依頼への事前相談等に対応した。

◇技術協力

- 文化庁・公益社団法人全国高等学校文化連盟からの依頼により「全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演」への舞台技術職員の技術協力を行った。それに先立ち、岐阜県で開催された全国高等学校総合文化祭へ事前視察派遣を行った。
- 舞踊家個人からの依頼により、日本舞踊リサイタルへ背景パネルデザイン作成の美術協力を行った。

- ・本館稽古場・研修室等の貸与を実施した。

2 - (8) 日本博の運営・実施

《中期計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(8) 日本博の運営・実施

「日本博 2.0」の企画・実施等における中心的な役割を担う事務局を運営し、ユーザー目線でコンテンツを磨き上げる取組や、来場者のアクセスの向上・改善に向けた取組等を支援するとともに、戦略的なプロモーションを通じて、国内外の観光需要の回復や地域の文化資源の活用による体験滞在の満足度向上等に資する戦略的広報・事業活動等の支援等に寄与する取組を図る。

《年度計画の概要》

2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(8) 日本博の運営・実施

令和 5 年度の日本博事業の成果や検証結果を踏まえるとともに、大阪・関西万博が次年度に開催されることを意識した上で、「日本博 2.0」の事務局を運営し、委託型・補助型・参画型の企画・実施、効果検証、戦略的なプロモーション等を通じて、国内外の観光需要の回復や体験滞在の満足度向上等による地方誘客を図る

ア 「日本博 2.0」の基本コンセプトの下で、年間を通してインバウンド需要に的確に応えていくため、「最高峰の文化資源の磨き上げによる満足度向上事業」(委託型・補助型)を実施

- ① 委託型・補助型の公募を行い、日本芸術文化振興会審査・評価委員会による評価等を得て採択
- ② 採択団体に対し、契約、支払、助言・指導、モニタリング、効果検証のための各種調査等を実施

日本博採択事業の来場者満足度:採択時に設定した目標値に達した事業の割合が 3 分の 2 以上

イ 「日本博 2.0」の基本コンセプトに合致し、国内外に発信するのにふさわしい団体等を参画型として認証

ウ 「日本博 2.0」の採択事業(委託型・補助型のほか、文化庁において採択したものを含む)及び参画型について、戦略的なプロモーションを一体的に企画・実施、国内外の観光需要の回復や地方誘客に取り組む

エ 各事業やプロモーションの効果検証結果をもとに、「日本博 2.0」の成果を分析・考察

ア「最高峰の文化資源の磨き上げによる満足度向上事業」の実施

○委託型・補助型事業

日本博 2.0 は、採択事業者に事業を委託・補助することにより、2025 年大阪・関西万博を契機として日本全国を訪れるインバウンドを増加し、その滞在時間を延ばし、繰り返し訪問いただくことを主な目的としている。事業実施期間は令和 5 年度から令和 7 年度までの 3 年間としているが、審査は各年実施し、事業者を採択している。

① 委託型・補助型の公募を行い、審査・評価委員会による評価等を得て採択

《令和 6 年度採択事業(委託型・補助型)の採択状況》

採択事業	企画提案・応募件数	採択件数	交付金額
委託型	71 件	62 件	3,200 百万円
補助型	25 件	16 件	344 百万円
合計	96 件	78 件	3,544 百万円

※振興会事業の採択件数：委託型 3 件。なお、令和 5 年度採択事業：委託型 37 件及び補助型 11 件。

- ・令和 6 年度採択事業については、事業者の公募を行い、企画提案書(補助型の場合は補助金要望書)を提出した事業者に関し日本芸術文化振興会審査・評価委員会が審査・評価を経て採択を行った。

② 採択団体に対し、契約、支払、助言・指導、効果検証のための各種調査等を実施

- ・採択事業者が採択事業を実施するに当たって、外国人来場者数及びその満足度目標並びに評価基準を設定し、その成果を採択事業者自身が適切に測定し検証できるよう、令和 6 年度から新たに事業のロジックモデル構築・効果検証を可視化した「効果検証計画書」及び「効果検証報告書」の作成・提出を各事業者に義務とした。
- ・「精算の手続き」を配布するとともに、採択事業者を対象とした説明動画をあわせて公開した。事業者における事業の適切な実施及び円滑化を図った。
- ・採択事業者が自ら日本博 2.0 としてふさわしい事業を実施したか効果を検証できるよう、専門家の協力を得ながら、来場者満足度測定調査の内容や実施手法などに対し助言を行った。

《令和 6 年度採択事業(委託型・補助型)の来場者満足度に関する目標値達成状況》

採択事業	実績(b) (採択時に設定した来場者満足度に関する目標値を達成した事業数)	目標指標(a) (採択事業数の 3 分の 2)	達成率 (b/a)
委託型	50 件(全 62 件)	41 件	122%
補助型	13 件(全 16 件)	11 件	118%
合計	63 件(全 78 件)	52 件	121%

- ・個々の採択事業の来場者満足度は、採択事業者が採択時に自ら設定した目標値を上回ることによって達成されることで目標が達成されるものと設定している。これらの結果を基に、日本博採択事業の来場者満足度は 3 分の 2 以上と目標指標を設定しており、令和 6 年度における達成率は 121%と大幅に上回った。

(参考)令和 6 年度の日本博採択事業の来場者満足度

$$\text{目標達成事業者数 } 63 \text{ 件} / (\text{採択事業者数 } 78 \text{ 件} \times 2/3) = 121.2\%$$

③ 伴走型支援の実施

- ・効果検証計画書の作成段階から担当者が通年で助言を行うとともに、効果検証の専門家からも必要に応じて直接助言する仕組みを構築した。これらの助言は、外国人来訪者満足度を測定するアンケート調査の内容や実施手法などに関し、メール・電話等で行ったほか、展覧会・公演等の主要な取組が実施される機会に担当者が現地に赴いて、外国人来訪者への対応状況や反応等を直接確認し、事業の方向性や改善すべき点、将来の展望に関し、対面で意見交換する形式でも実施した。
- ・プロモーション業務の一環として、国内大手旅行業者の助言を受けながら、7 団体の採択事業者を対象に現地視察やオンラインでの指導・助言を含む旅行商品企画・実施に向けた伴走型支援を行った。
- ・日本最大の旅行商談会 VISIT JAPAN Travel & MICE マートで令和 5・6 年度に商談した海外の旅行会社 73 社に対し、採択事業をベースに企画した商品や採択事業者が情報提供した商品を中心に、文化と自然を楽しめるプラン、伝統芸能を味わえるプラン、ポップカルチャーを体験するプランなど様々な切り口のメールマ

ガジンを送付した。関心を示すバイヤーへ熟練の担当者がフォローし、海外の旅行会社が得意先に販売できるよう取り組んだ。その結果、旅行会社1社において商品取扱いが開始されたほか、香港・アイルランドからの団体旅行の受入れが実現した。

④ その他

- ・2025年大阪・関西万博において、令和6年度採択事業者のうち6事業者が省庁連携催事として事業実施を予定しているため、博覧会協会や事業者とのオンライン打合せ及び現地視察を実施した。

《令和7年度採択事業(委託型・補助型)の採択状況》

採択事業	企画提案・応募件数	採択件数	交付金額
委託型	82件	67件	3,576百万円
補助型	29件	15件	342百万円
合計	111件	82件	3,918百万円

※振興会事業の採択件数：委託型3件

- ・令和7年度の公募概要を年末に公開し、採択事業者に加え新規事業者からの応募相談へ対応した。委託型・補助型ともに1/10～1/30にかけて提案受付及び応募受付を行った。
- ・日本芸術文化振興会審査・評価委員会を経て、令和7年度採択事業を上記のとおり決定し、各事業者へ採択・不採択通知を行った。

イ 参画型の認証

《令和6年度認証件数》

採択事業	認証件数
文化施設・団体等	8件
プロジェクト	235件

※振興会事業の認証件数：文化施設・団体等4件(令和5年度認証済み)、プロジェクト149件

- ・参画型は、2025年大阪・万博に向けて国外に発信するにふさわしいプロジェクトや文化施設を認証し、日本博のロゴマークを付与することにより、日本博2.0に参画いただき、日本博2.0事業と連携した一体的なプロモーションを行っている。
- ・「日本博2.0」参画型認証要領に基づき、申請事業の認証手続き及び問合せ対応を実施した。

ウ 戦略的なプロモーションの実施

《日本博公式ホームページ》

区分	件数	前年度実績
日本博公式 HP 閲覧数	1,361,916PV (1,229,736PV)	441,986PV (239,916PV)
日本博 HP アクセスユーザー数	842,117件 (794,966件)	232,765件 (169,531件)

※PV:ページビュー

※()内は海外からのPV数・アクセス件数

- ・日本博公式ホームページについて、美術ライター橋本麻里氏による日本文化の解説記事、外国人ライターによるモデルルート記事等、インバウンドのニーズに沿った新規記事を30本公開した。
- ・ホームページへ誘導するSNS広告、Web広告を海外ユーザー向けに配信を継続した。昨年度は計81日の期間限定でデジタル広告を行ったが、令和6年度は同額の予算でさらに効率的に海外からの認知を獲得するため、6月より通年で広告することにし、閲覧数等のアクセスデータを精緻に分析し、掲出画像や掲出先の国の設定等を常に調整しながら公式ホームページへの誘導を図った。
- ・この結果、令和5年度同時期と比較し、海外からの閲覧数は約5.1倍、アクセスユーザー数は約4.7倍と大幅に増加した。平均滞在時間も着実に伸びていることから、興味関心をもつユーザーを一定程度獲得していると考えられる。

《SNS フォロワー数》

区分	Facebook	Instagram	YouTube
日本博	83,101 (△1,517)	18,495 (+4,247)	6,090 (+450)

※()内の数値は前年度からの増減。

- ・Instagram での英語発信をメインとして、日本博公式ホームページで公開している特集記事や文化資源の紹介を実施した。投稿の主流であるリール動画、ストーリーズの作成も強化した。
- ・特に Instagram については、重点ターゲットとする欧米豪のユーザーが多く、順調にフォロワー数を伸ばしている(前年度同時期比+4,247)ことから、11 月末より X(旧 Twitter)を廃止し Facebook・Instagram・YouTube に集約することとした。

《JNTO との連携》

- ・日本政府観光局(JNTO)と広報面での連携を継続していくこととし、「Visit Japan Web」への記事掲載、メールマガジンにおける日本博の紹介を実施した。

《その他》

- ・文楽海外公演とタイアップし、日本博公式 SNS での情報発信・公演会場での「日本博 2.0」コンセプトムービーの上映、日本の伝統芸能の鑑賞を案内するチラシ配布(5,000 部)等のプロモーション活動を展開した。
- ・インバウンド向けタブロイド紙「ArtsJP」を JNTO 認定観光案内所及び東京国立博物館など採択事業者の運営する施設等にて配架・配布したほか、海外で日本の情報を求める層への発信となるよう、ニューヨークのジャパン・ソサエティやワシントン DC、ロンドン等の独立行政法人日本学術振興会海外研究連絡センターを通じ、来日可能性の高い親日家や研究者等への配布を行った。
- ・イギリスを代表する美術館の一つ Victoria & Albert Museum で、現代アート作家村上隆氏によるトークイベントを開催し、伝統の技に裏打ちされた、創造性のあふれる日本美術の魅力を発信した。会場には鈴木駐英国日本国大使をはじめ約 250 名、オンラインでは約 150 名が参加し、その様子はイギリスおよび日本のメディア(Artnet、美術手帖等ほか 65 誌)に掲載された。美術館との密な連携の下、イベントを実施できたことにより、Victoria & Albert Museum の会員向けウェブマガジン(100,000 配信)及び、公式ウェブサイト(1,200,000 閲覧)においてもイベント告知がなされた。また、英国の有力なインフルエンサー 2 名からの発信を通じ 33,607 人のフォロワーに日本博を周知した。

エ 効果検証結果に基づく「日本博 2.0」の成果の分析・考察

- ・「日本博 2.0」の全体成果を検証できるよう、採択事業者が実際に行った取組を記載する「効果検証報告書」の様式を策定し、来場者数等の詳細なデータを記載する「実績報告フォーム」とあわせて採択事業者に送付し、令和 6 年度の採択事業が終了次第、全体効果の分析を開始できるよう準備を行った。なお、令和 7 年度の日本博事業の公募においては、効果検証報告書の暫定版を申請書類の一部とすることとし、次年度も継続して実施を希望する事業者については、PDCA サイクルを回して事業実施ができていくかについても、評価対象とした。

《その他》

- ・事業実施にあたって参考となるような情報・知見を提供する「オンラインセミナー」を配信した。
 - ◇第 1 回：日本博 2.0 の効果検証の留意点～効果検証計画の記載結果を基に～
 - ◇第 2 回：令和 5 年度の効果検証の結果と来場者アンケートの国籍別の分析結果
 - ◇第 3 回：アンケート集計・分析編
- ・参画型は、2025 年大阪・万博に向けて国外に発信するにふさわしいプロジェクトや文化施設を認証し、日本博のロゴマークを付与することにより、日本博 2.0 に参画いただき、日本博 2.0 事業と連携した一体的なプロモーションを行っている。
- ・「日本博 2.0」参画型認証要領に基づき、申請事業の認証手続き及び問合せ対応を実施した。